

2024年度 年 報
—自己点検・評価報告書—

天使大学 看護栄養学部
天使大学大学院看護栄養学研究科
天使大学大学院助産研究科

自己点検・評価報告書

目 次

1. 教育課程	1
1) 教育課程の運営	1
2) 看護学科	3
3) 栄養学科	7
4) 教養教育科	13
5) 看護栄養学研究科	15
6) 助産研究科	19
2. 学生の受け入れ	22
3. 教育研究組織	29
4. 研究活動・研究環境	31
5. F D S D活動	36
6. 社会貢献	38
7. 国際交流	40
8. 学生生活	41
9. 就職支援	53
10. 図書館	57
11. 情報処理システム	60
12. 施設・設備	62
13. 管理運営	63
14. 財務	65
15. 事務組織	66
16. 自己点検・評価活動	67

1. 教育課程

1) 教育課程の運営

担 当： 教務委員会

本年度の活動目標	ー2024 年度活動計画書からー 1. ディプロマ・ポリシー（D P）達成に向けた教育の展開 2. 学修成果の可視化 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準 4：教育課程・学習成果 ①～③、⑥ （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅲ：看護栄養学部における学習成果の向上及び教育質保証の推進 Ⅲ－1・2
活動内容の評価	1. ディプロマ・ポリシー（D P）到達に向けた教育の展開【中期目標Ⅲ－1】 1) 適正なカリキュラム運用 （1）D P の意識づけの強化 D P の意識づけを強化するために、新年度のオリエンテーション等において、各学科・科の教務委員、学務課員等から学生へD P、卒業要件、進級要件、履修要件、履修登録等の説明を行っている。 （2）試験制度の検討 試験制度については、学事暦編成において、定期試験及び追再試験を組むことが難しいため、科目責任者の判断により、各学科の 16 週目と 17 週目等を利用して定期試験や追再試験に相当する臨時試験等を実施することができる日程とした。 （3）「倫理に反する行為」の注意喚起 学生に対してSNSの使用や倫理観・法令順守を徹底するように教務部長・学生部長の連名による注意喚起を行った。 （4）主要授業科目の制定 主要授業科目の要件を次のとおり定め、2025年度から施行することを機関決定した。 ア）（学科専門科目のみ）文部科学省及び厚生労働省から認可された看護師、管理栄養士又は栄養士養成課程のうち、いずれか1つ以上に該当する指定科目 イ）本学当該学科の卒業要件に係る必修科目又は選択必修科目のうち、カリキュラム・マップのディプロマ・ポリシー1から7までのいずれかへ「主として身につける能力（◎）」の記載がある科目 なお、主要授業科目は、大学設置基準第8条に則り、原則として基幹教員に担当させるものとする。 （5）教養教育科目非常勤講師採用要件申し合わせの改正 大学設置基準に則り、教養教育科目の非常勤講師採用要件の申し合せを教授会及び管理運営協議会に提案し、承認された。 これにより技能系科目（美術・音楽・情報処理・体育）や語学を担当する非常勤講師については、必ずしも博士・修士の学位や研究上の業績は問わないことを明確にした。 （6）履修登録及び成績公表に関する運用の改正 履修登録を学期開始から1から2週間程度後に実施する。また、成績公開時期をシラバスの成績評価欄に記載することへの改正が教務委員会で承認された。 2) 学修支援の強化 （1）授業予定表の早期完成及び公開 学生や教員の要望に応え、今年度から授業予定表の前期分を2月、後期分を9

	月に完成し、早期に公開・配布するようにした。なお、この変更に合わせて時間割表を廃止した。 (2) アクティブ・ラーニングの促進 限られた教室設備の中でアクティブ・ラーニングを促進するために、教員の工夫が必要であることやFD研修の必要性についての意見が出された。また、ティーチング・アシスタント規程の一部改正の検討を行った。 (3) 入学前教育の改善 学生の学力低下、入学者選抜の改正、高等学校教育課程の改訂等を受けて、大学の入学前教育を強化するために、各学科・科の教員で構成する「入学前教育ワーキング」を立ち上げて改善策を検討し、生物、化学に関する解説動画を制作した。また、冊子の送付を廃止し、Google フォームからの回答に改め、双方向による展開を可能とした。 〔自己評価〕 「適正なカリキュラム運用」及び「学習支援の強化」における 2024 年度の活動目標については、できることから検討をし、改善することができた。引き続き 2025 年度についても継続的な取組を行う。 2. 学修成果の可視化【中期目標Ⅲ－2】 1) ディプロマ・ポリシー到達度評価及び改善 (1) 「アセスメント・ポリシーに基づく評価」の見直し アセスメント・ポリシーに基づいて実施する「学生による到達度評価」及び「教員による科目評価」について、現行カリキュラムの完成年度を終了した今年度に見直しの検討を行ったが、評価データの活用の仕方とこれら 2 つのデータの相関を紐づけられるような設問の検討が必要であるために、次年度に継続して検討することになった。 (2) カリキュラム運用の点検 カリキュラム・ルーブリック及びカリキュラムの運用について、各学科・科の教務委員が点検をし、開講科目の学期変更以外の大きな課題はないことを教務委員会で確認した。 〔自己評価〕 アセスメント・ポリシーに係る「学生による到達度評価」及び「教員による科目評価」の活用法や設問の見直しについては結論に至らなかったが、教務委員の中で課題を共有することはできた。次年度は改善できるように検討したい。
次年度への課題	1. 「学生による到達度評価」「教員による科目評価」の点検・見直し 2. 試験実施ルールを検討 3. 入学前教育の充実 ほか

1. 教育課程

2) 看護学科

担 当：看護学科

本年度の活動目標	1. 建学の精神に基づくカリキュラムの実施：DP、新カリキュラムの教育の反映と評価 1) 2020 年カリキュラム完成年度の評価と改善、現行カリキュラムの効果的運用。 ・モデルコアカリ、指定規則改正等を踏まえたカリキュラムルーブリック、科目評価。 ・看護過程、臨床判断能力、地域包括ケアの教育を科目間の積み上げを検討し評価する。 2) <u>カリキュラム評価をふまえ、人口減少時代に対応した新カリキュラムを検討する</u> ・3P、カリキュラムルーブリックの学生への浸透と到達度評価等を活用した改善。 3) <u>理念教育のあり方を考え教員間で共有し、学生に浸透させる効果的な方法の検討</u> ・理念教育の一環としての行事や修養会の意義を確認し学生への浸透を図り支援する ・新入生に自校教育の時間を設定、ホームルームやキャリアデザイン等で理念教育を浸透する。 ・理念教育を授業や日常の関わりで意識的に学生に伝え教員間で共有する機会を設ける 2. 主体性を育てる学生支援の充実：主体的学習のための環境整備と学習習慣の獲得 1) 学生が自身の目標に向かい <u>自主的に学習し、基本的な学習方法、習慣を獲得する</u> ・アクティブラーニングにより、図書館、実習室を活用した主体的学習を促す授業展開 2) <u>キリスト教の人間観に基づく全人的理解を基盤においた臨床判断能力を強化する</u> ・臨床判断能力の基礎となる知識を確実にして積み上げができる学習支援を強化する ・臨床判断能力強化のために授業や演習で積み上げ、モデル活用等での強化を検討する 3) 学習支援と生活支援の役割分担と教員間の連携による学生支援を強化する。 ・学生生活への適応を把握し、ポートフォリオ等を活用したセルフマネジメントの支援 ・健康状態、学習の準備状況を把握し、実習の配慮等の調整を行う。 4) 生涯学習の意識を育てる授業や日々の関わり、卒業生支援を検討する。 3. 教員の教育・研究能力の強化と研究推進の体制づくり 1) <u>研究推進体制強化のための業務の見直し、研究時間の確保、成果の公表の推進</u> ・研修日の利用システムを明確化し、<u>研修日（1日/週）を保証できるように調整する。</u> ・<u>若手教員の育成や研究など指導・支援体制について検討、実施する</u> ・CNS 活動日について情報収集し、システムとして設定できるように検討する。 ・外部研究費、特別研究費などの研究費を各教員、領域等で獲得できるよう支援する。 ・各教員が目標をもち、学会発表、論文投稿、学会の参加など計画的に実施する。 2) 授業参観、アクティブラーニング、ICT 活用等による主体的学習を促す授業の改善 ・アクティブラーニングを実施しやすい環境整備、柔軟に教室活用できる調整をする ・学習効果を高める施設設備品を確認し、<u>長期的な実習室の整備・購入計画の立案</u> 4. 教育指導体制の充実：PDCA サイクルによる学科活動の推進、教育質保証体制構築 1) <u>2024 年看護学教育分野別評価の受審、学科全体での教育課程の評価と改善を行う</u> 2) 博士前後期課程の今後を見据えた教育研究実績の積上げ、将来計画を立案する。 ・博士前期課程の強化、後期課程運営に向けた <u>教員体制の整備、将来計画の明確化</u> ・教員業績評価を活用した教員の目標管理、自己評価による教育研究の質向上、活性化 5. 学生定員確保のための戦略の検討、長期的展望に基づく計画立案、各部署との連携 1) <u>将来ビジョン、長期計画を立案し、本学の特徴をアピールし浸透させる方法の検討</u>
-----------------	--

	(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準4:教育課程・学修成果①～⑦ 基準6:教員・教員組織①～⑤ 基準7:学生支援①～③ (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) Ⅱ教育の質保証体制の構築 4.特色を生かしたカリキュラムの編成・充実 Ⅲ研究業績の向上 Ⅳ教育に関するビジョンの構築
活動内容の評価	1. 建学の精神に基づくカリキュラムの実施：DP、新カリの特徴の教育への反映と評価 1) [活動内容] 2020 年度カリキュラムの評価、DP 到達度評価を踏まえて、各学年のガイダンスにおいて、教育目標、3P、カリキュラムループリックを学生へ伝え、各科目においても DP との関連を意識して伝えた。 [活動内容に対する自己評価] カリキュラム評価を踏まえて DP を浸透できた。<u>看護過程、臨床判断能力について各科目で検討したが、学科全体の積上げを検討する体制づくりの必要</u>がある 2) [活動内容] 新カリキュラムにむけ本学の特徴やアピールポイントを検討した。 [活動内容に対する自己評価] 本学の特徴を検討することができたので、今後、<u>モデルコアカリや看護学科の現状をふまえた看護学科カリキュラムの改善に向けた具体的な検討を行っていく。</u> 3) [活動内容] 理念教育について、各学年で修養会の意義を確認し、学生に伝え企画した。新入生へは、親睦ゼミ、キャリアデザイン、ホームルーム等で理念を学生に伝えた。戴帽式は、学生とともに準備をして壇上でのキャンドルサービスを再開した。 [活動内容に対する自己評価] 修養会、戴帽式の意義を学生と確認し目標に向かい実施できたと評価する。<u>行事参加者の減少について、行事のあり方や周知について検討する</u>必要がある。キリスト教的人間観を授業や日常でどのように伝えるか、学生が理念について考える機会をどのように展開するか、教員相互の学習の機会を検討する必要がある。 2. 主体性を育てる学生支援の充実：主体的学習のための環境整備と学習習慣の獲得 2024 年度卒業生 96 名（前期 1）、就職 69 名、進学 23 名（助産師 15 名、保健師 8 名） 3 月末在籍状況：1 年 103（休学 2）名、2 年 106（休学 2）名、3 年 101（休学 2）名、4 年 99（休学 1）名、除籍 1 年 2 名 国家試験合格者 94 名（合格率 97.9%） 1) [活動内容] 各授業でアクティブラーニングや ICT の活用、課題等により学習時間を増やす工夫をしている。ラウンジや図書館は、試験前等多くの学生が利用している学習効果を高めるために実習室の備品を確認する等、利用しやすい環境整備を行った。 [活動内容に対する自己評価] 主体的学習のための授業は工夫され、<u>自主学習の場は整備されつつあるが、ラウンジ等十分な広さとは言えない。また、狭い教室が多く、アクティブラーニングを展開する環境の整備は課題である。</u><u>学生の主体的学習状況把握の方法を検討する。</u> 2) [活動内容] 全人的理解を基盤にした臨床判断能力を強化するために、電子カルテやモデルを活用し、振り返り等の工夫を行い、意識的に学習を実施させた。

[活動内容に対する自己評価]

各領域に ICT の活用は年々広がり、授業や実習を意識的に展開できた。病態と看護を連動させた効果的な学習、科目設定を学科全体で検討する必要がある。フィジカルアセスメント強化のためのモデルの導入、JANPU-CBT の参加は今後の課題である

3) [活動内容]

支援教員と教務係との協働により、学生の適応を把握し支援を行った。学習や健康状況を考慮して実習を配置した。実習準備状況等を把握し、指導を行った。

[活動内容に対する自己評価]

個別支援は行っているが、実習や科目で単位取得できない学生がいる。また、基本的な学習態度に課題のある学生も少なくない。内発的な学習意欲を育む必要がある

4) [活動内容]

キャリアデザインの授業で大学院や生涯学習の内容を盛り込み、また、大学院生による大学院での学びやキャリアアップについて話してもらう機会を設けた

[活動内容に対する自己評価]

生涯学習の意識を育て、学生に刺激を与えることができたと考える。

3. 教員の教育・研究能力の強化と研究推進の体制づくり

1) [活動内容]

博士後期在学等継続して外部研修が必要な場合は研修日を申請した。

看護学科の 2024 年度科学研究費助成事業申請は 7 件、新規採択 3 件、継続 7 件、合計 10 件が助成を受けた。特別研究費申請は 2 件であった。学会参加や発表は多くの教員が取組んだ。学会のオンライン参加も広がり教員の学びの機会は増加した。

[活動内容に対する自己評価]

授業担当等により異なるが研修日の確保も困難な状況にある。昨年に比べ代休は確保されていた。教育や大学運営等に費やす時間が多く研究時間を確保しにくい状況が続いている。進級や入試判定の学科会議を無くし、委員会と教授会で確認すること等、若手の研究時間を確保する方法を検討したい。CNS 活動日は研修日を優先し、継続検討する。科研の申請は年々増加し採択数も増えてきたことは評価できる。より多くの教員に研究の取組が広がり、論文投稿数が増加することは今後も課題である。

2) [活動内容]

授業参観は 3 件の授業が紹介され、参観することができた。実習室の備品等の確認を行い、今後の購入について優先度を検討した。教室の活用は調整した。

[活動内容に対する自己評価]

学生の主体的学習を促す授業改善に向けて教員相互で学び合う機会を持つことができた。教室が有効に活用できるように、調整しやすい方法の検討を続ける。

4. 教育指導体制の充実：PDCA に基づく学科活動の推進、教育の質保証体制の構築

1) [活動内容]

2024 年度看護学教育分野別評価を受審し、「適合」の評価を受けた。

[活動内容に対する自己評価]

評価項目の事前の検討を踏まえて改善に取り組み、全学の協力の下、検討課題、改善勧告なしで、適合の評価を受けることができたことは評価できる。

2) 2024 年度教員体制は 32 名（教授 8 名、准教授 8 名、講師 7 名、助教 9 名）

博士後期在籍者 5 名。育児休業育児時間 1 名。病休 1 名。成人看護学領域 1 名欠員。

[活動内容]

	2024 年度博士後期課程開設のために大学院の教員 4 名を確保した。 [活動内容に対する自己評価] 成人看護学領域の欠員 1 名、長期病休 1 名の対応ができず、課題となった。 <u>将来を視野にいたった計画的な教員体制の構築、教育研究実績の積上げが必要</u>である。 5. 学生定員確保のための戦略の検討、長期的展望に基づく計画立案と各部署との連携 [活動内容] オープンキャンパスの模擬講義や出張講義は、輪番制により実施できた。 本学のアピールポイントを検討した。応募者増加に向け一般共通試験の面接を廃止した [活動内容に対する自己評価] 学科全体で広報活動に参加できたことは評価できる。入学試験の応募者は、面接の廃止により、昨年よりも大幅に増加した。<u>人口減少社会に対応した将来ビジョン、カリキュラム、本学の特徴を明確に、浸透する方法を全学的に検討する</u>
次年度への課題	1. 建学の精神に基づくカリキュラムの実施：カリキュラムの評価と新カリの検討必要 1) <u>2027 年度新カリキュラム開始に向けて検討し 2026 年 3 月に申請書類を完成させる</u> 2) <u>理念教育のあり方を教員間で共有し、学生に浸透させる効果的な方法を検討する</u> 3) 2020 年カリキュラムの評価を踏まえ、現行カリキュラムを効果的に運用する。 2. 主体性を育てる学生支援の充実：主体的学習のための環境整備と学習習慣の獲得 1) アクティブラーニング、ICT 活用等による <u>自主学習の増加、基本的学習習慣の獲得</u> 2) <u>全人的理解を基盤にした臨床判断能力強化のために病態と看護の連動を検討する</u> 3) 学習支援と生活支援の役割分担と教員の連携による適応困難な学生への支援強化 4) 生涯学習の意識を育てる授業や日々の関わり、卒業生の支援を検討する。 3. 教員の教育・研究能力の強化と研究推進の体制づくり 1) <u>研究推進体制強化のための業務の見直し、研究時間の確保、成果の公表の推進</u> 2) 新任教員の育成や研修等指導・支援体制について検討、実施する 4. 教育指導体制の充実：PDCA に基づく学科活動の推進、教育の質保証体制の構築 1) 認証評価にむけ、大 学の特徴と学習成果の達成の評価と改善サイクルを意識する 2) 学部の実績と博士前後期課程の発展に向け、<u>将来計画を視野に教員体制を構築する。</u> 3) 教員業績評価を活用した教員の目標管理、自己評価により教育研究実績を積上げる。 5. 学生定員確保のための戦略の検討、長期的展望に基づく計画立案と各部署との連携 1) 将来ビジョンを明確に、本学の特徴、アピール点を浸透させる方法を検討する。 <u>カリキュラム改正、入試方法の見直しの時間的予測をもって、計画的に検討する。</u>

1. 教育課程

3). 栄養学科

担 当：栄養学科

本年度の活動目標	1. 正課教育、正課外教育（修養会等行事を通したカトリック大学としての理念教育）の充実 2. 就職支援対策の充実 3. 研究活動および社会・地域貢献の一環として地域連携の推進 4. 天使大学栄養学科への受験者増に向けた対策について学科で検討を進める。 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準4 教育課程・学修成果 ③④⑤⑥⑦ 基準5 学生の受け入れ ④ 基準7 学生支援 ②③ 基準9 社会連携・社会貢献② （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅱ：質保証の推進 Ⅱ-3（1） Ⅲ：看護栄養学部における学習成果の向上及び教育質保証の推進 Ⅲ-3（1） V：教育に関するビジョンの構築 V-1（2） VI：学生募集・学生受け入れ態勢の充実 VI-1（1） VII：包括的な学生支援策の充実 VII-1（1） VII-2（2） VII-3（3）
活動内容の評価	1. 正課教育、正課外教育（修養会等行事を通したカトリック大学としての理念教育）の充実 [活動内容] 1) 専門教育科目について ・新カリキュラムの充実を図るために、新カリキュラムの評価・検討は学部カリキュラム委員が中心になり実施した（継続）。 ・教育効果を高める授業展開を進め、学習成果の測定、カリキュラム評価は継続して実施した。 2) 臨地実習について ・臨地実習施設の確保と共に臨地実習内容・実習期間の検討を、臨地実習担当教員を中心として学科教員全体の協力体制のもと実施した。 ・臨地実習施設担当者対象の研修会・意見交換会の計画・実施 臨地実習施設側と本学との連携強化を進め、学生の学習効果の向上のために、2025年3月3日研修会を実施した。 3) 管理栄養士国家試験受験の支援について ・各学年より1名抜粋した国家試験WGのメンバーを中心として支援教員の学習指導、全ての学科教員による対策講義および専門業者等による対策について検討・実施した。具体的な対策として、成績不振者に対し、夏期休暇前より国家試験WGメンバー、学科長、支援教員（月1、週1、模試前後）による個々の試験対策に向けた個別指導を行った。 4) 正課外教育である修養会や大学行事への参加率の学年差異がある状況を踏まえ、参加を促し、支援教員が中心となり内容の充実（修養会）を図った。 [活動内容に対する自己評価] 1) 専門教育科目について ・特に大きな成果はなかった 2) 臨地実習について ・臨地実習に向け新規開拓、あるいは再開要請にて実習先を確保できたことは評価で

きる。

- ・次年度に向け臨地実習WGを中心に、今年度の臨地実習全体の意見交換を実施、問題点・課題の検討を行ったことは評価できる。
- ・3年生の臨地実習において施設担当者からの学生の実習態度や知識不足等の苦情があった。次年度の指導内容をWGにて検討する予定。

3) 管理栄養士国家試験受験の支援について

- ・模擬試験1回目の結果後、全ての学科教員による対策講義を全ての学生に実施した。今年度は2回目より全国平均点を上回った（昨年度は5回目以降）
- ・模擬試験1回目の結果から、成績不振者20名を抜粋し苦手な科目を中心に7・8月から、WGによる個々の試験対策（個々の苦手な科目を重点的に）に向けた個別指導を月1回ペースで行った。模試前では課題の提案を、模試後は自己評価と不得意課題の解決に向けた提案を行い、学生と共に課題へ取り組むことで学生のモチベーションも向上した。学生の進捗状況を確認しながらの指導は効果的だったと考える。

- 4) 正課外教育である修養会に対しては、前年度と比較し時間を延長する等、内容の充実を図り、学生アンケートも高評価であった。

2. 就職支援対策の充実について

【活動内容】

- ・学科の就職委員及び学生支援教員と連携して活動を行った。

【活動内容に対する自己評価】

就職委員から学内での会社説明会を積極的に実施し、学生への参加を促し、幅広い分野での就職先を開拓した。学生支援教員を中心に個人面接を行い、学生の希望に沿った就職支援（就職相談室との連携のもと）を実施し、特に専門分野ごとに希望する施設の概要、面接指導、提出する書類等のアドバイス等を個別に行った。昨年同様、企業施設からの求人数は少ないながらも求人施設の内定者は天使大学学生がほぼ占めている。2月14日現在の内定率94.0%（前年度2月21日82.4%）は評価できる。

3. 研究活動および社会・地域貢献の一環として地域連携の推進

【活動内容】

- ・科学研究費5件の採択、論文12件、講演11件、シンポジスト8件、学会発表等25件の発表。
- ・道民の課題を解決するための共同プロジェクトとしてHTB、イオン北海道との「どうみん健康化計画プロジェクト」を継続して実施。
- ・北海道庁が関係機関と連携して推進する「ほっかいどうヘルスサポートレストラン推進事業」に協力し、登録飲食店等に掲示する栄養・食生活に関する普及啓発ツールを作成し、道民の健康づくりを支援
- ・札幌市東区役所と連携して市民の健康づくりを支援-①広報さっぽろ東区版へのレシピ掲載、②東区役所食堂の定食メニューの考案
- ・セイコーマートとの共同研究で、コンビニ食を活用し健康に配慮したレシピを中央区の高齢者に地域住民に広く発信した。

【活動内容に対する自己評価】

個人の論文や学会等の講演、発表が増えてきたことと、地域連携の推進事業活動が増えてきたことは評価する。

	4. 天使大学栄養学科への受験者増に向けた対策について学科で検討を進める [活動内容] ・ 広報委員会を中心に他学科教員と連携して活動を行った。 ・ 入試広報課と連携し広報委員会を中心に総合型選抜試験の準備と実施 [活動内容に対する自己評価] ・ 昨年度作成したオープンキャンパスや高校訪問時用のプレゼンを使用し工夫しながら、出張講義へ積極的に行った。 ・ 総合型選抜試験の実施による受験者増は評価する
次年度への課題	1. カリキュラム委員会と連携をし、栄養科教員全員でカリキュラムの充実を図りたい。 2. 将来ビジョンWGを中心とし将来ビジョン構築に向け栄養科教員全員で取り組んでいきたい。 3. 国家試験対策WGを中心として支援教員の学習指導、学科教員による対策講義および専門業者等による対策についてさらなる検討をし、合格率 100%を目指す。

1. 教育課程

3) 栄養学科－教職課程

担 当： 教職課程委員会

本年度の活動目標	1. 栄養教諭養成のための教育を円滑に実施する。 2. 科目等履修生の栄養教諭免許状取得を支援する。 3. 外部との連携による教職課程のPRと地域貢献を行う。 4. 教職課程の自己点検・評価等を確実に実施する。 5. ICT活用能力の向上を図るため、授業におけるICT活用を推進する。 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準3 教育研究組織－②、基準4 教育課程・学習成果－②～⑦ 基準5 学生の受け入れ－①、基準6 教員・教員組織－②、④ 基準7 学生支援－①～③、基準9 社会連携・社会貢献－② (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) 戦略目標Ⅲ－2(2)、戦略目標Ⅶ－3(5)
活動内容の評価	1. 栄養教諭養成のための教育を円滑に実施する。 <u><基準4－②～⑦> <基準7－①～③> 戦略目標Ⅶ－3(5)</u> [活動内容1.1] 現場の栄養教諭による授業(講演)の実施(4年次生対象) [活動内容に対する自己評価1.1] 4年次生対象の「栄養教育実習事前事後指導」と「教職実践演習」で特別講師(現職の栄養教諭)による授業を実施し、現場理解と教員としての自覚を高めた。 [活動内容1.2] 外部との連携による教育の充実 [活動内容に対する自己評価1.2] 3年次生対象の「教職総合演習」において、石狩市学校給食センターでの見学と体験活動、及び特別講師による授業を実施して学生の意識を高めた。特に直近の卒業生による講話は効果的だった。 [活動内容1.3] 北海道大学での農場体験、農作物の収穫・搾乳体験(1年次生対象) [活動内容に対する自己評価1.3] 実地での収穫体験と専門の講師からの講話を聞き、栄養教諭に必要となる食育に関する学びを深めることができました。特に、作物が育つ過程や生産者の工夫・苦勞を直接知ることで、食材への理解がより一層深まりました。また、搾乳体験を通じて酪農の重要性を実感し、食の安全や持続可能な生産について考えるきっかけとなりました。 [活動内容1.4] 小学校での夏休みインターンシップ体験(2年次生対象・正課外) ・連携学校:札幌市立の美香保・新琴似・北光小学校 [活動内容に対する自己評価1.4] 実際の教育現場を視察することで、教育実習に向けた準備を進めるとともに、教職課程を履修する学生の栄養教諭としての自覚を醸成する貴重な機会となりました。

[活動内容 1. 5]

履修カルテ活用の充実

- ・履修カルテ活用の点検・充実

[活動内容に対する自己評価 1. 5]

「教職概論」の授業を活用し、1 年次生に対して履修カルテの記入・活用に関するガイダンスを実施するとともに、適切な記述方法の指導を行いました。さらに、履修カルテを基にした面接を実施し、学生一人ひとりの学びの振り返りを促しました。加えて、4 年次生を対象とした「栄養教育実習事前事後指導」および「教職実践演習」において、履修カルテを活用した授業を実施することで、学生が履修カルテを主体的に活用し、学習の定着や自己省察を深める意識を高めることができました。

[活動内容 1. 6]

教員採用試験対策ゼミの実施

[活動内容に対する自己評価 1. 6]

教員採用試験の対策として、ガイダンスおよびゼミを計画し、就職委員会や栄養学科、事務局と連携して実施した。近年、教員採用試験を受験する学生数が減少傾向にあるため、教員職の魅力を学生に理解してもらうことが重要な課題であると認識している。

2. 科目等履修生の栄養教諭免許状取得を支援する。

<基準 5－①>

[活動内容 2]

教職課程科目の履修を希望する科目等履修生の受入れと支援

[活動内容に対する自己評価 2]

本学の卒業生を受け入れ、栄養教諭免許状取得の単位修得を支援した。

3. 外部との連携による教職課程の PR と地域貢献を行う。

<基準 9－②>

[活動内容 3. 1]

サッポロさとらんどにおける栄養教育体験・ボランティア活動

(3 年次生「教職総合演習」)

[活動内容に対する自己評価 3. 1]

昨年度に引き続き、サッポロさとらんどと共同で授業を実施し、地域連携活動を推進した。食育に関する展示パネルを作成・展示するとともに、会場で発表を行った。その結果、観客や会場担当者から高い評価を得ることができ、学生にとっても教育的効果の高い学びの機会となった。

[活動内容 3. 2]

サークル活動やボランティア活動の奨励

[活動内容に対する自己評価 3. 2]

栄養教諭としてのコミュニケーション力や実践力を高めるため、サークル活動や NPO の活動を通じたボランティア活動や地域連携への積極的な参加を、1 年次から奨励している。今後も引き続き、学生の主体的な取り組みを支援し、実践的な学びの機会を提供していく。

4. 教職課程の自己点検・評価等を確実に実施する。

<基準 3－②> <基準 6－②、④> 戦略目標Ⅲ－2(2)

	[活動内容 4. 1] 教職課程 F D 研修会の実施 ・実施日時：2025 年 1 月 21 日 13：30～15：30 ・演題：「観点別評価について ～大学における観点別評価の導入とルーブリックの作成について～」 [活動内容に対する自己評価 4. 1] 本研修会では、観点別評価の導入とルーブリックの作成について理解を深めることを目的に実施した。参加者からは、大学教育における評価基準の明確化や、学習成果の適切な測定方法に関する具体的な知見が得られたとの意見が寄せられた。今後、教職課程においても客観的な評価に基づき、体系的なカリキュラムとなるよう継続して検討を行う。 [活動内容 4. 2] 自己点検・評価の実施と評価結果の公開 [活動内容に対する自己評価 4. 2] 1 月下旬～2 月上旬にかけて教職課程の 2～4 年次学生と教職員を対象とした自己点検・評価を実施した。評価結果を 3 月の委員会で分析し学長に報告するとともに、3 月末頃に、その結果を本学ホームページで公開予定である。また、全国私立大学教職課程協会から継続して認証を受けているが、次年度においても本結果を含め、申請を行う予定である。 5. ICT 活用能力の向上を図るため、授業における ICT 活用を推進する。 <u><基準 4 教育課程・学習成果－②～⑦></u> [活動内容 5] 栄養教諭の教職課程では実施が義務付けられていない「教育における ICT 活用論」を 2023 年度から開講するとともに、「教職実践演習」においても ICT を活用した授業を実施した。 [活動内容に対する自己評価 5] 教育実習の巡回等で教育現場における ICT 活用事例を視察して得られる情報を共有し、実践に即した授業改善に取り組んでいくことを確認した。
次年度への課題	1. 教職課程委員会の行事一覧および担当者の見直しを行い、より効率的かつ効果的な運営体制を整備する。 2. 自己点検評価アンケートの質問項目を見直し、より効果的に学びの成果や改善点を把握できるように検討する。 3. 教職課程を履修する学生との面談を実施し、学生のニーズや目標を把握した上で、適切なアドバイスを行う。

1. 教育課程

4) 教養教育科

担 当： 教養教育科

本年度の活動目標	1. 初年次教育関連 (1) 英語 習熟度別授業を実施し、各学生の英語力にあった指導を行うことで学生一人一人の英語力の増強を図る。 (2) 共通基礎教育科目 高等学校の教育課程を踏まえ、入学前教育・導入教育をおこなう。 (3) 専門基礎科目との連携 現行の教育課程の下、効果的な連携を目指す。 2. 教職課程関連 栄養学科の教職課程への連携・協力をおこなう。 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準3 教育研究組織 ①② 基準4 教育課程・学修成果 ③～⑦ (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) V-1 (3) 教養教育科のあり方検討
活動内容の評価	1. 初年次教育関連（入学前教育・導入教育を含む） [活動内容] (1) 英語：新入学生に対しプレイスメントテストを実施し、習熟度別クラス編成のために活用した。また、前・後期末に到達度テストを実施し、到達度を測定した。 (2) 共通基礎教育科目： 1) 化学・生物学… 新入学生に対し入学前教育を実施した。また、4月に診断テストを実施し履修指導に活用した。入学前教育を担当する部署が構築され、次年度に向けては、初年次教育をオンラインで実施するよう検討を進め準備している。 2) 基礎学修演習… 多教室をオンラインで連結し、各教室に教員を配置した上で、対面授業により授業をおこなった。 (3) 専門教育科目との連携：カリキュラム・マップに従い、教養教育科目群の各授業を実施した。 [活動内容に対する自己評価] 初年次教育関連の事業が着実に実施され、現行教育課程における所期の目的を達成できつつあることは評価できる。 2. 教職課程関連（教職課程委員会にて別途、自己点検評価をおこなう。） 3. その他 [活動内容] 本学の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」（リテラシーレベル）を着実に実施した。 [活動内容に対する自己評価] 教育プログラムを着実に実施できたことは評価できる。

次年度への課題	1. 初年次教育関連（入学前教育・導入教育を含む）の実施、専門教育科目および栄養学科の教職課程との連携・協力を継続する。 2. 中期計画および客観的指標調査など、また、本学のキリスト教精神を踏まえ、今後の教養教育科のあり方について検討を継続する。 3. 本学の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を着実に実施する。 4. 新入学生に対する入学前教育を充実させる。
---------	--

5) 看護栄養学研究科

担 当：看護栄養学研究科

本年度の活動目標	1. 将来ビジョン ・学部卒業生の進学機会の拡大に向けた大学院体制の検討（教員体制の整備） ・看護栄養学研究科としての特色の明確化 - 課程毎のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミSSION・ポリシーを作成し公表している。これらから修了時に身に付けられる能力について具体的に示し、課程の特色として分かりやすく広報していくことを検討する。 ・カリキュラム評価の PDCA サイクルの確立 - アセスメント・ポリシーを作成し、学生の学修成果の評価について達成すべき質的水準とその評価の具体的実施方法を定める。内部質保証推進委員会と連携し PDCA サイクルを確立する。 2. 教育課程 1) カリキュラムの評価と新カリキュラムの検討 2) アセスメント・ポリシーを作成する。 3. 大学院生定員確保のための対策 1) 大学院の広報活動（広報委員会、入試広報室との連携） ・大学院ホームページの見直しと充実（専攻分野等の紹介） ・大学院説明会の実施、公開授業、特別講義等の実施 ・科目等履修制度を利用して大学院教育を体験できるように検討 ・オープンキャンパスでの大学院の PR、大学院ブースの設置、大学院生の活用 ・ホームページに大学院に関する記事の掲載 ・大学院生募集の P R（大学院看護栄養管理栄養学研究科の案内送付） ・実習指導者会議、実習巡回時等の機会を活用しての P R、大学院案内、募集要項の配布等 ・学部生の進学支援の推進。奨学金制度の拡充案の策定と他大学院の情報収集。 4. 大学院生の学習環境・研究活動の充実に向けての支援 1) 院生学習室の備品等の購入検討 2) 院生研究費の活用に関する検討 3) Google Classroom、Google meet 等を活用した授業・単位認定と評価 4) 図書館保存修士論文について院生が閲覧する際の手続きの整備 5) 職業実践力育成プログラム認定制度（文科省）の申請の検討 5. 教育実践・研究活動 1) 看護栄養学研究科としての F D の企画・運営 2) 看護栄養学研究科の特色を活かした実践・研究能力の向上 3) 両専攻の協働研究・協働事業の検討 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準 4 教育課程・学修成果 ①-⑦ 基準 5 学生の受け入れ ①-④ 基準 7 学生支援 ①-③
-----------------	--

	(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) IV-2 看護・栄養学教育・研究の充実 (1) (2) (3) (4) (5) V-1 学部・大学院の将来ビジョンの再構築 (4) VI-1 学生の受入れ拡充 (2) VI-2 入学者選抜への対応 (2) (4) VII-1 学生支援策の充実 (1) (2) VII-3 キャリア支援の充実・強化 (1) (2) (4)
活動内容の評価	1. 将来ビジョン [活動内容] - 看護学専攻では、博士後期課程を開設し、4名の特任教授を迎え、教育体制の充実を図ったうえで、6名の入学生を迎えた。また、保健師コース8名が修了し、保健師国家試験合格者は8名、CNS コース修了者で2024年度中に専門看護師認定審査に合格したのは2名（老年看護分野、がん看護分野）であった。 - 栄養管理学専攻では、博士前期課程1名、博士後期課程1名が修了し学位が授与された。 - 栄養管理学専攻では、3つのポリシーに基づき課程の特色の広報に努めた。また、アセスメント・ポリシーに従って、PDCA サイクルの確立に努めている。 [活動内容に対する自己評価] - 看護学専攻では、開設した博士後期課程と前期課程との調整を図り、教育体制の整備と円滑な組織運用を図ることができた。引き続き、学年進行に伴い円滑な運営を図る必要があると考えられる。 - 栄養管理学専攻では、博士前期・後期課程で一定の学習成果を上げることが出来たと評価できる。しかし、入学者を確保できなかった点では、今後、広報・入試体制の検討が必要と考えられる。 - 看護栄養学研究科としての特色の明確化については、3つのポリシーを作成し、これに基づいた教育の推進を今後も継続する。 2. 教育課程 1) 新カリキュラムの検討 [活動内容] - 看護学専攻においては、現行カリキュラムの見直しは行っていないが、博士後期課程の開設に伴って前期・後期課程の開講スケジュールの調整、科目担当者の調整などを実施した。 - 栄養管理学専攻は、博士後期課程のカリキュラム変更を行い、2024年度からカリキュラムの運用を開始した。 - 看護学専攻博士後期課程の開設し、修士課程の名称を博士前期課程に改めたことを踏まえ、看護栄養学研究科全体の履修要項の構成、学位論文審査体制の見直しを行い、主査・副査の担当基準、選任方法について検討し、運用につなげた。 [活動内容に対する自己評価] - 看護学専攻では、博士後期課程の開設に伴い、前期課程との調整を図り、滞りない進行につなげた。継続して、前期課程のカリキュラムで課題となる点を明らかにし、今後の見直しにつなげていく予定である。 - 栄養管理学専攻では、滞りなく新カリキュラムの運用を開始出来たことを評価する。今後もより良いカリキュラム構築を目指す。

2) アセスメント・ポリシーを作成する

[活動内容]

- ・内部質保証推進委員会と連携し、アセスメント・ポリシーを作成した。
- ・ディプロマ・ポリシー到達度ルーブリックを各専攻・コース毎に作成した。アセスメント・ポリシーに従って、3月時点で修了生に提出を依頼する予定である。また、看護学専攻の博士後期課程においてもディプロマ・ポリシー到達度ルーブリックを検討することが課題である。
- ・栄養管理学専攻においては、博士前期課程・後期課程におけるリサーチルーブリックの運用を行い、今後は学生の意見を取り入れて、リサーチルーブリックのブラッシュアップを行う予定である。

[活動内容に対する自己評価]

- ・アセスメント・ポリシーが作成され、評価の具体的実施方法が示されたことは評価できる。今後はPDCAサイクルを確立し、学習成果の向上に努める。

3. 大学院生定員確保のための対策

1) 大学院の広報活動（広報委員会、入試広報室との連携）

[活動内容]

- ・看護学専攻では、保健師コースのオープンキャンパスを2回実施し、修士論文コース・高度実践看護師コースは個別相談会を2回開催した。また、個別の相談にも入試広報課と協力して随時対応した。さらに、大学院生募集のチラシの作成・配付を行った。
- ・看護学専攻主催の広報イベントとして、大学院保健師コース進学相談会を開催したり、学部生向け大学院勉強会「大学院ってどんなところ？」（参加者：学部生40名）やCNSコース主催の「看護の質を上げる専門看護師の活動を知ってキャリアを考えてみませんか？」を開催（参加者：学内1名、学外1名）し、認知度を高める努力を行った。
- ・栄養管理学専攻は学部生を対象に院生募集のチラシを作成し配布した。
- ・栄養学科の学生と外部者を対象とし、大学院進学説明会を8月9日に開催し、栄養学科1名（2年生）、栄養学科の卒業生1名の参加があった。また、本学卒業生が大学院の説明を聞きに、個別に2名の訪問があり、対応した。
- ・2025年度入学者選抜の結果、看護学専攻は博士前期課程に10名（修士論文コース2名（小児、成人）、高度実践看護師コース2名（在宅）、保健師コース6名）が合格し、博士後期課程に2名が合格した。
- ・栄養管理学専攻は博士前期課程、博士後期課程ともに受験者がいなかった。
- ・入試の採点基準について、各専攻での違いがあり、評価担当者により違いが生じる評価方法となっていることに対し、評価方法を見直し、受験者への説明責任が果たせる判定が行えるよう、大学院入試委員会と連携し検討を行う予定である。

[活動内容に対する自己評価]

- ・保健師コースの応募が多く、学部講義との連動から講義を通じて保健師への関心の高まりや進学動機にもつながっていると考えられる。修士論文コース、高度実践看護師コース、博士後期課程の広報活動もさらに内容強化し、興味関心を集めるアピールを行う必要があると考えられる。
- ・栄養管理学専攻の大学院説明会等は参加者が増加傾向だが、さらに周知が必要である。説明会の参加者は受験に結びつかず、学ぶ意欲はあるが、社会人は受験勉強と金銭的、時間的な困難さが障害になっている事が感じられた。

	・栄養管理学専攻は入学者数を確保できなかった。入試体制、採点基準の見直しや、入学後のサポート体制の強化等を検討したい。 4. 大学院生の学習環境・研究活動の充実に向けての支援 [活動内容] ・今年度4月からの看護学専攻博士後期課程の開設に伴い、院生学習室は専攻別ではなく、博士前期課程と後期課程に分けた配置とし、全席自由席とした。院生の物品を保管するための鍵付き個人ロッカーを院生室内に設置し、在学生に割り当てた。 ・院生学習室のPC管理・整備は、図書情報課（情報処理室）が、両専攻と調整を行い対応することとなった。 ・院生学習室の使用方法について、各専攻の院生の意見のヒアリングを行った。この結果は次年度の院生学習室の円滑な運営に役立てることとした。 ・院生研究費の活用に関して、栄養管理学専攻では院生の研究の進捗状況に合わせて院生研究費を活用可能な方法をいくつか提案し、財務課に実際に運用してほしいとの要望を提出した。財務課からは要望内容を確認し、具体的な対応は2026年度に向けて学費や配分額も含め検討することとなったとの報告があった。 [活動内容に対する自己評価] ・院生学習室のスペースとソフトウェアの有効活用に向けて、整備を進めることが出来たことは評価できる。今後も院生の意見を吸い上げ、よりよい学習環境の整備を行う必要がある。 5. 教育実践・研究活動 [活動内容] ・看護栄養学研究科としてのFD第1回（栄養管理学専攻担当）として、2月18日「時間生物学と時間栄養学の最新トピックス 運動、食事、睡眠のタイミングの最適化」北海道大学 大学院 教育学研究院 准教授 山仲勇二郎 先生の講演を行った。ハイブリット方式で実施し、学内教職員50名の参加があった。 ・FD第2回（看護学専攻担当）3月6日「科研費審査システムの改革と看護研究」と題し、本学特任教授、松田ひとみ先生の講演を実施した。学内教職員43名の参加があった。 [活動内容に対する自己評価] ・FD研修会を実施し、教員の見識を高めるために貢献できたと評価できる。 ・看護栄養学研究科の特色を活かした実践・研究能力の向上と両専攻の協働研究・協働事業の検討は進展がなかった。今後も継続して検討を行うこととする。
次年度への課題	1. 入学生確保に向けた広報活動の継続と充実、奨学金制度の拡充案の検討を進める。 2. 内部質保証システム整備のための実質的な検討として、教育課程のPDCAサイクルを確立する。 3. 大学院の教員体制・教育環境の整備、各専攻の円滑な運営に努めるとともに両専攻の協働研究・事業などの活動可能性について検討する。

1. 教育課程

6) 助産研究科

担 当：助産研究科教務委員会

本年度の活動目標	■専門職大学院の認証評価の受審結果と改善に向けた適切なカリキュラムの運用 1) 教育成果の把握と修了生の動向調査システムの改善 2) 専門職大学院としての指定規則要件（10 例相当の分娩介助）を満たす改善 3) 高度な助産実践（ハイリスク）へカリキュラム改善 4) 1 年前期（6 月）からの臨床実習にともなう事前準備の指導対策 5) 臨床実習に関わる指導者、実習教員及び大学教員の連携と FD 参画の推進 6) 入学志願者の選抜に関する能力等の適格な評価の改善 7) 収容定員数の充足率の改善 8) 学生の履修に関する相談・支援体制の整備と経済的支援 9) 高度専門職業人の養成ができる教員の理論と実践及び研究活動の活性化 10) 専門職大学院の専任教員に関する将来性、発展性のある人事計画 11) 「助産研究科ホームカミングデイ」の発足 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準 4、基準 5、基準 6、基準 7 （日本助産評価機構） 1－2、2－1・2・3、3－1、4－1・2、5－1・2、7－1 （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅱ－1・2・3、Ⅳ－1、Ⅴ－1、Ⅵ－1・2、Ⅶ－1・2・3・4、Ⅶ－2、Ⅷ－6
活動内容の評価	1) 教育成果の把握と修了生の動向調査システムの改善 [活動内容] 修了生の同行を継続調査できるシステムをするための同窓会やネットワークシステムの現状分析を行った。 [活動内容に対する自己評価] ○本学の同窓会を主軸にした修了後の動向調査はシステム化されていないため、調査のデータを活かすまでには至らなかった。ゆえに修了生の動向を把握して、課題を明確にできるシステムの在り方を再検討する。 ○同時に修了後の 1 年、3 年、5 年目の時期にヒアリングを行う計画を定着する必要がある。 ○アセスメントポリシーを策定して、就職先のヒアリングデータや動向調査評価指標に位置づけたことは改善が進んだ、と考える。 2) 専門職大学院としての指定規則要件（10 例相当の分娩介助）を満たす実習方略の改善 実習目標達成可能な実習施設を確保、院生配置を調整した。 今年度新規の実習施設（病院 1、クリニック 1）で実習を行った。また、次年度に向け、新規実習施設を確保するため、北海道看護協会、助産師会、産科医会の代表者と協議し、北海道の将来構想を踏まえて、実習施設の協力連携を進めることで合意した。 [活動内容に対する自己評価] 次年度の実習施設として新規および実習受け入れ再開施設を確保したことは評価できる。しかし、実習時期と継続性について、保証はないため継続した協議が必要である。 3) 高度な助産実践（ハイリスク事例を含む）のカリキュラム改善と教育課程連携協議会との連携

○専門職大学院としての分娩助例数の増加を図るための実習施設の開拓は、教育課程連携協議会にて議案に挙げて、修了時の到達度実践力のデータを基に検討した。

[活動内容に対する自己評価]

ローリスクからハイリスクに移行する事例の実習経験ができる施設確保の協力を依頼し理解を得られたが、他大学との交渉調整が必要であり、安定した施設の確保には課題が残る。

4) 1 年前期（6 月）からの臨床実習にともなう事前準備の指導対策

○実習を早期に開始する対応策として医学教育における臨床実習前後の学生評価のための共用試験、Computer Based Test (CBT) および Objective Structured Clinical Examination (OSCE) を導入して実習の事前準備を充実する方策を検討し、全国助産師教育協議会で行う CBT から実施した。

[活動内容に対する自己評価]

○CBT を実習前に行うことで、全国的な傾向や本学の課題が見えた。次年度は OSCE も導入して実習に入る事前準備の充実に努める。

○実習前の不安や緊張などについて、メンター教員を中心に少人数で教育支援を行い、1 年次と 2 年次院生が交流機会をもって双方の学修効果を高められたことは評価できる。

5) 臨床実習に関わる指導者、実習教員及び大学教員の連携と F D 参画の推進

○臨床実習の関係者である臨床指導者、実習指導教員そして大学教員の三者で行う「臨床指導者会議」では、恒例の対面式に加えて遠方実習病院の指導者も参加できるようにハイブリッド方式で多数参加できるように工夫した。

○臨床指導会議の前に、学生も参加して実習の臨むときの考えをそれぞれの立場で意見交換した。次の実習に活かせるように理解し共有した。テーマは「学生の実践力を高める実習指導者の役割と教員の役割」で、F D 研修として行った。

[活動内容に対する自己評価]

実習指導者の F D 研修への参加度は全員でなかったが、三者で協議し実習の充実をめざす。

6) 入学志願者の選抜に関する能力等の適格な評価の改善

○選抜方法について、客観的な基準を設けて数量化評価を行った。また面接評価は 2 者から 3 者に変更して、判定が明確になるように改変した。

[活動内容に対する自己評価]

入試選抜の問題点について改変した結果、明確に効果があった。しかし一部に面接委員の採点差があり、次の検討課題が残った。

7) 収容定員数の充足率の改善

○既定の定員数は基礎分野と教育分野を含めて 40 人であったが、過去 5 年の充足率は約 50%であった。全国的にみても、助産の進路は大学院の志願に比べて 1 年課程の専攻科の志願が多い傾向にある。本学は教育分野の 10 名の一時募集中断しているが、基礎分野の定員 40 人の減数を検討して文科省へ申請を進めている。

○本年度の定員数の確保に向けて管理運営協議会から 25 名の入学者の確保の指示があり、合格点から 25 名を 2025 年度の入学者とした。

[活動内容に対する自己評価]

教育分野（10 名）を除いて 2024 年度は、定員数 60 名に対して 38 名であり、充足率は 63.3%であったが、2025 年度は 44 名で 73.3%に改善できた。しかし、出産数の減少から、継続的に実習施設を確保することが難しく、次年度は定員数を減少する方向で検討すること

	が避けられないと考える。 8) 学生の履修に関する相談・支援体制の整備と経済的支援 ○遠隔地の実習には交通費は自己負担であるが、宿泊費を大学で負担してきた。交通費の負担の小さくないため、学生間で公平な負担になるように支援を実習施設の距離位置も含めて検討してきた。 [活動内容に対する自己評価] 助産研究科院生の就学中の経済的支援、助産教育支援のための基金創設が承認されたことは、今後、院生の経済的支援や効果的な教育につながることから評価できる。 9) 高度専門職業人の養成ができる教員の理論と実践及び研究活動の活性化および 10) 専門職大学院の専任教員に関する将来性、発展性のある人事計画 ○講義科目の負担や実習期間の検討を重ねて実習指導教員の協力も得られてきたが、研究や社会活動のエフォート遂行が不十分であった。 ○業務実績をポートフォリオ形式で残せるように次年度は検討する。科研費の申請も推進した北結果、申請は4件された。 [活動内容に対する自己評価] 科研費の申請は、2024年度は採択者が0名であったが、これに特別研究として計画遂行できるように努める。研究推進できる人材育成のため、博士後期課程の進学者が1名でたことは将来的に期待できると考える。 11) 「助産研究科ホームカミングデイ」の発会 ○本学の助産研究科を修了した卒業生と在学生の交流機会を設けたことは、学生主体になって社会的な活動状況を共有して、連環的に教育の評価と発展になるシステムの一環になると考える。その準備は進展中である。 [活動内容に対する自己評価] 学生主体で企画するホームカミングデイは、その主体が修了生であり、在学生在が主体的に協力支援になり、本学の発展のための知力資材として実質的な教育評価システムの一部になると考える。
次年度への課題	1. 専門職大学院としての基礎分野のカリキュラムの改正の承認 2. 適切な実習施設の確保と指導体制の充実 3. 学生の実習経費等の負担支援 4. 教員の実践力、教育力、研究力の醸成にむけた種々の環境整備

2. 学生の受け入れ

担 当： 学部入試委員会

本年度の活動目標	1. 各種入学者選抜について、厳正で遺漏のない実施と円滑な運営に努める。 2. アドミッション・ポリシーに相応しい入学者確保に向けた入学者選抜について検討を継続する。 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準5 学生の受け入れ ①、②、③、④ (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) VI-2 入学者選抜への対応 (1) (2) (3) (4)
活動内容の評価	1. 厳正で遺漏のない実施と円滑な運営について [活動内容] 2025 年度 各種入学者選抜(本学実施)を実施した。 また、大学入学共通テストの実施について、天使大学を責任大学として共同実施の北海道大学(実施本部)、藤女子大学(試験場)、東海大学 札幌キャンパスと密に連携を取り大学入学共通テストを実施・運営した。 [活動内容に対する自己評価] 文部科学省の方針や大学入試センターの選抜要項変更等に対応して受験生に影響の無いよう入学者選抜要項を作成し、人員配置や業務時間・役割についての的確に周知して、円滑な運営を実施できた。 特に、面接試験を廃止した一般試験の変更準備や、新たに導入した天使みらい入試(栄養学科 総合型選抜)新規実施運営についても、トラブルなく実施できたことも含め評価できる。 大学入学共通テストについても、責任大学の本学、藤女子大学、東海大学の3大学で連携し不備なく運営できたことは評価できる。しかし、前年度からの課題であったとおり、大学入学共通テストの翌週に大学院選抜が控えており、日程が過密になっているため、ミスを誘発しないか課題が残る。 2. アドミッション・ポリシーに相応しい入学者確保に向けた入学者選抜検討について [活動内容] 新たな選抜試験の導入および変更に関する検討をした。 ・看護学科 総合型選抜導入に向けた検討を開始した。 ・同法人系列高校優遇を含む指定校制度改正検討をした。 ・地域枠やファミリー入試導入の検討をした。 [活動内容に対する自己評価] 周辺の競合大学の募集状況や、高等学校からの志望校情報等の収集に努め、次年度以降も検討を継続し、志願者確保につなげていることは評価できる。 [活動内容] 選抜実施後に監督者等を対象とするアンケート等を参考に、当該選抜制度にかかわる選抜要項内容や実施・運営に関する改正を検討し、次年度改善案を作成した。 ・天使みらい入試～グループディスカッションやプレゼンテーション・面接方法について改良する。 ・学校推薦型選抜～受験生の負担感を勘案し、現行のタイムスケジュール見直す。

	・WEB 出願システム構築～2026 年度入学者選抜からの実施にむけ、受験生が混乱しないよう、マニュアル等を作成する。 [活動内容に対する自己評価] 昨年度改正決定した個人面接試験廃止により、一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜の看護学科志願者増加の一因となったことについては評価できる。 当該選抜制度にかかる選抜要項内容、及び実施・運営に関する改正等について、次年度改善できるよう検討できたことは評価できる。 今後も看護学科における総合型選抜導入や社会人選抜改定、栄養学科の天使みらい入試の改良について検討を継続し、安定した志願者確保に努める。
次年度への課題	1. 志願者及び入学者確保に向けた新たな入学者選抜制度検討を行う。 2. 既存の入学者選抜が安定的な志願者確保ができているか見直す。 3. 大学入学共通テストの実施・運営体制の反省や見直しを 3 大学で行う。

2. 学生の受け入れ

担 当： 大学院入試委員会

本年度の活動目標	1. 大学院入学者選抜における厳正かつ円滑な運営に向けた体制の構築 2. 次年度以降の安定的な志願者確保に向けた入学者選抜制度の変更 大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄 基準5 学生の受け入れ ①、②、③、④ 助産評価機構の点検・評価項目の基準番号等記入欄 第3章 入学者選抜 3-1-1、3-1-2、3-1-3、3-1-4、3-2-1 中期計画戦略目標に該当する項番記入欄 VI-2
活動内容の評価	1. 2025 年度入学者選抜の実施にあたり変更した点（一部は次年度より実施） [活動内容] ・助産研究科の個人面接試験面接員を2名体制から3名体制へ変更。 ・助産研究科の「合格判定基準」および小論文試験、個人面接試験の「評価基準」と「評価表」の内容を改正。 ・助産研究科の合否判定について、入学者選抜規定に基づき、大学院入試委員会で助産研究科の合否判定案を承認後、助産研究科教授会に提案する審議方法に変更。 ・筆記試験科目における試験時間と休憩時間の統一化。 ・面接における面接グループ数設定のルール化。 [活動内容に対する自己評価] 入学者受入れ方針に基づく公正かつ妥当な選抜方法を維持しつつ、日本助産評価機構からの指摘事項改善(助産研究科のみ)や、より公平な基準作成、制度改正および選抜制度の新規導入等により、監督者の実施負担や手当の削減、効率的な運営を可能としたことについては大いに評価できる。 2. 次年度以降の安定的な志願者確保に向けて検討し、変更する点 [活動内容] ・WEB 出願方式（インターネット出願）への導入に向けた準備・対応。 ・次年度からの看護栄養学研究科 栄養管理学専攻（博士前期課程）推薦型選抜の新規導入案決定。 ・次年度からの栄養管理学専攻 博士前期課程の学力試験「英語」の廃止及び両専攻博士後期課程における試験科目免除の実施決定。 ・次年度からの助産研究科、看護学専攻保健師コース、栄養管理学専攻の一般選抜Ⅱ期を2次募集制への変更決定。 [活動内容に対する自己評価] 次年度以降の志願者確保に向けて当委員会として対応可能な措置を講じ、対策を整備したことについては大いに評価できる。
次年度への課題	1. 今年度に改めた入学者選抜制度や選抜試験実施体制の効果を検証し、さらなる変更が必要な場合はそれに応じた対応を行う。 2. 志願者及び入学者確保に向けた新たな入学者選抜制度や選抜日程等を検討する。

2. 学生の受け入れ

担 当： 広報委員会

本年度の活動目標	1. ブランディング強化のため、広報ツールの充実を図る (新たな志願者層開拓(受験生への早期接触と多様な高校生へのアピール)を含む) 2. 看護栄養学研究科の広報活動強化 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準5 学生の受け入れ ① ② ③ ④ (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) 戦略目標V-1
活動内容の評価	1. ブランディング強化のため、広報ツールの充実を図る [活動内容] 学生受け入れ方針に基づき、ブランディング強化のため以下活動により、広報ツールの充実を図った。 (1) 資料送付・ダイレクトメール (DM) ① 受験生向け 本学に資料請求があった高校生、既卒者、中学生などへ2025年度大学案内パンフレット、入学者選抜要項、過去問題集、OC案内チラシ、志願促進リーフレット、クリスマスカードを送付し、年度を通じたフォローアップを行った。 ② 高校進路指導部向け 道内外の志願実績校(約200校)に対して、7月に2025年度大学案内パンフレット、入学者選抜要項、過去問題集、OC案内チラシ等を送付した。 (2) オープンキャンパス (OC) 次のコンテンツを実施した。 ・学科紹介・職業紹介・模擬授業・入学者選抜ガイダンス・施設見学 ・学生発表(受験体験、学習・実習体験、学生生活など)・交流コーナー ① 第1回 6月15日(土) 学校祭と併催 参加者数：看護学科95名 栄養学科96名 ② 第2回 8月3日(土)：栄養(午前のみ)、8月4日(日)：看護(午前、午後) 参加者数：看護学科241名 栄養学科153名 ③ 第3回 9月21日(土) 午前・看護、午後・栄養 参加者数：看護学科89名 栄養学科54名 ④ 第4回 3月22日(土) 午前・栄養、午後・看護 参加者数：看護学科133名 栄養学科69名 (3) 公式ホームページ (HP) によるPR 大学案内パンフレット、入学者選抜要項、各種広報チラシ、ショートムービー等を掲載しPRした。また、IR室協力のもとデータを集計し、本学の特徴をまとめたサイトを作成・発信をした。 (4) 高校訪問、進学相談会・校内ガイダンス、模擬授業 等 ① 高校訪問、進学相談会・校内ガイダンス 高校訪問については、入試広報課員および事務局職員が6月下旬から道内約140校の高校を訪問、進学相談会・校内ガイダンスについては道内各地の約110会場へ教職員が参加し、在学生の近況報告や国家試験合格率、入試制度の昨年からの変更点や本

学の特徴をアピールし、オープンキャンパス参加を促した。

② 模擬授業・大学訪問道内約 20 校で模擬授業及び職業に関する解説等を行った。

③ 選抜要項頒布会(大学見学 含む)

年末から 1 月中旬にかけて申込者に、学校案内・募集要項の手渡し、学校案内・教員との個別面談を実施した。オープンキャンパスに来られなかった人や出願校の変更を検討している志願者 7 名(保護者同伴多数あり)が来校し、本学の一般入試および共通テスト志願へ繋げた。

(5) 広報活動勉強会

教職員が現状の学生募集について共通認識を持つため、以下を実施した。

・動画配信

配信内容：2024 年度 入試選抜方法詳細について、各学科の解説

・セミナー開催

テーマ：「進学・就職マーケットの現状共有と継続した学生募集の成功実現に向けて」

日 時：2024 年 7 月 9 日(火)

講 師：(株)リクルート 梅津 直弥、吉田 奈央

(6) 内部質保証(点検評価)に向けたデータ整理・活用

以下データを回収し改善につなげた。

・入学者選抜データ ・新入生アンケート ・OC データ ・OC 参加者アンケート

(7) SNS 及び動画を活用した大学の取り組み・教育内容に関する情報発信

学生の日常風景や日々の取り組み動画を、Instagram や YouTube で情報発信した。

[活動内容に対する自己評価]

広報活動勉強会や F D 等を通じて全学的に危機感を共有し、高校生や高校教員、保護者へ地道に上記広報活動を実施したことにより、一定数の志願者を確保できたことは評価できる。特に、前年度苦慮した栄養学科の募集については、今年度から初実施となる「天使みらい入試」について通常時よりも早めに高校を訪問してアピールをし、媒体等でも積極的にアピールしたことが功を奏した。次年度以降も年々 18 歳人口の減少が加速し、募集活動が苦しい状況になることが予想されるため、定員確保にむけ活発な広報活動を継続したい。

2. 看護栄養学研究科の広報活動強化

[活動内容]

各専攻と連携し、以下を実施した。

① 公式ホームページ(HP)による PR

大学案内パンフレット、入学者選抜要項、各種広報チラシ、ショートムービー等を掲載し PR した。

② 大学院パンフレットやチラシ等による PR

大学院案内パンフレット、入学者選抜要項、看護学専攻・保健師コースチラシについて、6 月に看護系大学及び実習施設等に送付または担当教員が持参、および本学の看護学科在学生にも配布した。また、看護学専攻博士課程申請に伴いチラシ、学生募集要項を作成・配布し、ホームページおよび SNS に掲載した。

③ オープンキャンパス等による PR

・天使大学在学生対象の説明会

看護学専攻 3 月 10 日(月)保健師コース説明会 9 名

	・ オープンキャンパス、大学院説明会 看護学専攻（オープンキャンパス） 6月15日（土）保健師コース 13名 小児看護学領域1名 8月 4日（日）保健師コース 13名 在宅看護 CNS 領域2名 栄養管理学専攻（大学院説明会） 8月9日（金）前期課程1名 後期課程1名 ・ 看護学専攻では学部生向け、CNS 希望者向けに大学院紹介の講話イベントを行った。 [活動内容に対する自己評価] 上記アピールにより、志願者を一定数確保した点について評価できる。引き続き看護栄養学研究科と連携し、ホームページコンテンツの充実を図るとともに、大学院の情報発信を積極的に行って、アピールを強化したい。
次年度への課題	【目標】 1. ブランディング強化のため、広報ツールの充実を図る 2. 新たな志願者層開拓(受験生への早期接触と多様な高校生へのアピール) 3. 看護栄養学研究科の広報活動強化 【重点課題】 1. 大学院入学者数の増加にむけた広報活動の充実(昨年から継続) 2. 栄養学科の志願者数の増加にむけた広報活動の充実(昨年から継続)

2. 学生の受け入れ

担 当： 助産広報委員会

本年度の活動目標	アドミッション・ポリシーに適った志願者が増加するよう、広報効果の最大化を図る。 大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄 基準5 学生の受け入れ ①、②、③、④ 助産評価機構の点検・評価項目の基準番号等記入欄 第3章 入学者選抜 3-1-1、3-1-2、3-1-3、3-1-4、3-2-1 中期計画戦略目標に該当する項番記入欄 VI-1
活動内容の評価	[活動内容] 学生受け入れ方針に基づき、志願者確保ため以下活動を実施した。 (1) 資料送付 大学パンフレット・フライヤーを全国看護系大学対象に一斉送付し、実習先病院などにも持参した。 (2) オープンキャンパス（OC） 次のコンテンツを実施した。 ・研究科紹介・施設見学・学生交流 ・学生発表（受験体験、学習・実習体験、学生生活など） ① 第1回 6月 1日（土）WEB型、参加者数：27名 ② 第2回 8月10日（土）対面型、参加者数：29名 ③ 第3回 3月10日（月）対面型、参加者数：7名（天使大学 学部生限定） (3) 公式ホームページ（HP）によるPR 大学案内、入学者選抜要項、ショートムービー等 [活動内容に対する自己評価] 上記活動により、志願者を一定数確保した点について評価できる。引き続き、助産研究科の情報発信を積極的に行って、アピールを強化したい。
次年度への課題	1. 魅力あるオープンキャンパスの検討を行い、志願者増を図る。 2. 天使大学 看護学科学生に対する広報活動を強化するため、学部生限定のオープンキャンパス開催や本学助産研究科の魅力を直接アピール（例：旧アッセンブリアワーのような枠があったら）する機会を設ける。

3. 教育研究組織

担 当： 教育研究評議会

本年度の活動目標	1. 人事方針の早期策定と公募開始時期の前倒し 2. 教員採用に関する理事会と天使大学学長との適切な役割分担 3. 法人合併後の藤女子大学と天使大学の教員の連携協力の可能性の検討 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準6 教員・教員組織 ①、②、③、④ (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) 戦略目標 教育に関するビジョンの構築
活動内容の評価	1. 人事方針の早期策定と公募開始時期の前倒しについて [活動内容] 2025 年度の教員採用に向けて、5 月に各学科長等からの人事ヒアリングを行い 5 月の天使大学管理運営協議会で 2025 年度人事方針を決定した。法人合併により一般教員については管理運営協議会で募集大綱を決定することになったため、7 月から教員の公募を開始した。 [活動内容に対する自己評価] 教員募集大綱の早期決定、教員公募の 7 月開始については評価できる。 なお、公募しても教員の応募がないことについては課題である。 新学長の決定に伴う後任教員の採用が遅れたことは、学長決定時期を考えるとやむを得なかった。 2. 教員採用に関する理事会と天使大学学長との適切な役割分担 [活動内容] 天使大学の教員採用、契約更新、昇任等については、従来の学内手続きに加えて法人合併により管理運営協議会で決定した後、藤天使学園常任理事会で採用、更新、昇任等を決定することになった。 常任理事会の日程を考慮し、教員選考委員会等の学内スケジュールを組み込んだため、予定通りの日程で決定できた。 [活動内容に対する自己評価] 教員の採用から選考までの学内手続きについて天使大学学長に委任されたので、常任理事会で円滑な決定が行われたことを評価し、次年度も引き続き公募開始から採用決定に至る日程調整に留意して進めていきたい。 3. 法人合併後の藤女子大学と天使大学の教員の連携協力の可能性の検討 [活動内容] (1) 教養教育科のあり方検討に関しては、2024 年度に藤女子大学との間で具体的な協議は行われなかったが、2 月に両大学学長間で次のとおり協議していくことで合意した。 法人統合協議会で検討し、法人合併理由書に記載した「複数大学設置法人の教学上の特例（連携開設科目）や基幹教員制度の活用」の進め方について、藤女子大学

	渡邊学長、福本常務理事（大学企画人事局長）、天使大学田畑学長、二宮学長予定者、法人局長の間で協議した。 天使大学の教養教育科のあり方検討が課題となっていることを説明し、藤女子大学の文学部カリキュラム改正の関連で新年度から両大学間の連携について協議を開始することについて合意した。 進め方や検討体制については、新年度になって整理することにした。 （２）藤女子大学人間生活学部（2025 年度からウェルビーイング学部に変更）については、学長により学科再編の方針が示されており、今年３月理事会で審議決定される予定である。競合学科を含む人間生活学部の改革が本学栄養学科にどのような影響があるのかを注視していきたい。 本学としても新学長の下で理事会及び常任理事会に報告できるよう、両大学の連携について検討を進めていく予定である。 （３）藤女子大学人間生活学部こども教育学科から、2025 年度に本学の看護学科小児看護領域教員に対して 15 コマの講義依頼があり、法人合併の意義を理解していただき、引き受けていただくことが決定した。 [活動内容に対する自己評価] 藤女子大学では、2024 年度に就任した新学長の下で、文学部及び人間生活学部の改革が検討されている。このような藤女子大学の取組を捉えて、両大学間の連携について学長同士が認識を共有したことは評価できる。 また、新年度から相互の教員による協力が一層図られることは、同一法人の下の大 学としての連携のあり方として評価に値する。
次年度への課題	1. 早期の教員公募開始の継続 2. 教員採用に関する理事会と天使大学学長との適切な役割分担 3. 藤女子大学と天使大学との連携の検討推進

4. 研究活動・研究環境

担 当：学術振興委員会

本年度の活動目標	1. 科学研究費等競争的外部研究資金獲得のための情報提供や研究発表の機会を設け、研究意欲の発揚と共同研究の推進に努める。 2. 天使大学紀要を年2回発行する。 3. 2022年度本学ホームページに設置した「本学の研究活動」を研究成果の発信ルートとして、学内の学術情報流通の拠点を目指す (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準 8 教育研究等環境 ③④ (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) IV-2 (3)
活動内容の評価	1. 科学研究費等競争的外部研究資金獲得のための情報提供や研究発表の機会を設け研究意欲の発揚と共同研究の推進に努める。 [活動内容] 研究報告会については、該当者がいる場合は年度末3月に研究成果等の実績報告会を開催し、本学紀要ないしは他誌への投稿を促している。2024年度特別研究費は4名採択されたが、いずれも研究期間が2024年度から2025年度までの2年間のため、今年度の研究報告会を開催しない。 [活動内容に対する自己評価] 研究報告会については、該当者がいる場合は年度末3月に研究成果等の実績報告会を開催し、本学紀要ないしは他誌への投稿を促していることは評価できる。 [活動内容] ㈱羊土社が主催する「科研費獲得ウェビナーfor2024」の募集を行い、16名の参加申込みがありオンデマンドで実施した。 [活動内容に対する自己評価] ㈱羊土社が主催する「科研費獲得ウェビナーfor2024」に16名の参加がありオンデマンドで実施したことは評価できる。 講演内容についても「科研費獲得の方法とコツ」著者の児島将康氏から採択に近づくための応募戦略や、より良い申請書の書き方のノウハウを豊富な事例をもとにご講演いただいたことは大変参考になった。今後も、活用していきたい。 [活動内容] 各学科・科の協力のもと経験豊富な教授5名に「科学研究費アドバイザー」を依頼して、相談体制を整備した。 [活動内容に対する自己評価] 各学科・科の協力のもと「科学研究費アドバイザー」を選出・依頼し科学研究費の採択率や獲得額の増大を目指すとともに、教育研究環境の向上を図るために、申請書の作成等各種相談体制を整備し、大学が一丸となって協力体制を構築していることは評価できる。今後も、学科・科の枠組みを越えた協力体制を維持していきたい。 [活動内容] 若手研究者のための「よろず相談」として、今年度も学術振興委員5名が相談員となって、研究環境や研究倫理に関することを中心に相談に対応した。

〔活動内容に対する自己評価〕

若手教員の研究活動が推進されるよう、学術振興委員が中心となって、研究のための「よろず相談」体制を整備し、相談に対応できたことは評価できる。今後もこの体制を維持していきたい。

〔活動内容〕

科学研究費補助金や本学特別研究費への申請件数が少なく、また科研費採択課題での論文発表数が非常に少ない状況について、個々の教員の力量では解決できない組織的な原因が根底にあるものと考え、教員の研究環境を調査して、研究活動の活性化に向けた提言を行うべく全ての教員（助手含む）を対象に昨年度アンケートを実施した。その結果、教員間での研究に関する情報交換やディスカッションの機会がないため、お互いの研究についても知る機会が無いという意見に端を発して 2024 年度 F D 研修会「研究に関する教員交流会」を企画・実施した。

1. F D 研修会（2024 年度研究に関する教員交流会）

- 1) 目的 教員間での研究を通じた交流
- 2) 内容 ポスター掲示による研究発表、基調講演、フリーディスカッション
- 3) 日時 2025 年 3 月 17 日（月）～21 日（金）
- 4) 会場 6101 講義室
- 5) 対象 本学教員（希望する職員も参加可）

2. ポスター掲示による研究発表

- 1) 期間 2025 年 3 月 17 日（月）～21 日（金）
- 2) 会場 6101 講義室 ※この期間、自由に閲覧
- 3) 発表 12 名

（教養教育科 1 名、助産研究科 2 名、看護学科 5 名、栄養学科 4 名）

3. 基調講演・フリーディスカッション（対面開催）

- 1) 日時 2025 年 3 月 21 日（金）

10：00～10：40 教員による基調講演

演題：研究を推進する 2 つの力-組織と個人-

講師：看護栄養学研究科教授 城丸瑞恵先生

10：40～11：10 掲示してある研究についてのフリーディスカッション

〔活動内容に対する自己評価〕

昨年度実施したアンケートの意見を取り入れて、今年度早速、F D 研修会として「研究に関する教員交流会」を企画・実施出来たことは評価できる。

この教員交流会が、教員各々が行っている研究内容や研究成果について紹介する場、共有する場として定着し、教員同士が気軽に研究について語り合える場とした。領域や職位を越えた研究交流により、学内の多様な研究を知る機会を通じて、教員同士の交流がより活発になり、新しい視点から様々な発見を通して、新たな共同研究へのきっかけにも繋がることを期待したい。

2. 2024 年度天使大学紀要を年 2 回発行する。

〔活動内容〕

2024 年度天使大学紀要第 24 巻第 1 号、第 2 号を発行した。

1) 紀要第 25 巻第 1 号（2024 年 9 月 30 日発行）

原著：1 件 報告：3 件

	2) 紀要第 25 巻第 2 号 (2025 年 3 月 31 日発行) 報告: 1 件 [活動内容に対する自己評価] 2024 年度天使大学紀要第 25 巻第 1 号、第 2 号を 2 回発行し、機関リポジトリに公開したことは評価できる。 引き続き、2025 年度も天使大学紀要第 26 巻第 1 号、第 2 号を 2 回発行し、機関リポジトリに公開する。 3. 2022 年度本学ホームページに設置した「本学の研究活動」を研究成果の発信ルートとして、学内の学術情報流通の拠点を目指す。 [活動内容] 掲載情報を都度更新した。 [活動内容に対する自己評価] 学内外の学術情報流通の拠点として教員の研究活動や研究成果を紹介したことは評価できる。今後も、常に新しい情報を発信し、研究活動の活性化につなげたい。
次年度への課題	1. 科学研究費等競争的外部研究資金獲得のための情報提供や研究発表の機会を設け研究意欲の発揚と共同研究の推進に努める。 1) 2025 年度「研究に関する教員交流会」を企画・実施する。 2) 各学科・科の協力のもと「科学研究費アドバイザー」を選出・依頼し、申請書の作成等各種相談体制を継続して整備する。 3) 若手教員の研究活動が推進されるよう、学術振興委員が中心となって、研究のための「よろず相談」体制を整備する。 4) 特別研究費による報告会を、年度末 (3 月) に実施する。 2. 2026 年度天使大学紀要第 26 巻第 1・2 号を発行し、機関リポジトリに公開する。 3. 本学ホームページ「本学の研究活動」から常に新しい情報を発信し、研究活動の活性化につなげる。

4. 研究活動・研究環境

担 当： 研究倫理委員会

本年度の活動目標	1. 研究の活性化に対応する倫理審査の実施 2. 迅速かつ厳正な倫理審査 3. 教員の倫理的感受性の向上への取組 4. 適切な倫理審査体制の整備 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準 8 教育研究等環境⑤ (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)
活動内容の評価	1. 研究の活性化に対応する倫理審査の実施 [活動内容] 年度初めに作成した日程表に基づき、滞りなく委員会を開催した。 [活動内容に対する自己評価] 研究の活性化に対応するため、原則として毎月開催することで、切れ目なく倫理審査を実施することができた。(審査件数：37 件) 2. 迅速かつ厳正な倫理審査 [活動内容] 倫理審査の焦点を明確にし、研究対象者の保護と権利の確保に重点をおき倫理審査を行った。また、委員会開催前に委員に対し申請書類を配布し、事前に意見聴取を行った上で審議を行った。 [活動内容に対する自己評価] 研究倫理委員会として公正な審査を実施することができた。また、各委員からの意見を事前に申請者に伝え、必要に応じ修正された申請書類を委員会で審議することで、迅速な倫理審査を実施することができた。 3. 教員の倫理的感受性の向上への取組 [活動内容] 研究を実施する上で留意すべき事項について理解を深めるため、「臨床研究における不適正事案とその対策について」及び「学生を研究対象者とした研究について」を主な内容として、研究倫理研修会をウェブセミナー形式で7月に開催した。 また、研究倫理研修会開催前の申請については、日本学術振興会によるeラーニング研修の受講により対応した。 [活動内容に対する自己評価] 倫理指針に定められた研究を行う上で遵守しなければならない事項についての理解が深まり、本学教員の倫理的感受性の向上に繋げることができた。

	4. 適切な倫理審査体制の整備 [活動内容] 年度初めの委員会において、研究倫理委員長代行を指名するとともに、倫理審査の進め方などの本学研究倫理委員会の倫理審査体制についてあらかじめ委員間で確認を行った。 [活動内容に対する自己評価] 倫理審査の進め方および倫理審査体制についてあらかじめ確認しておくことで、委員会の運営を円滑に進めることができた。
次年度への課題	1. 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、研究対象者の保護と権利の確保に重点をおいた公正な審査を行うとともに、従来どおりの迅速な倫理審査を実施する。 2. 引き続き、倫理審査体制の改善および倫理体制の明確化を図り、委員会の運営がより円滑に行われるよう取組を行う。 3. 学内外からの要請により新たに見直しや検討を行うべき事項が生じた場合は、直ちに委員会で検討し、必要な対応を行う。

5. FDSD活動

担 当： FDSD委員会

本年度の活動目標	1. 「天使大学における人材育成の目標・方針とFDSD実施計画」に掲げる目標を達成するため、別に定める「FDSD活動実施要領」に基づき研修等を実施する。 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準 6、基準 10 (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) Ⅱ－3
活動内容の評価	1. 教員間の授業参観の実施について [活動内容] 参観の方法について、対面授業の増加等に伴い、各学科・科・研究科の参観用動画の提供最低数を削減すること、対面授業の Google Classroom への情報登録期限を変更することについて決定し、前期に実施要項を改正した。 また、対面授業の参観方法について、科目担当者より発信があった指定授業のみに限定せず、教員が自主的に科目担当者に交渉し参観した授業も授業参観報告書の提出により「授業参観」として認めることとし、教員へ周知した。これについて、実施要項への明記は次年度の改正とした。 [活動内容に対する自己評価] 教員の自主的な交渉による授業参観を認めたことで、対面授業への参観の促進につながった。一方で、対面授業の Google Classroom への情報登録が少ないため、参観が可能な授業については情報登録をするように、教員へのアナウンス・働きかけを強化する必要がある。 授業参観の実施状況について、2025 年 2 月 18 日現在で 21 名の参加にとどまっている。しかし、例年開講期終了後の 2～3 月にかけて参観する教員が多いため、年度末にかけて参加者数を伸ばすものと考えている。 2. 学生による授業評価アンケートの実施と見直しについて [活動内容] 前期及び後期に学生による授業評価アンケートを実施した。 アンケートについては 4 年毎に見直すこととしており、見直し後の運用開始時期を 2025 年度としていたが、2026 年度の新教務システムの導入に合わせて、見直し後の運用開始時期をさらに 1 年延長し 2026 年度とした。また、アンケートの質問項目や選択肢の見直しを行い、2026 年度から運用する新たなアンケートが完成した。 [活動内容に対する自己評価] 2024 年度の学生による授業評価アンケートは滞りなく実施できた。 アンケートの質問項目や選択肢の見直しについて、第 2 回 FDSD 研修会でワークショップを実施し、前年度に引き続き、教職員の積極的な議論の末、新たなアンケートを完成させることができたことは評価できる。

	3. FDSD 研修会の実施について [活動内容] FDは、本委員会主催の研修会を対面で8月に実施したほか、7月に研究倫理委員会、10月に助産研究科、2025年1月に教職課程委員会と看護栄養学研究科看護学専攻、2月に看護栄養学研究科栄養管理学専攻が主催した研修会をそれぞれ実施した。 SDは、本委員会主催の研修会を対面及び動画配信で8月に実施したほか、6月に学園が学校法人藤天使学園発足記念式典及び記念講演会、8月に大学が教職員説明会、同じく8月にキャンパス・ハラスメント対策委員会の主催でハラスメント相談員研修会、12月に宗務委員会が教職員修養会をそれぞれ実施した。 [活動内容に対する自己評価] 多くの研修会が動画視聴による参加も可能としたことで、教職員の参加機会が確保された。 また、本委員会主催の第1回FDSD研修会は、「継続的な学生募集の成功に向けた全学的な危機意識の共有」をテーマとして実施した。グループディスカッションを行い、教職員が互いに議論を交わすことで、本学が抱える課題解決に結びつく研修会が実施できたものとする。
次年度への課題	1. 2026年度から実施する「学生による授業アンケート」について、新教務システムへのアンケート機能の搭載に向けて学務課と検討を進める。また、実施に向けて各種要項等の見直しを行う。 2. 本学が抱える課題解決に結びつくような内容のFD・SD研修会を他部署と連携して企画し、実施する。

6. 社会貢献

担 当：地域連携等委員会

本年度の活動目標	1. 2024 年度天使大学・北海道科学大学公開講座の実施及び 2025 年度公開講座の企画 2. 東区役所との連携事業及び 5 者連携事業の推進 3. 大学間（北海道科学大学等）の連携事業等の展開 4. 地域・他大学との連携事業の実態把握 5. 国・行政の地域連携の施策等の把握 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準 9 社会連携・社会貢献 ①、②、③ （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） VII：地域連携と社会貢献の促進・充実 VII-1
活動内容の評価	1. 2024 年度天使大学・北海道科学大学公開講座の実施及び 2025 年度公開講座の企画 [活動内容] オンデマンド形式で開催し、145 名（2023 年度 198 名）の受講申し込みがあった。 2025 年度についても引き続きオンデマンド形式にて開催する予定である。 [活動内容に対する自己評価] 2021 年度以降オンデマンド形式で開催しており、時間や場所の影響を受けないという利点から対面時よりも受講申込者数は多い状況となっている。年齢層は若返って多様であり（50 代以下、62.7%）、今回が初めての参加という割合は半数を上回っている（52.9%）。受講申込者数は昨年度より減少しており、知ったきっかけはホームページと本学からの郵便物の割合が高く、広報という点が課題である。また、実施運営の在り方（担当講師の負担の平準化等）についても検討が必要である。 2. 東区役所との連携事業及び 5 者連携事業の推進 [活動内容] 1) 5 者連携事業イベント「ひがしく健康・スポーツまつり」（つどーむ）でブース参加（「天使大の健康塾～いつまでも元気で楽しく生きるための健康チェック～食事バランスチェック&血圧・血管年齢・握力・ふくらはぎの周囲長測定」）を行い、教職員と学生（両学科計 20 名）が参加した。地域住民約 200 名の参加があった。 2) 東区役所からの依頼で東区の主催事業や各地区イベントのボランティア募集に協力した。 [活動内容に対する自己評価] 1) 実施内容について更新し、子ども向けの握力計も持参し測定をおこなったところ、親子で楽しく握力測定をしている姿も見られた。アンケート集計結果からも、2023 年度は 70 代の占める割合が最も多かったが（23.7%）、2024 年度は 30 代が最も多くなった（20.2%）。 2) 東区主催の事業でボランティアの応募はあったものの、学内での広報が課題である。 3. 大学間（北海道科学大学等）の連携事業等の展開 [活動内容] 1) 北海道科学大学が実施する「夕張地域医療体験」（3 月上旬）について、参加学生の募集を行ったが、応募がなかった。 2) 藤女子大学との連携の可能性について検討を行う。 3) 介護予防センターとの連携協力を行い、3/7 に鉄東会館にて両学科学生が健康講話

	を行う（テーマ『ウォーミングアップで始まる春支度～健康に活動できる体づくり～』）。 [活動内容に対する自己評価] 1) 夕張地域医療体験は、これまで宿泊費を全額補助していたが、今年度から自己負担が発生することが大きな要因と思われる。募集の際、地域医療体験の意義や魅力を伝える工夫が一層必要である。 2) 藤女子大学との連携の可能性について検討を行うこととしたが、今年度は具体的な行動にまでは移せなかった。藤女子大学の担当部署に情報交換を行うことを打診しており、次年度、情報交換の状況を踏まえ連携して行える事業がないか検討を行うこととしている。 3) 評価報告書記載時は実施前のため評価が行えないが、両学科計 8 名の 3 年次学生が、ボランティアとして立候補し、当日に向けて準備を進めている。具体的には、テーマ・内容（骨密度測定、講話：骨粗鬆症予防、骨・筋肉を強くする運動）を自分たちで企画し、看護・栄養それぞれの強みを生かして具現化を進めている。 4. 地域・他大学との連携事業の実態把握 [活動内容] 8 月に東区役所が開催した「タッピーフレンズ交流会」に地域連携等委員 1 名と学務課員 1 名が出席した。 [活動内容に対する自己評価] 地域において本学を認知してもらう機会となった。今後も積極的に参加し、本学について発信し続ける必要がある。また、地域のニーズに対し、本学としてどのように実施・連携につなげていくかのシステム構築が課題である。 5. 国・行政の地域連携の施策等の把握 [活動内容] 今後の動向について委員会で情報を共有しながら把握を行った。 [活動内容に対する自己評価] 国の動向を引き続き情報を把握していく。
次年度への課題	1. 5 者連携事業をはじめ、東区役所との連携を一層推進していく。 2. 本学 web サイトを通じ社会貢献・地域連携活動の情報を発信する。 3. 北海道科学大学・介護予防センター等との連携について検討する。 4. 国・行政の地域連携の施策の動向を把握し、本学の取組について検討していく。 5. 地域のニーズについての情報共有・実施連携のシステム構築について検討していく。 6. 地域連携の取組に学生の参加を促す方策について検討していく。

7. 国際交流

担 当： 国際交流委員会

本年度の活動目標	活動休止中 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)
活動内容の評価	活動休止中
次年度への課題	活動休止中

8. 学生生活

担 当： 学生委員会

本年度の活動目標	1. 学生生活の充実・向上を支援する（生活指導を含む）。 2. 学生の健康を支援する。 3. 学生会（葦の会）活動、学校行事、課外活動（部活動、ボランティア等）を支援する。 4. 学生の海外研修を企画・実施する。 5. 「学生に関する事件・事故・不祥事等 危機管理個別マニュアル」の整備を継続する。 6. 学生からのニーズをふまえ、奨学金制度の見直しを継続する。 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準7 学生支援①～③ （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） VII-1、VII-2、VII-4、VIII-1、VIII-3、IX-6
活動内容の評価	1. 学生生活の充実・向上を支援する（生活指導を含む） [活動内容] （1）生活全般に関する啓発活動 ①札幌司法書士会による「法律教室」の実施 「新成人が社会に出て気を付けたいこと」（アルバイトやSNS、成年と未成年の違い、クレジットカード等の多重債務等）をテーマとし、学部1、2年次生を対象に実施した。参加した学生のアンケート結果で、「将来役に立ちそうな内容か」、という質問に対し、84.6%の学生が「絶対役に立ちそう」と回答した。 ②一人暮らし簡単レシピの配布 在学生や、大学入学を機に一人暮らしを始める新入生に対し、学生委員会で作成した簡単レシピ集（PDF版）を配布した。 （2）学生食堂の改善 ①学生食堂の席数の増設 学生生活実態調査および卒業・修了時アンケートで毎年要望されている学生食堂の机といすの増設について天使大学後援会に助成要望書を提出した。 ②学生食堂でのイベント開催 学生委員会で行っているアンケート結果を委託業者と共有し、適宜改善に努めている。今年度は、11月にJAそらち南から農産物無償提供をしていただき「農産物たくさん食べよう」フェア、12月にミルクラ×雪印メグミルクが考案したメニューの提供、Food com×北海道庁農政部×魚国総本社×キリンビバレッジによる「北海道3つの白いたべものフェア」を開催し、多くの学生に利用していただいた。 [活動内容に対する自己評価] （1）生活全般に関する啓発活動 ①札幌司法書士会による「法律教室」の実施 参加者数は少なかったが、参加した学生のアンケート結果から大学生活において重要性が高い内容であったと考えられる。次年度は成人する学生（1年次生）を対象として、入学後間もない時期に予定している。 ②ひとり暮らし簡単レシピの配布 一人暮らしの学生、特に大学入学を機に一人暮らしをする新入生に対し、生活面のサポートをすることができたことは評価する。 （2）学生食堂の改善 ①学生食堂の席数増設 学生生活実態調査結果とこれまでの学生食堂の利用者数の状況をふまえた増設要望

に対し、その必要性について全学の理解が得られ、改善に向けて進んだことは評価できる。また、改善の一環として学生食堂の席を適切に利用していただくよう、ルールを当委員会で定め、整備したことは評価できる。

②学生食堂でのイベント開催について

期間限定のイベントを開催し、特別メニューや特別価格での提供により学生食堂への関心を高め、利用を促すことができた。

2. 学生の健康支援

[活動内容]

(1) 学生の心身の健康に関する支援

①「保健相談室ニュース」、「学生相談室ニュース」の発行

保健相談室ニュースと学生相談室ニュースの掲載記事に対する要望や助言を行った。

②出校停止の取扱いの見直し

現行の出校停止の取扱いが1年半以上経過し、現状を踏まえた運用への見直しを、健康管理運営委員会が主体で当委員会と連携して行った。

(2) 障害学生への支援

毎年度周知している障害学生支援の基本方針等を、全学生および全教職員に対して11月に周知した。

[活動内容に対する自己評価]

(1) 学生の心身の健康に関する支援

①「保健相談室ニュース」、「学生相談室ニュース」の発行

各ニュースをとおして、学生の心身の健康増進をサポートができた。

②出校停止の取扱いの見直し

健康管理運営委員会が主体となり、当委員会と連携して、新たな出校停止の取扱いに関する整備することができたことは評価できる。

(2) 障害学生への支援

適切かつ迅速な対応のため、教職員は早い時期に知る必要があり、11月では対応が遅くなると考えられ改善することとした。次年度は4月中に周知する。

3. 学生会（葦の会）の活動・行事、課外活動（部活動、ボランティア等）を支援する

[活動内容]

(1) 葦の会役員が中心に企画・運営する行事の支援

①天使祭の開催

健康増進に関する出展(健康チェック・栄養体験コーナー、東区保健センター)、セラピー犬とのふれあい体験、キッチンカー出店、縁日ブース等のコンテンツを催した。

②体育祭の開催

学生の要望をふまえ、北海きたえーるで開催し、昨年度よりも多くの学生が参加した。昨年度同様に1日で開催し、6競技行った。

(2) 葦の会役員を対象とした研修会の実施および学生委員との交流会

次年度の天使祭や体育祭、学生総会等を企画・運営する役員を対象に、企画をすすめるために必要なスキルの体得を目的としたリーダー研修会を実施した。また、学生委員との交流会を実施し、次年度の天使祭や体育祭等に向けて意見交流した。

(3) 学生の課外活動（部サークル活動）への支援

部サークル団体と企業とのコラボ等における相談、調整等の支援をした。

(4) 合唱コンクールの再開

	2020 年度以降初めて実施することに伴い、新たに実施要項にととのえ、発表者のみならず鑑賞する学生や教職員も審査に参加できる方法で開催した。 [活動内容に対する自己評価] (1) 葦の会役員が中心に企画・運営する行事の支援 ①天使祭の開催 他大学の学生や地域住民等幅広い層が来場したが、昨年度に比べ来場者数が減少したため、より多くの方々に来場していただけるようコンテンツの見直しや早期の情報発信が必要である。葦の会が円滑に運営できるようサポートしていく。 ②体育祭の開催について 葦の会で実施したアンケート結果をふまえ、北海きたえーるでの開催および競技の選定をした。競技ルールの確認が不十分でトラブルは発生したが、大過なく概ね順調に実施された。本学体育館での実施も葦の会で改めて検討する。 (2) 葦の会役員を対象とした研修会の実施および学生委員との交流会 研修会や交流会等をふまえ、葦の会で次年度の活動内容、葦の会主催の行事を検討することができた。葦の会の活動を関係部署と連携して適宜サポートしていく。 (3) 学生の課外活動（部サークル活動）への支援 部サークル団体から相談、調整等の支援をすることで、学生の課外活動を大過なく順調に進められるようにしたことは評価できる。 (4) 合唱コンクールの再開 評価点に、参加している学生、教職員の投票を加えたこと、合唱前に応援パフォーマンスを加えたことで当日参加していた学生全員が合唱コンクールに関われるようにしたことは評価できる。 4. 学生の海外研修の企画・実施 [活動内容] 研修の目的を見直すとともに研修プログラムを再考し、本学の特色ある海外研修を企画した。2024 年 8 月に学生募集を行ったが最少催行人数に達せず中止とした。 [活動内容に対する自己評価] 新たなプログラムによる海外研修を再開させ、学生募集まで行ったことは評価できる。引き続き 2025 年度以降の海外研修事業の検討課題を精査していく。 5. 「学生に関する事件・事故・不祥事等 危機管理個別マニュアル」の整備 [活動内容] マニュアル全体の見直しを行うとともに自転車事故が多発したため、交通事故に関する内容を含めることとした。 [活動内容に対する自己評価] 事例ごとの対応を増やせたことは評価できる。引き続き危機管理個別マニュアルの整備をし、不測の事態に備えマニュアルを充実させる。 6. 奨学金制度の見直し [活動内容] 過去申込状況や奨学金に関するアンケート結果から、奨学金制度の見直しを行った。 [活動内容に対する自己評価] 現行の奨学金制度を見直し、学生のニーズをふまえた新しい奨学金制度を整備したことは評価できる。
--	--

次年度への課題	1. 学生の生活面における啓発活動を実施し、学生がトラブルに巻き込まれないための基礎知識を身に付けてもらう。 2. 葦の会が主催のイベントについて、関係部署と連携してサポートしていく。(天使祭、体育祭、喜びのわかちあい、学生総会等) 3. 危機管理マニュアルの整備をし、様々なケースを盛り込んだ充実したマニュアルにする。 4. 新しい奨学金制度の運用に対する点検評価をする。 5. 海外研修事業を検討課題について引き続き精査する。
---------	---

8. 学生生活

担 当： 保健相談室

本年度の活動目標	1. 学生の健やかな学生生活のため、学生の身体的・精神的な健康をあらゆる角度からサポートするとともに、さまざまな啓発活動を行う。 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準 7 学生支援 ①～③ (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) VII-2、IX-6
活動内容の評価	1. 学生への健康面からのサポート・啓発活動 (1) 学生の健康や生活等の面接相談 [活動内容] 保健相談室を利用した学生の件数は4～7月が1番多く平均70件の利用があった。そのうち、相談件数は平均45件であった。相談内容は体調に関すること、心に関すること、友人関係など多岐にわたり学生の状況に応じ学校医、学生相談室、支援教員と連絡を取りながら対応した。また、年度初めに実施した健康調査票に基づき、既往歴や現病歴から必要に応じて個別面談を行った。障害学生に対しては、関係教職員と情報共有しながら継続的に適切な支援を心がけた。 [活動内容に対する自己評価] 気軽に相談できる場になるよう温かな対応を心がけた。特に障害を持つ学生については困った時に第一相談窓口となるよう学生との良い関係づくり留意した。 学生にとって敷居の低い、相談しやすい環境を維持した。健康調査票については、質問項目が明確ではなかったため、2025年度については修正した新しい健康調査票により実施する。今後も個人情報の取扱いに留意しながら、関係教職員・学校医と適切に連携を図っていく。 (2) 学生・教職員のケガ・体調不良への応急処置、医療機関の紹介・連携 [活動内容] ケガや体調不良者に対して応急処置や休養を促し、必要に応じて医療機関の受診を勧奨した。早急な受診や単独での帰宅にリスクがあると判断したケースでは、保護者と連絡を取り、学生の安全が確保されるよう配慮した。 [活動内容に対する自己評価] 学生の安全を第一とした対応ができた。今後も、学務課等と連携しながら、適切に対応していきたい。 (3) 掲示・イベントなどによる、健康情報等の発信・啓発 [活動内容] ① 行事や季節に合わせて、計4回、保健相談室ニュースを発行した。 第1号(5月)「暑熱順化」 第2号(7月)「HPV ワクチンの公費接種期間が終わっちゃうよ」 第3号(9月)「インフルエンザ予防接種実施」 第4号(2月)2025年度「学生定期健康診断について」 ② 保健相談室前に、月に2回「健生ニュース」を掲示し、健康について最新の情報を提供した。 ③ HPV ワクチンキャッチアップ接種について、今年度が最後の年であったため情報の掲示、リーフレットの設置、母性の授業の中での紹介等、積極的に推奨を行った。

- ④ 学生相談室と合同で「こころの健康ミニ講座」を3回実施した。その中で初めての試みで外部講師を招き「ヨガ教室」を行った。参加人数が14名と多く好評であった。

[活動内容に対する自己評価]

- ・HPVワクチン接種は、学生のアンケート調査から46.9%の学生が接種しており、未接種者53.1%のうち43%が今後接種したいと回答していた（天使大学看護栄養学研究科看護学専攻保健師コース 田中志穂氏「キャッチアップ世代の大学生におけるHPVワクチン接種の選択に関する要因」より引用）。19歳～22歳の同世代での接種率が37～47%（2024年11月27日 厚生科学審議会資料より）であることを踏まえると、学生の接種しようとする行動に少なからず影響を及ぼしたと一定の評価ができると考える。
- ・「こころの健康ミニ講座」は、今回初めて実施したヨガ講座が好評であり、参加者のニーズに合った良いプログラムであった。しかし他の講座はなかなか集客に困難を感じており、実施内容、場所、時間等、検討が必要と考える。ただ、学生と相談員が出会える貴重な場でもあるので、工夫をしながら継続して実施していきたいと考えている。

(4) 定期健康診断、感染症予防のための抗体価検査、各種ワクチン接種等の実施

[活動内容]

- ① 4月6日（土）、7日（日）定期学生健診実施した。未受診の学生については随時、健診センターで受けられるよう保健相談室が窓口となり受診勧奨を行った。
- ② 精密検査該当者には個別に通知し、受診勧奨と事後フォローを行った。
- ③ 改訂された「実習のための感染症予防プログラム」に基づき、小児4種感染症とB型肝炎ワクチン接種を学内で3回実施した。個別接種のフォローも行った
- ④ インフルエンザワクチンの学内接種を2回実施し、学生・教職員合わせて159名実施した。

[活動内容に対する自己評価]

- ・学生健診は、職場健診を受けた大学院生と長期に休んでいる学生を除き全員受診できた。次年度からの健康診断の実施は2日間から1日になり、それに伴い抗体検査の実施等が変更になる。実施機関、各学科との連携を密に測り円滑な実施に心がけたい。
- ・「実習のための感染症予防プログラム」改訂による支障は現時点で出ておらず、昨年同様、従来よりも学生の身体的・経済的負担が軽減した点や、早期に実習参加の要件を満たすことができる点、記録管理が容易になった点から改訂の意義があったと評価している。

(5) 学校医との連携

[活動内容]

保健相談室利用状況の報告や学校保健に関する相談を必要に応じて随時行った。学校医による学生の健康相談を再開し、4件の相談があった。

[活動内容に対する自己評価]

学校医が学内に常駐している事で、相談や連携を細やかに行うことができた。また、学校医による学生の健康相談は、学生の安心につながる相談場所として大切であるので、今後も連携を取り、学生の健康保持に努めていく。

(6) 学校保健に関する研修会に参加しての知見の習得、他大学の情報把握

	[活動内容] 全国大学保健管理協会主催の北海道地方部会研究集会（北見市 オンライン）と全国研究集会（神戸市）に参加した。他大学の学校保健関係者（保健師・看護師）と、メール等で保健業務に関する情報交換を行っている。 [活動内容に対する自己評価] 全国大学保健研修会参加により、大学保健に対する国の施策や全国の大学の動き等、大学の中にいだけではわからない学びを得ることができ大変有意義であった。また、他大学との交流に相談や情報交換ができ、一人仕事ゆえの困りごとの解決に助けとなっている。 次年度も研修会の参加や他校との交流を継続していきたい。
次年度への課題	1. 健康調査票の質問項目の修正と評価 2. 「実習のための感染症予防プログラム」の継続と評価 3. 多様な背景を持つ学生への支援

8. 学生生活

担 当： キャンパス・ハラスメント対策委員会

本年度の活動目標	1. 法人のハラスメント防止委員会と統合するため、委員会の体制を見直す。 2. 学生向けハラスメント講演会の参加者を増やすため、開催方法や時期、周知方法について検討する。 3. キャンパス・ハラスメント実態調査アンケートの回答率を増やすため、開催時期および周知方法について見直す。 4. 2024 年度に法人のハラスメント防止委員会と統合することに伴い、学生だけではなく教職員も含めた啓発活動の実施を検討する。 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 7. 学生生活支援①② (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) VII-2-(4) ハラスメントへの対応																																				
活動内容の評価	1. 法人のハラスメント防止委員会と統合するため、委員会の体制を見直す。 [活動内容] 2024 年度から、学校法人天使学園ハラスメント防止委員会と天使大学キャンパス・ハラスメント対策委員会が統合することに伴い、2024 年 4 月 1 日付けで、天使大学キャンパス・ハラスメントの防止等に関する規程を改正した。 併せて、天使大学ハラスメント防止および問題解決のためのガイドライン及び天使大学ハラスメント相談員マニュアルを改正した。 [活動内容に対する自己評価] 規程、ガイドライン及び相談員マニュアルを改正し、学内 LAN 掲示板及び T-NAVI から教職員及び全学生に周知した。また、委員会が統合したことに伴い、構成員に学内理事 2 名が加わり、体制を整えた。 2. 学生向けハラスメント講演会の参加者を増やすため、開催方法や時期、周知方法について検討する。 1) 新入生を対象としたハラスメント講演会 [活動内容] 看護栄養学部両学科及び助産研究科の新入生を対象としたハラスメントに関する講演会を、2024 年 6 月 12 日～7 月 31 日の期間にオンラインで開催した。 <table><tr><td colspan="2"></td><td>在学生数</td><td>参加者</td><td>参加率</td><td>2023 年度の参加率</td></tr><tr><td>看護学科</td><td>1 年</td><td>104</td><td>99</td><td>93%</td><td>88%</td></tr><tr><td>栄養学科</td><td>1 年</td><td>66</td><td>49</td><td>74%</td><td>95%</td></tr><tr><td colspan="2">学部合計</td><td>170</td><td>146</td><td>86%</td><td>91%</td></tr><tr><td>助産研究科</td><td>1 年</td><td>19</td><td>11</td><td>58%</td><td>90%</td></tr><tr><td colspan="2">総合計</td><td>189</td><td>157</td><td>83%</td><td>91%</td></tr></table> [活動内容に対する自己評価] 全体の参加率が前年度に比べると 8%下がった。ハラスメントについて、特に看護栄養学部の新入生においては教育することが重要であることから、2025 年度は入学後すぐに対面で実施することを検討する。			在学生数	参加者	参加率	2023 年度の参加率	看護学科	1 年	104	99	93%	88%	栄養学科	1 年	66	49	74%	95%	学部合計		170	146	86%	91%	助産研究科	1 年	19	11	58%	90%	総合計		189	157	83%	91%
		在学生数	参加者	参加率	2023 年度の参加率																																
看護学科	1 年	104	99	93%	88%																																
栄養学科	1 年	66	49	74%	95%																																
学部合計		170	146	86%	91%																																
助産研究科	1 年	19	11	58%	90%																																
総合計		189	157	83%	91%																																

2) 看護栄養学部3年生を対象としたハラスメント講演会

[活動内容]

看護栄養学部両学科3年生を対象としたハラスメントに関する講演会を、2024年7月4日～8月31日の期間にオンラインで開催した。

		在学生数	参加者	参加率	2023年度の参加率
看護学科	3年	101	55	54%	67%
栄養学科	3年	92	31	34%	90%
合計		193	86	45%	78%

[活動内容に対する自己評価]

両学科の支援教員の協力があったにも関わらず、前年度よりも参加率が減った。次年度のさらなる参加率向上のため、引き続き周知方法や開催時期の検討が必要である。

3. キャンパス・ハラスメント実態調査アンケートの回答率を増やすため、開催時期および周知方法について見直す。

[活動内容]

キャンパス・ハラスメント実態調査アンケートについて、回答率を増やすため、2024年度は各学科・研究科各学年の実習終了のタイミングで実施することとした。

<看護栄養学部>

看護1年	2024年11月5日～11月30日
看護2年	2024年11月18日～12月15日
看護3年	2024年12月9日～12月31日
看護4年	2024年8月22日～10月11日
栄養1年	2025年2月6日～2月28日
栄養2年	2025年2月6日～2月28日
栄養3年	2024年11月18日～12月15日
栄養4年	2024年9月17日～10月15日

<看護栄養学研究科・助産研究科>

看栄研・助産1年	2025年2月17日～3月16日
看栄研・助産2年	2024年10月28日～11月24日
看栄研3年	2024年10月28日～11月24日

<看護栄養学部>

学科	学年	回答数	在籍数	回答率	前年度回答率
看護	1年	11	104	10.6%	42.5%
看護	2年	8	106	7.5%	23.8%
看護	3年	15	101	14.9%	12.0%
看護	4年	13	99	13.1%	13.1%
栄養	1年	37	66	56.1%	41.1%
栄養	2年	30	95	31.6%	15.2%
栄養	3年	11	92	12.0%	28.0%
栄養	4年	15	92	16.3%	21.1%
合計		140	755	18.5%	24.7%

	＜看護栄養学研究科・助産研究科＞					
	学科	学年	回答数	在籍数	回答率	前年度回答率
	看栄研	1 年	10	24	41.7%	16.7%
	看栄研	2 年	1	12	8.3%	
	看栄研	3 年	0	5	0.0%	38.9%
	助産	1 年	7	19	36.8%	9.5%
	助産	2 年	4	20	20.0%	18.2%
	合計		22	80	27.5%	20.3%
	＜全体＞					
	全体	回答数	在籍数	回答率		
	合計	162	835	19.4%		
次年度への課題	[活動内容に対する自己評価]					
	各学科・研究科各学年で実施時期を変えたが、回収率増加には至らなかった。次年度以降も実施時期や周知方法の検討が必要である。					
	4. 2024 年度に法人のハラスメント防止委員会と統合することに伴い、学生だけではなく教職員も含めた啓発活動の実施を検討する。					
	[活動内容]					
	教職員を対象として、2024 年 8 月 20 日に教職員向けのハラスメント研修会を対面で開催した。参加者は計 48 名であった。					
	[活動内容に対する自己評価]					
	全教職員が研修会に参加するために、実施時期や内容及び開催方法について検討する必要がある。					
	1. 学生向けハラスメント講演会を実施する。併せて、参加者を増やすため、開催方法や時期、周知方法について検討する。					
	2. キャンパス・ハラスメント実態調査アンケートの回答率を増やすため、開催時期および周知方法について見直す。					
	3. 教職員向けの研修会を実施する。					

8. 学生生活

担 当： 宗務委員会

本年度の活動目標	1. 建学の精神の浸透とキリスト教的精神に基づく人間の育成を図る。 2. 教職員に対し教育理念の具現化を目指す。 3. カトリックの精神に基づく宗教的環境を整備する。 4. カトリックの精神に基づく研修会への参加・助成をする。 5. アッセンブリー・アワーの内容・日程調整をする。 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準1 理念・目的 ①、②、③ (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) I－1 建学の精神の浸透
活動内容の評価	1. 建学の精神の浸透とキリスト教的精神に基づく人間の育成を図る。 1) 学生及び教職員を対象とする宗教的行事について [活動内容] ①学部・助産の「建学の理念正課外教育マニュアル」を見直し、修正した。 ②イースターの集いを企画運営し、学生担当から学生代表に依頼いただき、学生役割者を選出し実施した。また、イースタープレゼント(クッキー等)を配布した。(看護・栄養1年はほぼ全員参加、看護・栄養2・3・4年は約40名の参加数であった。) ③クリスマスの集いを、学生役割者を選出し実施した。また、クリスマスプレゼント(クッキー等)を配布した。(学生113人、教職員22名 全体で135名の参加数であった。) ④週日のミサ(聖母月・創立記念日・新年ミサも含む)の企画運営を行った。 ⑤その他の宗教的行事(灰の儀式・助産研究科実習前ミサ・死者追悼ミサ・クリスマス点灯式、国家試験前の祈り等)の企画運営を行った。 ⑥卒業・修了感謝のミサを企画運営した。北11条教会で、午後開催予定。 2) 学生のみを対象とする宗教的行事について [活動内容] ①学生満足度調査の結果を踏まえ、各学科支援教員と連携して参加促進を図った。 ②アッセンブリー・アワーにおける宗教講話は、「キリスト教学概論」で実施されている。 ③前期・後期チャペルアワーについて、例年、試験終了後に実施していたが、今年度は各学年の授業の空きコマを確認して、前期8回、後期4回実施した。なお、修養会と人間形成とキャリアデザインの中でミサを行った学年は実施しなかった。 ④出会いと親睦ゼミ・学生修養会・ステップアップセレモニー・戴帽式における宗務関連の支援をした。 [活動内容に対する自己評価] ・キリスト教の行事、ミサや修養会を通して学生・教職員が精神的・スピリチュアルに成長する機会の目的・意味を「建学の理念正課外教育マニュアル」として、学部・助産別に作成活用し、教職員への共有を図ることができた。 ・チャペルアワーについては支援教員と連携して学生への参加を促したが、アッセンブリー・アワーが設けられていないこともあり参加率が悪く、授業時間割の配置について学部と連携をとることが必要である。 なお、チャペルアワーに参加した支援教員には内容を伝えることができた。また、参加学生からは、チャペル内の一つ一つの内装や、ミサが行われる意味について詳しく学ぶことができたとの感想が多数あった。

	2. 教職員に対し教育理念の具現化を目指す。 [活動内容] ①新規採用教職員に対する建学の精神と宗教的行事などの説明会（オリエンテーション）を実施した。 ②教職員修養会の講話とミサの企画・運営をした。 対象教職員 103 名 出席者 80 名（出席率 77.7%） 講義・業務等で出席できない教職員には録画映像を Google Classroom に配信した。 ③退職される教職員への感謝ミサの、企画運営し開催予定。 [活動内容に対する自己評価] カトリック精神について、機会を設け実施していることは評価できる。 3. カトリックの精神に基づく宗教的環境を整備する。 1) 学内及びチャペル等の環境整備について [活動内容] ①ミサを実施するにあたり、チャペルに生花を飾った。 ②チャペル、学生・正面玄関にクリスマスツリーを設置した。 ③クリスマスキャロルを昼休みに流しクリスマスに向けての雰囲気作りを行った。 ④宗務委員会のホームページを活用し、死者追悼ミサや藤女子大学カトリックセンターのニュースレターを掲載した。 [活動内容に対する自己評価] キリスト教の精神に基づくカトリック大学として、本学の宗教的環境が整っていることが評価できる 4. カトリックの精神に基づく研修会への参加・助成をする。 1) 「2024 年度カトリック医療関連学生セミナー」の学生参加について 今年度は実施案内がなく、本学学生は参加しなかった。 5. アッセンブリー・アワーの内容・日程調整をする。 [活動内容に対する自己評価] ・今年度もアッセンブリー・アワーの時間は、2020 年度以降授業に振替えた為、調整・実施ができなかった。 ・教務委員会での検討意見を踏まえ、今後のアッセンブリー・アワーのあり方について、全学的検討を図る方針が確認できた。
次年度への課題	1. 建学の理念の浸透と学士力に貢献するアッセンブリー・アワーの配置を全学的に検討する。 2. ケン神父の退職に伴い、宗務行事の企画実施を見直す。 3. イースター・クリスマスの集い、チャペルアワー等カトリック精神を涵養する宗教的行事への学生・教員の参加率を上げるために、ホームページや T-NAVI、メールなどを利用し、行事の目的や内容などの周知を行い、学生支援教員と連携する。 4. 教務委員会との調整を密にして、特にイースターの集い、クリスマスの集いは、授業予定表配布時にコマ数の確保をする。 5. 新任教職員への建学の精神の理解を図るための企画運営を継続する。 6. 宗教的環境を整備する。 7. カトリック精神に基づく研修会・セミナーへ積極的に参加を促す。

9. 就職支援

担 当：就職委員会

本年度の活動目標	1. 就職ガイダンス・セミナーの企画・実施 2. 新卒応援ハローワークから、就職支援ナビゲータの派遣 3. 看護師・管理栄養士の管理職経験者による面接練習 4. 就職活動に関する支援活動 5. 求人開拓の実施 6. 教職課程（栄養教諭）履修者への就職支援 7. 卒業生アンケート調査・就職先へのアンケート調査 8. 就職に関する情報交換及び最新情報収集 9. 既卒者、卒業・修了生に対する就職支援 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準 7 ①～③ （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） VI-VI-3（1）～（2）、VI-VI-4（3）
活動内容の評価	1. 就職ガイダンス・セミナー（オンライン含む）の企画・実施について [活動内容] 1) 就職ガイダンス・セミナー（オンライン含む）の企画・実施 各学科学年の就職活動時期に合わせ、就職スタートアップ、自己PR作成、マナー講座、小論文・履歴書・エントリーシートの書き方、SPI 受検会、面接対策、公務員試験対策、教員採用試験のガイダンス・セミナーを対面中心とし、オンラインの併用で企画・実施した。 例年 1 月に実施している栄養学科 3 年次生対象の「就職活動終了者の体験談」は、講師の栄養学科 4 年次生 5 名に体験談を話してもらい、その後、希望業種別に分かれグループワークを行った。3 年次生がこれから始まる就職活動に向けての疑問、不安な点等を積極的に質問し、活発なグループワークが行われた。また、資料を Google Classroom に投稿し閲覧できるようにした。 助産研究科 1・2 年合同で、就職ガイダンス（自己分析、志望動機の作成、小論文の作成、メディアリテラシー）のガイダンスを対面で実施した。 2) 就職ガイダンス・セミナーの開催時期の検討、内容の充実・強化 開催時期、内容を精査、吟味してガイダンス・セミナーを実施した。 3) 学内説明会（企業・病院・施設）の企画・開催 4 月に 2 社（給食委託、食品）、5 月に 2 社（調剤薬局、給食委託）が参加し、ディスカッション形式で、10 月に 5 社（給食委託 2 社、食品 3 社）が参加し、栄養学科対象に開催した。 2 月に実習施設の 18 施設が参加し、看護学科対象に就職先説明会を開催した。 [活動内容に対する自己評価] 2 年生から 4 年生の就職活動スケジュールを作成し、スケジュールに沿った内容のガイダンスを情報会社や卒業生が活躍している企業等に支援いただき、企画・開催したことで内容の充実・強化が図れた。授業後の参加率は 30%～100%であったため、引続き授業予定表を確認し、対面とオンラインを併用して実施する。 2. 新卒応援ハローワークから、就職支援ナビゲータの派遣について [活動内容] 新卒応援ハローワークに、就職支援ナビゲータの派遣依頼をし、毎週 1 回（12：30～13：30）、一日 2 名に就活支援を実施した。

[活動内容に対する自己評価]

採用面接の繁忙期（4月から6月）は、学生の希望日に就職相談室の予約できない時期があるため、新卒応援ハローワークの就職支援ナビゲータの派遣時間を、毎週1回（12:30～14:30）、一日4名に増やして就活支援を実施した。

3. 看護師・管理栄養士の管理職経験者による面接練習について

[活動内容]

採用面接の繁忙期に、看護師・管理栄養士の管理職経験者に、学生の面接練習指導を依頼した。

[活動内容に対する自己評価]

病院等の採用面接がピークの月に、学生が面接練習を希望する日時に、就職相談室の相談員の予約が取れない状況が改善された。

4. 就職活動に関する支援活動について

[活動内容]

1) 就職相談員による就職相談・面接練習・履歴書添削等の支援（オンライン含む）

就職相談員による学生支援については、就職支援システムから予約制とし、オンラインまたは対面で、学生の希望に沿った方法で実施した。

進路相談：148回 書類添削：554回 面接練習：553回（2025年2月14日現在）

内定率 看護学科：99% 栄養学科：94%、助産研究科：100%、看護学専攻保健師コース：100%（2025年2月14日現在）

キャリア支援の遠隔化の一環として、2021年11月より導入した求人票配信システム「キャリタスUC」（天使大学就職支援ナビ）の操作説明動画を学部3年生対象に配信し利用を促した。

2) 就職委員による就職活動全般の支援

各学科の就職委員、学生支援教員、学務課で連携し、就職活動全般の支援を行った。

[活動内容に対する自己評価]

卒業・修了対象学生に、「天使大学就職支援ナビ」の利用促進を図り、利用率が100%になったことは評価できる。今後、低学年にも周知する。

5. 求人開拓の実施について

[活動内容]

1) 病院・福祉施設等への求人票の送付

学生のニーズに対応するため札幌市内・札幌近郊に、求人依頼のパンフレット等を、病院・福祉施設・保育所・調剤薬局・給食委託・一般企業等へ送付した。

（1,274施設に2/17発送）

また、関東の病院（400床以上）にも送付し新規開拓に努めた。

2) 病院・企業等訪問の実施

病院・企業等から、73件（4月から2月14日現在）採用担当者の訪問があり、求人票をいただき、情報交換を行った。

3) 実習先へ、担当教員が求人票を持参した。

[活動内容に対する自己評価]

求人依頼のパンフレットを送付したことで、本学への求人実績がない施設等から、求人票をいただいたことは評価できる。

6. 教職課程（栄養教諭）履修者への就職支援について

[活動内容]

1) 教職課程委員会との連携

教職課程委員会と連携し、教職課程履修者への就職活動支援を行った。

2) 教員採用試験出題傾向分析と試験対策ガイダンス等の実施

4 年次生対象の教員採用 1 次ガイダンス実施し、願書、資料等を教職課程履修者へ配布した。2 次検査対策直前ゼミは、教職課程担当教員等が出題傾向等の分析を行い実施した。その結果、本学の北海道教育委員会選考検査「栄養教諭」の採用登録者は、北海道 1 名（一次合格者、北海道 1 名、札幌市 0 名）であった。

[活動内容に対する自己評価]

本学から北海道に 1 名が登録になったことは評価できる。次年度も教職課程委員会と連携し、支援を継続する。

7. 卒業生アンケート調査・就職先へのアンケート調査について

[活動内容]

1) 卒業生アンケート調査および就職先へのアンケート調査の実施

①卒業・修了生対象就職状況調査（2023 年度卒業生対象：12 月実施）

回答率 35.5%（2/14 現在）

②就職先アンケート調査（2022 年度 学部卒業生対象：5 月実施）

回答率 看護学科 65.9%、栄養学科 64.4%、助産研究科 80.0%

①、②のアンケート調査を Google フォームとアンケート用紙の併用で実施した。

2) 卒業生アンケート調査および就職先へのアンケート調査結果の分析・評価・改善
実施したアンケート調査について集計、分析し、改善案を検討した。

3) 調査項目の検討（関係部署と連携し実施）

調査項目の検討をし、内部質保証推進委員会に提案・確認後、アンケート調査集計結果を天使大学 HP で情報公開をした。

[活動内容に対する自己評価]

回答率向上に向けて方策を検討し、Google フォームとアンケート用紙の併用で実施した結果、就職先アンケート調査の回答率が前年度と比べて、看護学科 70.7%から 65.9%、栄養学科 44.4%から 64.4%であった。なお、助産研究科は今年度から実施し 80%であった。

令和 6 年度教育の質に係る客観的指標調査について、卒業生のキャリア状況等の調査を実施・結果の分析し、情報公開したことで 8/31 時点で得点を獲得見込みである。

8. 就職に関する情報交換及び最新情報収集について

[活動内容]

1) 他大学との情報交換及び最新情報収集

日本私立大学協会北海道支部就職指導研究協議会に参加し、就職支援方法、内定率等について情報交換を行った。

2) 日本私立大学協会・日本私立大学北海道支部、全国私立大学就職指導研究会との
情報交換及び最新情報収集

就職指導実務担当者研修会に参加し、就職支援方法、内定率等について、グループ
ディスカッションで実情交換等の自由討議を行った。

3) 就職情報関連企業との情報交換及び最新情報収集

就職情報会社から病院、企業等の採用数、採用状況、内定状況等の最新情報を収集し、情報交換を行った。

	4) 就職関連研修会・セミナー等への参加 オンラインでの研修会等に参加し、最新情報の収集を行った。 [活動内容に対する自己評価] 各大学から取り組み等を伺うことができ、とても有意義な研修会であった。 9. 既卒者、卒業・修了生に対する就職支援について [活動内容] 1) 求人情報の配信（求職登録者） 求職登録者に求人情報等を配信し、就職支援を行った。 求職登録者数：39 名（看護学科 0 名、栄養学科 39 名）内定者数：3 名 2) 直接来室した場合の就職支援 就職相談に 5 名の卒業生が来室し、対応した。 [活動内容に対する自己評価] 今後も、既卒者の希望する求人情報を速やかにメール配信し、支援を継続する。
次年度への課題	1. 就職ガイダンス・セミナーの企画・実施 1) 就職ガイダンス・セミナー（オンラインを含む）の開催時期の検討、内容の充実・強化を図る。全員参加のガイダンスは、学科担当教員と連携し授業時間割に入れる。 2) 早期化する就職活動に備えて、就職先選択の準備をするため、学内で、看護学科就職先説明会（病院・施設）、栄養学科企業説明会を実施する。 2. 就職活動に関する支援活動 1) 4 年次の 11 月末までに一度も就職相談室を利用していない学生を対象に連絡をし、就職活動状況の把握を行い、希望する就職先への内定につなげる。 2) 卒業・修了時アンケートの意見を踏まえて、面接指導の繁忙期は、新卒応援ハローワークの就職支援ナビゲータの派遣や、看護師・管理栄養士の管理職経験者による面接練習の支援を依頼する。 3. 卒業生アンケート調査（12 月実施）・就職先へのアンケート調査（4 月実施）の回答率の向上 スマートフォンを使用し、回答しやすいアンケートを Google フォームで作成する。また、回答率を上げるため回答方法を選択できるよう、依頼文送付時にアンケート用紙（返信用封筒を同封する）と、Google フォーム URL の案内をする。 4. 就職活動と就職支援に関する調査（2 月実施）の回答率の向上 スマートフォンを使用し、回答しやすいアンケートを Google フォームで作成する。

10. 図書館

担 当： 図書情報委員会

本年度の活動目標	1. 教育・学修支援 修学上の相談等に対応しながら、学生の自律的な学修を支援する。 2. 研究支援 本学の学術研究成果等を収集・保存し、ホームページ等で公開する。 3. 社会貢献 他大学図書館等の連携を強化し、社会の活性化に貢献する。 4. 情報発信 ホームページ等の充実を図り、社会に開かれた図書館として積極的に情報を発信する。 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準 8 教育研究等環境 ③ (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) I-2 (2)、VIII-4 (3)、VIII-7 (1)
活動内容の評価	1. 教育・学修支援について [活動内容] 各学科・大学院からの要望に応じ、図書館利用案内、蔵書検索、文献検索方法等について、授業との連携により図書館司書職員がガイダンスを実施した。 [活動内容に対する自己評価] 情報リテラシー教育の必要性を重視し、授業との連携によりガイダンスを実施したことは評価できる。 学術データベースについては、ID・パスワードを申請することで、学外からも文献検索をすることができ、多くの学生からの申請に対応していることは評価できる。 [活動内容] グループ学習室を本来の利用目的に戻し運用を再開した。 [活動内容に対する自己評価] グループ学習室を本来の利用目的（グループでの学習・調査・研究・ディスカッション等）に戻し運用を再開したことは評価できる。 T-NAVI や掲示、図書情報委員等を通じて利用促進について周知してきたが、利用率はまだ低いため、次年度は利用マニュアル等の見直しを行い、利用者が利用しやすい方法を検討する。 2. 研究支援について [活動内容] 本学教員、修了生等の紀要論文は機関リポジトリに登録し、その他の学術論文等はホームページで公開した。 [活動内容に対する自己評価] 本学教員、修了生等の教育・研究活動の成果を機関リポジトリやホームページで公開し、広く社会へ情報を発信したことは評価できる。 3. 社会貢献について [活動内容] 文献複写・相互貸借の対応については、他大学からの文献複写受付が多く、その都度、丁寧に対応した。

[活動内容に対する自己評価]

本学図書館は、現在入手困難で貴重な専門書を多数所蔵しているため、全国の医療系大学等からの受付依頼があり、迅速かつ丁寧に対応したことは評価できる。

[活動内容]

学外者の図書館利用について、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本学卒業生のみ利用可能としていたが、2024 年 5 月 29 日から全面再開した。

[活動内容に対する自己評価]

学外者への図書館利用サービスを全面再開できたことは評価できる。再開したことにより、有資格者や北海道地区大学図書館協議会相互利用サービス加盟大学の学生の利用があった。

4. 情報発信について

[活動内容]

図書館ホームページで新着図書案内等、随時、新しい情報に更新した。

[活動内容に対する自己評価]

図書館ホームページで随時、利用者に最新情報を提供できたことは評価できる。

[活動内容]

企画展示を 8 回実施した。

	企画展示テーマ	展示期間
1	図書館がお手伝いします！春の新生活	4 月 4 日～5 月 30 日
2	この夏読んでみませんか？本屋大賞	6 月 3 日～8 月 30 日
3	スポーツの秋！秋の夜長をどう過ごす？オススメのスポーツ本！	9 月 2 日～10 月 3 日
4	読書の秋食欲の秋 読んで味わう美味しい本	9 月 24 日～11 月 21 日
5	ハッピーハロウィン！魔法使いの気分が味わえる本	10 月 4 日～11 月 1 日
6	ちょっと一息お茶しませんか	11 月 13 日～11 月 29 日
7	ちょっぴり心が温くなるクリスマスの本	12 月 4 日～12 月 24 日
8	料理レシピ本大賞 2024	1 月 28 日～3 月 14 日

他に、二宮信一教授の著書の展示や創立記念日に関連資料の展示を実施した。

[活動内容に対する自己評価]

企画展示を定期的に実施し、テーマに沿った情報を発信したことは評価できる。それに伴い、図書館施設の多様な有効活用と利用者数の増加、そして交流の機会の拡大が図られた。また、本学のこれまでの歴史的資料等についても、随時収集と保存に努め、関連する行事等の際には、適宜展示していきたい。

今後も常に最新情報を取り入れながら、閲覧室の環境整備に努めたい。

[活動内容]

学生や教職員のサポート、セキュリティ強化に努めた。

[活動内容に対する自己評価]

情報処理室と常に連携を取りながら、学生や教職員のサポート、セキュリティ強化に努めたことは評価できる。

専門職業人を育成する本学においては、司書としての高度な専門性を求められており、今後も様々な研修会等へ積極的に参加し、他大学との情報交換等を行いながら視

	野を広く業務に取り組み、利用者の声に丁寧に対応出来る図書情報課職員としての資質の向上を図っていきたい。 5. その他の活動 [活動内容] 外国雑誌、電子ジャーナルの継続講読について、見直しを行った。 [活動内容に対する自己評価] 近年高騰している外国雑誌、電子ジャーナルについて調査に基づき、利用頻度が低い雑誌対し、本委員会・学科・研究科で検討し、講読を中止した。また、オープンアクセスで閲覧可能な雑誌についても講読を中止した。継続講読の見直しをしたことで予算削減につなげたことは評価できる。 [活動内容] 危機管理のため「防災備蓄品」を設置した。 [活動内容に対する自己評価] 防災備蓄品（懐中電灯・ヘルメット・ボディタオル・手袋・マスク・ホイッスル付ライト・アルミブランケット・携帯用トイレ各2セット、非常食3日分等）をカウンター内に設置したことは評価できる。今後も「危機管理マニュアル」の構築等、災害発生時に命を守るための対策を強化していきたい。 なお、本学の防災備蓄品の設置について、「図書館年鑑 2025」で紹介されることとなった。 [活動内容] 本学図書館キャラクターを活用し、情報発信を行った。 [活動内容に対する自己評価] 本委員会で審議し、本学図書館キャラクター（天使太郎、天使花子）の「しおり」を手作りし、天使祭等で配布した。現在は館内に自由配布コーナーを設置している。また、様々な掲示物等で活用し紹介できたことは評価できる。 今後は、キャラクターを活用したグッズの制作を検討していきたい。   天使太郎 天使花子
次年度への課題	1. 文献検索ガイダンス等の実施による教育・学修支援 2. 閲覧室やグループ学習室等の環境整備 3. 学術論文等の即時OA義務化の関する支援の準備 4. 図書館ホームページ等での情報発信の充実 5. 藤女子大学図書館との連携

1 1. 情報処理システム

担 当： 図書情報委員会

本年度の活動目標	1. サーバシステム、学内 LAN、無線 LAN 環境、PC の整備・維持管理 2. 現状に即した情報処理室運営 3. サーバネットワークシステムの更改対応 4. 教職員 PC 入れ替え対応 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 第 8 章 教育研究等環境 ① (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) VIII－4
活動内容の評価	1. サーバ、学内 LAN、無線 LAN 環境、PC の整備・維持管理について [活動内容①] 近年、インターネット (Classroom 等) を活用した学習が増加しており、研究室室内でも学生とインターネットを利用した課題確認等が行われている。しかし、これまで研究室で無線 LAN (tenshi-wifi) の環境を提供できていなかったため、研究室内で学生とインターネットを活用した課題 (Classroom 等) の確認等をする際、円滑に進められない状況があった。学内システムの更改を機に、研究室内で無線 LAN が利用できる環境を構築し、学習環境の改善を図った。 [活動内容に対する自己評価①] 研究室内で必要となる教育環境を提供できたことは評価できる。 [活動内容②] 学生のインターネット回線が遅く、インターネットを活用した授業に支障をきたす状況や、学生の個人 PC での学習 (課題提出や自習等) が十分に行えない状況が発生しており、授業後や学生満足度調査で多数報告されていた。回線改善のために調査を行った結果、現状の回線では改善が難しいことが判明したため、2025 年度 (6 月頃) に学生用回線の増強を予定している。 [活動内容に対する自己評価②] 回線の改善策について調査を行い、最適な対応方法を検討できたことは評価できる。 [活動内容③] 2025 年度の科研費等の新規公募分から、助成を受けた研究者 (受給者) は、学術論文や根拠データを即時に無料で公開 (即時 OA 化) することが義務化される。これに対応するため、学認 (国立情報学研究所が提供するシステム) を活用し、即時 OA 化の実現を進めている。2026 年 3 月までは実証実験期間中であり、無償で利用できる。 [活動内容に対する自己評価③] 義務化される取り組みについて、事前に検討が進められており、費用をかけずに仕組みの導入を進められたところは評価できる。 2026 年 4 月以降は有償となるため実証実験の結果をもとに継続利用が必要か改めて検討を行う。

	2. 現状に即した情報処理室運営について [活動内容①] 現在、学生は入学時から1人1台のPCを所有することが義務づけられているため、情報処理室内で自分のPCを使用している学生も多く、情報処理室に常設されているPCの利用頻度が減少していた。また、自分のPCから直接資料が印刷できる環境を要望する声も多数あった。この実態を受けて、常設PCの台数を116台から80台に削減し、機器の費用を削減した。空いたスペースは、自分のPCで作業ができるスペースとして活用し、自分のPCから直接資料が印刷できる環境も整備した。 [活動内容に対する自己評価①] 現状の学生のPC活用方法に対応した環境を提供し、実際に多数の学生が作業スペースや自分のPCから印刷できる環境を活用しているため、効果的な対応ができた。なお、申請に基づき4号館1階でカラー印刷の対応もしている。学生の要望や現在の利用状況を考慮し、情報処理室をより良く整備できた点は評価できる。 3. サーバネットワークシステムの更改対応 [活動内容①] 2024年度のシステム更改前、使用していたシステムは7年目（無線LANは9年目）で、機器のEOL（使用期限・保守終了）を迎えているものが多く、保守対象外の製品も存在していた。継続使用すると故障等によるシステム停止のリスクが高い状況となっていたため、システムの更改を実施した。システム更改を機に、現状使用していない機能の廃止や、必要な環境を整備した。 [活動内容に対する自己評価①] 不要な機能や機器を精査し、更改費用を削減できた点は評価できる。 4. 教職員PC入れ替え対応 [活動内容①] Windows10のサポート終了に伴い、学内の教職員PCをWindows11に入れ替える対応を行った。機器は持ち運び可能なノートPCを選定し、従来と同様に大きなモニターや外付けマウス・キーボードを使用した作業環境を提供した。また、ノートPCの選定に伴い、セキュリティ面でのルール策定が必要となるため「業務用端末の利用に関するガイドライン」を策定した。 [活動内容に対する自己評価①] ノートPCを選定したことにより、学内の会議や委員会等で使用することが可能となり、PCの活用範囲が広がった。また、将来的にペーパーレス化に繋がる取り組みができた。 活用範囲を広げつつ、自席では従来と同様の作業環境を提供できた点は評価できる。
次年度への課題	1. サーバシステム、学内LAN、無線LAN環境、PCの整備・維持管理 2. 院生学習室PC入れ替え対応 3. 学内officeの最新化対応

1 2. 施設・設備

担 当： 事務局（財務課）

本年度の活動目標	1. 中期財務計画に基づいた施設・設備の整備を行う。 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準 8 教育研究等環境②、⑥ （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） IX-3
活動内容の評価	1. 中期計画に基づいた施設・設備の整備を行う。 [活動内容] 2024 年度に行った主な改修工事等は以下のとおりである。 ① 3 号館屋上防水工事 ② 6 号館エレベーター更新工事 [活動内容に対する自己評価] 中期財務計画では 6 号館の外壁工事を予定していたが、3 号館屋上からの漏水があったため、2025 年度に計画していた 3 号館屋上防水工事を先行して実施した。工事にあたっては、経費節減のために仕様書の内容を厳密に精査したうえで、業者選定のために入札を行い、予算額から大幅に費用を削減することができた。 また、6 号館エレベーター更新工事も 2025 年度を予定していたが、現行の法令基準では「既存不適格」の状態であることが判明したため、1 年前倒して更新工事を行い、改正建築基準法に対応することができた。
次年度への課題	中期計画に基づいた施設・設備の整備を行う。6 号館の外壁改修工事は、2025 年度に外壁タイル全面打診調査を行ったうえで、2026 年度に改修工事を行う予定であるが、昨今の価格高騰を考慮しつつ、工事費用削減に努める。

1 3. 管理運営

担 当： 事務局（総務課）

本年度の活動目標	1. 藤学園との法人統合に伴い、理事会に代わる天使大学の管理運営に関する組織としての管理運営協議会の円滑な運営 2. 藤天使学園理事会業務委任規則及び天使大学学長職務権限規程に基づき、天使大学の自律的な運営 3. 天使大学中期計画の策定 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準 10 大学運営・財務－ (1) 大学運営－①・② (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) 戦略目標Ⅱ－ 1 (1) 戦略目標Ⅸ－ 7 (1)
活動内容の評価	1. 天使大学管理運営協議会について [活動内容] 藤学園との法人統合に伴い、今年度から天使大学の管理運営に関する組織として管理運営協議会を設置し、藤天使学園理事会業務委任規則及び天使大学学長職務権限規程に基づき、藤天使学園理事会から天使大学学長へ理事会業務の一部を委任することとした。 [活動内容に対する自己評価] 藤天使学園理事会業務委任規則及び天使大学学長職務権限規程に基づき、本学の管理運営に関する事項を学内協議し理事長に代わり学長が専決できることになり、迅速に判断できることは評価できる。 2. 天使大学の自律的な運営について [活動内容] 天使大学学長職務権限規程第 3 条において、藤天使学園理事会業務委任規則第 4 条に基づき、天使大学の教育・研究に係る業務について学長が決裁している。 (1) 教育・研究に関する事項 (2) 卒業及び修了の認定に関する事項 (3) 進級、休学、復学、留年等学生の身分に関する事項 (4) 学生の賞罰に関する事項 (5) 宗務及び諸行事に関する事項 (6) 学生募集及び入学者選抜に関する事項 (7) 教育組織、教員組織、委員会等の整備に関する事項 (8) 諸会議、委員会活動及び構成員の任免に関する事項 (9) 大学規程の改廃等に関する事項 (10) 教職員の勤務、出張、研修、兼業及び休暇に関する事項 (11) 学長名義で回答する文書、調査及び証明に関する事項 (12) 教職員の表彰及び懲戒に関する事項 (13) その他、理事長が必要と認める事項 また、天使大学学長職務権限規程第 4 条において、藤天使学園理事会業務委任規則第 3 条に係る理事長の権限に属する天使大学に係る業務について学長が専決している。 (1) 管理・運営に関する事項

	(2) 事業計画、中期計画等に関する事項 (3) 教職員の募集、採用選考、昇任審査、異動に関する事項 (4) 労使協定に関する事項 (5) 任期付き常勤教職員の労働契約更新等に関する事項 (6) 非常勤教職員の任免、契約、待遇等に関する事項 (7) 管財に関する事項 (8) 学納金の徴収等に関する事項 (9) 入学検定料、教育に係る試験料、証明手数料等に関する事項 (10) 奨学金の支出、学費の減免等に関する事項 (11) 理事長名義による主管官公庁等との協議、申請及び報告に関する事項 (12) 理事長名義による人事発令（学長及び事務局長を除く）に関する事項 (13) 理事長名義による照会、回答、調査、通知、各種契約、各種証明等に関する事項 (14) その他、理事長が必要と認める事項 なお、学長への権限が増大したことにより、学長を補佐するために学長補佐会議において、全学的な企画、立案等について学長の求めに応じて検討し意見を述べることとしている。 [活動内容に対する自己評価] 藤学園との法人統合を機に、学長の権限を見直し、本学に関する多くの事項が委任されることとなり、学内で自律的な運営ができていたことは評価できる。 3. 天使大学中期計画の策定について [活動内容] 藤学園との法人統合に伴い、天使学園中期計画を見直し天使大学中期計画として策定した。 [活動内容に対する自己評価] 藤天使学園中期計画がまだ策定中のため、天使大学独自で中期計画を策定したことは評価できる。
次年度への課題	1. 藤天使学園中期計画の策定に伴う天使大学中期計画の見直し

1 4. 財務

担 当： 事務局（財務課）

本年度の活動目標	1. 寄付金等、外部資金の獲得を目指す 2. 財務諸規程の見直し （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準 10 大学運営・財務（2）財務①、② （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） IV-1（3）、IV-2（3）
活動内容の評価	1. 寄付金等、外部資金の獲得を目指す [活動内容] 過年度から検討していた助産研究科に係る寄付金募集については、助産師教育のさらなる充実のため「天使大学大学院助産研究科基金」を創設し、新たな寄付金事業を開始した。 [活動内容に対する自己評価] 2025 年 2 月から寄付金事業を新設したため、今年度の寄付者数は少ない状況である。今後は「天使大学大学院助産研究科基金」の認知度を高め、寄付金の獲得に繋げたい。2025 年度にはホームカミングデーの開催を予定しており、寄付金事業の周知を図るとともに、修了生の意見交換の場として活用していきたい。 2. 財務諸規定の見直し [活動内容] ①経理規程、経理規程細則 法人統合に伴い、決裁権限や勘定科目等の見直しを行った。 ②旅費規程 宿泊費の高騰や航空運賃の多様化に伴い、実際の旅費との乖離を解消するために、旅費規定の見直しを行った。 [活動内容に対する自己評価] 経理規程及び経理規程細則は、旧藤学園の経理規程を基に改正したものである。このため、物品調達に係る規程等についても見直す予定であったが、調整に時間を要し未整備となったため、2025 年度に見直しを図りたい。 旅費規程は改正により、より実態に即した支給が可能となると考えている。旅費の支給基準が変更となるため、混乱がないよう整備していきたい。
次年度への課題	・科学研究費助成事業等、外部資金の獲得に繋がるような学内支援体制を構築することが望ましいが、限られた人員の中では難しい状況であるため、法人統合後の体制も踏まえて検討していく必要がある。 ・未整備の財務諸規程を見直す。 ・法人全体の中・長期計画に紐づいた天使大学の中・長期財務計画の見直しを図る。

1 5. 事務組織

担 当： 事務局（総務課）

本年度の活動目標	1. 天使大学事務局を5課体制にするとともに、企画調査担当職員の配置 2. 事務局の人員構成及び人員配置への考慮 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準 10 大学運営・財務－(1) 大学運営－①・② (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) 戦略目標Ⅱ－1 (1) 戦略目標Ⅸ－1 (1) 戦略目標Ⅸ－4 (1)
活動内容の評価	1. 事務局の5課体制及び企画調査担当の新設について [活動内容] 事務局は5課体制となったが、以前と同様に課の枠組みにとらわれることなく、事務局全体で横断的に業務に取り組んでいる。また、藤天使学園法人局との連携及び本学の新たな取り組みに係る企画調査を担当する専任職員を配置することとした。 [活動内容に対する自己評価] 入試・広報業務及び関係所轄省庁への届出・認可申請業務など、事務局全体でカバーしながら業務を遂行できたことは評価できる。企画調査担当職員を配置することにより、法人局との連携及び本学のカリキュラム改正等の新たな取り組みにおいて、円滑に業務を遂行できるようにしたことは評価できる。 2. 事務局の人員構成及び人員配置について [活動内容] 事務局の人員構成及び人員配置について、専任職員と嘱託・臨時職員のバランスを考慮しつつ、各課に人員を効率的に配置し、法人関連業務を遂行する企画調査担当職員を新たに配置することができた。 [活動内容に対する自己評価] 事務局長が法人局長を兼務し、新たに企画調査担当職員を配置する中、5課に適正な人員配置を行い、人工を減らしながらも時間外勤務を最小限に抑制できたことは評価できる。
次年度への課題	1. 藤天使学園法人局との連携に向けて、引き続き、事務担当職員を配置し、適切な業務運営に努める。

16. 自己点検・評価活動

担 当: I R 委員会

本年度の活動目標	1. I R室と連携した教学事項に関わる分析と評価 2. I R室と連携した情報収集・管理システムの継続的な改善 3. I Rに関する学内研修会の開催 4. I Rに関する学外での研修会・研究会への参加 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準2 内部質保証③ (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) II－1 質保証への対応(4)
活動内容の評価	1. I R室と連携した教学事項に関わる分析と評価 [活動内容] 2024年度は、I R室と連携して、「2020年度卒業生を中心とした国家試験結果」について分析し、その結果をまとめた。国家試験の分析結果は、I R委員会主催のFD研修会において学内に周知した。 また、高校、受験生及びその保護者に本学の特長をわかりやすくアピールし、入学志願者の増加に繋げることを目的として、広報委員会、入試広報課及び学務課と連携し、「データから見えてくる天使大学」作成プロジェクトを立ち上げ、内容の検討を行った上で資料を作成し、学内外に公表した。資料の作成にあたっては、各部局が保有するデータを収集し、I R室と連携して分析した上で進めた。 [活動内容に対する自己評価] 国家試験結果を分析し、その結果を整理し学内に周知したことは、次年度以降のカリキュラム検討や個別の学生への指導など、本学における教育活動の改善に繋がるため、評価できる。 また、「データから見えてくる天使大学」については、引き続き広報委員会等と連携し、本学への入学志願者の増加に繋げることができるよう、I Rデータを活用しながら内容の更新及び改善を行う。 2. I R室と連携した情報収集・管理システムの継続的な改善 [活動内容] I R活動の実施にあたり、各部局が保有するデータを活用する際は、責任者(委員長等)の決裁を受けた上でデータの提供を受けて分析等を行うこととしているが、I R室と連携しながら、情報収集及び情報管理を適切に行った。 また、現状の情報収集・管理システムの改善について、検討を行った。 [活動内容に対する自己評価] 現状としては、活用するデータの収集及び管理について適切に行われており、情報収集・管理システムについては問題なく機能している。今後も引き続き、データの収集及び分析をより円滑に進めることができるよう検討を進める。

	3. I Rに関する学内研修会の開催 [活動内容] 2025 年 2 月 28 日に、「教学データを活用したアウトプットとの相関分析を理解する」ことを目的として、東京都市大学 共通教育部 教授 白鳥成彦氏を講師として招き、本学教員を対象とした FD 研修会を開催した。その際に、I R 委員長（I R 室長兼務）から、2020 年度卒業生を中心とした国家試験の分析結果についても、あわせて報告を行った。 [活動内容に対する自己評価] 研修会の開催により、本学教員の教学 I R に関する知見が深まり、教学 I R を活用した教育改善に対する意識向上に繋げることができた。次年度以降も、引き続き本学における教育の質向上に向けた取組に繋がるテーマを設定し、研修会を開催する。 4. I Rに関する学外での研修会・研究会への参加 [活動内容] 次の研修会・研究会に参加し、本学の I R 活動において必要となる分析等に関することについて、情報収集及び情報交換を行った。 ・第 16 回データサイエンス及び機関研究に関する国際会議（DSIR2024） 開催場所：サンポート高松（香川）、会期：2024 年 7 月 6 日～12 日 ・第 13 回 MJIR 研究集会 開催場所：関西大学（大阪）、会期：2024 年 11 月 8 日～10 日 ・道内の I R 関係者が集う勉強会 開催場所：公立千歳科学技術大学（千歳市）、会期：2025 年 3 月 21 日 [活動内容に対する自己評価] 他大学の教学 I R 関係者との情報交換から、学修成果の可視化をはじめ教学データ分析について知見を深めることができ、また情報収集することができた。次年度以降も引き続き、情報収集に努める。
次年度への課題	1. 内部質保証推進委員会、教学マネジメント委員会及び I R 室と連携しながら、本学における教育の質向上に繋がる I R データの評価及び報告を行う。 2. 学外の研修会及び研究会への参加により、本学の I R 活動に役立つ情報の収集を行うとともに、学内研修会の開催により、本学教員の教学 I R を活用した教育改善に関する理解を深める。 3. 「データから見えてくる天使大学」について、引き続き関係部局と連携し、I R データを活用しながら内容の更新及び改善を行う。

16. 自己点検・評価活動

担 当： 内部質保証推進委員会

本年度の活動目標	2024 年度日本看護学教育評価機構による看護学科の受審を滞りなく進める。 2025 年度大学基準協会第 4 期認証評価の受審に向けて、準備を進める。 2023 年度受審日本助産評価機構評価結果「改善を要する点等」への対応を進める。 - 令和 6 年度教育の質に係る客観的指標調査に対応する。 - アセスメントポリシーに基づき、教学マネジメント委員会、IR 委員会、IR 室との連携を進め、教育の質向上に向けて大学全体の PDCA サイクルを推進する。 - 大学全体の研究の質向上に向けて学術振興委員会と連携して取り組む。 - 大学の地域貢献の推進を地域連携委員会と連携して取り組む。 - 大学全体の主体的な自己点検、評価活動を推進する。 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 2. 内部質保証 ①②③④⑤ (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) II-1 質保証への対応 (2) (3) (4) II-2 内部質保証体制と点検評価の実質化 (1) (2) (3) (4)
活動内容の評価	2024 年度日本看護学教育評価機構による看護学科の受審を滞りなく進める。 [活動内容] 2024 年 5 月に評価資料を提出し、2024 年 10 月 3 日に実地調査が行われた。 [活動内容に対する自己評価] 看護学科において 2022 年度から認証評価に向けて取り組んでいたため、実地調査はスムーズに進行できた。また、事前に課題等を改善していたことで、「検討課題」及び「改善勧告」を付されることなく、評価基準に適合しているとの評価結果を得たことは評価できる。 2025 年度大学基準協会第 4 期認証評価の受審に向けて、準備を進める。 [活動内容] 2024 年 6 月 10 日開催の教育研究評議会において、点検・評価報告書の作成について、全学的に作成するよう役割分担を決めて取り組んだ。とりまとめた点検・評価報告書について、内部質保証推進委員会において点検を行い、2025 年 4 月 1 日までに提出する。 [活動内容に対する自己評価] 点検・評価報告書の作成について、早い段階で全学に依頼をして準備できたことは評価できる。引き続き 2025 年度実地調査に向けて準備を進める。 2023 年度受審日本助産評価機構評価結果「改善を要する点等」への対応を進める。 [活動内容] 2024 年 10 月 9 日に、助産専門職大学院認証評価の改善状況に関するヒアリングが実施された。 [活動内容に対する自己評価] 助産研究科長主導のもと、改善を要する点について、早急に関係部署等と連携しながら改善に努めた。しかし、改善するには時間を要する内容が多いことから、引き続き改善に向けて取り組む。

4. 令和6年度教育の質に係る客観的指標調査に対応する。

[活動内容]

学内に周知を図り、43点を獲得することができた。

[活動内容に対する自己評価]

客観的指標調査の得点を意識して改善した体制が継続して有効に機能するよう、さらに整備を進める必要がある。

5. アセスメントポリシーに基づき、教学マネジメント委員会、IR委員会、IR室との連携を進め、教育の質向上に向けて大学全体のPDCAサイクルを推進する。

[活動内容]

2020年度カリキュラムで学んだ学生のDP到達度評価を中心としてIRが分析し、その結果をもとに全学的な議論課題抽出を教学マネジメント委員会が主導で実施した。

[活動内容に対する自己評価]

アセスメントポリシーに基づき、データ収集分析、課題抽出まで到達したことは、PDCAサイクルを進めるうえで評価できる。抽出した課題に関する検討は今後の課題である。

6. 大学全体の研究の質向上に向けて学術振興委員会と連携して取り組む。

[活動内容]

今年度は、本委員会として学術振興委員会との連携はできなかった。

[活動内容に対する自己評価]

委員会として、どのように連携するのか、方針の見直しが必要である。

7. 大学の地域貢献の推進を地域連携委員会と連携して取り組む。

[活動内容]

今年度は、本委員会として地域連携委員会との連携はできなかった。

[活動内容に対する自己評価]

地域における大学の役割の見直しは大学全体の課題としてとらえ、検討していく必要がある。

8. 大学全体の主体的な自己点検、評価活動を推進する。

[活動内容]

2024年6月に、天使大学2023年度自己点検評価報告書（年報）が完成し、学内外に公表した。2024年度自己点検評価報告書（年報）については、2025年1月15日に全学的に作成依頼をし、2025年3月17日には活動報告会を実施した。

[活動内容に対する自己評価]

内部質保証推進委員会外部委員から、年度末に開催している活動報告会について、全教職員を対象として評価内容を報告し、現状を全学的に共有する場を設けていることを評価された。外部委員の評価を受け、引き続き全学的な自己点検・評価活動を推進する。

次年度への課題	1. 大学基準協会第4期認証評価の受審を滞りなく進める。 2. 2023年度受審日本助産評価機構評価結果「改善を要する点等」への対応を進める。 3. 令和7年度教育の質に係る客観的指標調査に対応する。 4. アセスメントポリシーに基づき、教学マネジメント委員会、IR委員会、IR室との連携を進め、教育の質向上に向けて大学全体のPDCAサイクルを推進する。 5. IR分析結果の公開方法を検討する。
---------	--

16. 自己点検・評価活動

担 当： 教学マネジメント委員会

本年度の活動目標	2020 年度以降入学者カリキュラムによる学修成果の評価と課題整理 2020 年度以降入学者カリキュラムが 2023 年度に完成年度を迎えたことを受け、学部カリキュラム委員会、内部質保証推進委員会、I R 委員会、教務委員会等と連携を取りながらデータを集約・分析し、学修成果と課題を整理し、D P・C P・A P の見直し、カリキュラム改訂、教育方法の検討に繋げる。(2020-2023 年度データ) - 入学者のアドミッション・ポリシー到達度(2024 年度入学生アンケート結果)、学習成績(GPA. 入試～卒業時成績、国家試験関連成績)を分析し、教育活動及び入試・広報の在り方の検討に繋げる。 - 教育評価及びカリキュラム作りへの学生参加の方法を検討する。 学生による学修成果の評価を通して、カリキュラム評価、授業評価及び新カリキュラム検討等に学生が主体的に関われる仕組みを検討する。 - 大学院看護栄養学研究科、助産学研究科のアセスメントポリシーを策定し、活用する。 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準 2-①, 4-⑤, 5-③ (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) II-1, III-1, 2, 3, IV-1, 2
活動内容の評価	2020 年度以降入学者カリキュラムによる学修成果の評価と課題整理 [活動内容] 2020 年度以降入学者カリキュラムで学んだ学生の卒業時の D P 到達度の分析結果等から、現行カリキュラムの課題や学生教育上の課題をワーキンググループで抽出し、課題解決に向けて教育研究評議会に報告した。 [活動内容に対する自己評価] カリキュラムの評価から課題抽出できたことは評価できるが、課題と改善計画に関して、全学的な共有は達成しておらず、今後、課題に関する認識の共有と改善に向けた全学的な議論が必要である。 - 入学者のアドミッション・ポリシー到達度(2024 年度入学生アンケート結果)、学習成績(GPA. 入試～卒業時成績、国家試験関連成績)を分析し、教育活動及び入試・広報の在り方の検討に繋げる。 [活動内容] 2024 年度入学者アンケートの分析は行ったが、一部にとどまりその後の成績評価等学生個々の縦断的な分析には至っていない。 [活動内容に対する自己評価] 本委員会の活動を活動目標 1 に注力したため、時間的な制約から目標が達成できなかった。次年度に向けて、計画的にタイムスケジュールを立てる必要がある。 - 教育評価及びカリキュラム作りへの学生参加の方法を検討する。 [活動内容] 活動目標 1 に関連して、課題として教務委員会、学部カリキュラム委員会に検討を依頼した。 [活動内容に対する自己評価] 現在検討中であり、目標達成には至っていない。引き続き検討が必要である。

	4. 大学院看護栄養学研究科、助産学研究科のアセスメントポリシーを策定し、活用する。 [活動内容] 看護栄養学研究科および助産研究科の検討を経て、大学院共通のアセスメントポリシーが策定された。 [活動内容に対する自己評価] 目標は達成されたが、アセスメントポリシーに基づくデータの収集、分析評価結果を教育・研究の質向上に繋げることが、今後の検討課題である。
次年度への課題	1. 2020 年度以降入学者カリキュラムの評価、及びアセスメントポリシーに基づく教育活動の評価を引き続き推進し、教育・研究の向上に向けた検討を進める。 2. 教育、研究活動への学生の参加について検討を進める。 3. 大学院のアセスメントポリシーの活用について検討を進める。

自己点検・評価資料

目 次

1. 学事暦	74
2. 2024 年度教育課程	79
3. 学生数・奨学金の採用状況	92
4. 国家試験合格率	96
5. 就職・進学状況	97
6. 2024 年度入学試験結果	101
7. 教員組織	102
8. 事務組織	104
9. 研究等の活動	105
10. 組織図	107
11. 会議の開催状況	108
12. 委員会構成一覧	117
13. 委員会の活動報告	119
14. 図書館の利用状況	146
15. 情報処理室の利用状況	147
16. 施設・設備の状況	148
17. 財務状況	150

1. 学事暦

2024年度 学事暦【看護学科】

2024.3.22
教授会

暦							1年次							2年次							3年次							4年次							全学行事等	
日	月	火	水	木	金	土	・入学式・オリエンテーション 4/2 ・オリエンテーション 4/3・4 ・出会いと親睦のゼミ 4/5 ・履修登録期間 4/8-12							・在学生ガイダンス 4/3 ・履修登録期間 4/4-10							・在学生ガイダンス 4/3 ・履修登録期間 4/4-10							・在学生ガイダンス 4/3 ・履修登録期間 4/4-10								
31	1	2	3	4	5	6	授業期間 4/8-8/5							授業期間 4/4-8/5							授業期間 4/4-8/5							授業期間 4/4-8/5 精神看護学臨地実習 在宅看護学臨地実習 小児看護学臨地実習 母性看護学臨地実習 5/7-7/12							4/6(1・4年・院)・7(2・3年) 健診 4/9PM イースターの集い/ 学生総会	
7	8	9	10	11	12	13																														
14	15	16	17	18	19	20																														
21	22	23	24	25	26	27																														
28	29	30	1	2	3	4	試験期間等 8/6-8/20 夏期休業 8/6-9/6							試験期間等 8/6-8/7 夏期休業 8/6-8/23							試験期間等 8/6-8/7 夏期休業 8/6-8/23							試験期間等 8/6-8/20 夏期休業 8/6-9/6								5/15PM 合唱コンクール
5	6	7	8	9	10	11																														
12	13	14	15	16	17	18																														
19	20	21	22	23	24	25																														
26	27	28	29	30	31	1	履修登録変更期間 9/9-13							基礎看護学臨地実習Ⅱ 8/26-9/13(うち10日間)							成人看護学臨地実習Ⅰ 老年看護学臨地実習Ⅱ 小児看護学臨地実習 母性看護学臨地実習 8/26-10/25							履修登録変更期間 9/9-13 ・卒業証書・学位記授与式 9/30							6/1 B肝・小児4種ワクチン接種 1回目(1・2年) 6/13PM-15 天使祭 6/15 オープンキャンパス	
2	3	4	5	6	7	8																														
9	10	11	12	13	14	15																														
16	17	18	19	20	21	22																														
23	24	25	26	27	28	29	基礎看護学臨地実習Ⅰ 10/21-10/24 10/28-10/31							・修養会 10/30 老年看護学臨地実習Ⅰ 11/11-11/15 ・戴帽式総練習 11/21PM ・戴帽式 11/22PM							履修登録変更期間 12/9-13							授業期間 9/9-1/10								7/6 B肝・小児4種ワクチン接種 2回目(1・2年) 8/3・4 オープンキャンパス 8/14-8/16 大学休業日 8/31 入試(学部・栄養学科のみ)
30	1	2	3	4	5	6																														
7	8	9	10	11	12	13																														
14	15	16	17	18	19	20																														
21	22	23	24	25	26	27	授業期間 9/9-2/5							授業期間 9/17-2/5							履修登録変更期間 2/9-13							試験期間等 1/14-1/30							9/14 入試(院) 9/21 オープンキャンパス 10/19 入試(院)および入試 (学部・栄養学科のみ)	
28	29	30	31	1	2	3																														
4	5	6	7	8	9	10																														
11	12	13	14	15	16	17																														
18	19	20	21	22	23	24	冬期休業 12/26-1/7							冬期休業 12/26-1/7							授業期間 12/9-2/21 ・修養会 1/16							冬期休業 12/26-1/7								11/23 入試(学部) 12/7 B肝・小児4種ワクチン接種 3回目(1・2年) 12/8 創立記念日 12/10 体育祭 12/18PM クリスマスの集い/ 学生総会 12/25 クリスマス降誕祭
25	26	27	28	29	30	31																														
2	3	4	5	6	7	8																														
9	10	11	12	13	14	15																														
16	17	18	19	20	21	22	試験期間等 2/6-3/3							試験期間等 2/6-3/3							試験期間等 2/22-3/3							・修養会 2/19 ・卒業判定 2/21							1/18・19 大学入学共通テスト 1/25 入試(院)	
23	24	25	26	27	28	1																														
2	3	4	5	6	7	8																														
9	10	11	12	13	14	15																														
16	17	18	19	20	21	22	進級判定 3/10 春期休業 2/6-3/31							進級判定 3/10 春期休業 2/6-3/31							進級判定 3/21 春期休業 2/22-3/31							・卒業・修了感謝の ミサ 3/13 ・卒業証書・学位記 授与式 3/14								2/6・7・18 入試(学部)
23	24	25	26	27	28	1																														
2	3	4	5	6	7	8																														
9	10	11	12	13	14	15																														
16	17	18	19	20	21	22	進級判定 3/10 春期休業 2/6-3/31							進級判定 3/10 春期休業 2/6-3/31							進級判定 3/21 春期休業 2/22-3/31							・卒業・修了感謝の ミサ 3/13 ・卒業証書・学位記 授与式 3/14							3/22 オープンキャンパス	
23	24	25	26	27	28	29																														
30	31																																			

◆この学事暦の日程は、一部変更することがあります。学則では、前期 4月1日から9月15日まで、後期 9月16日から翌年3月31日までと定められていますが、実際には、臨地(学外)実習などの事情により、学科・学年ごとに学事暦が異なります。

◆土日・祝日は必要に応じて開講日とします。授業予定の詳細については各学科・学年ごとに示される授業予定表で確認してください。

◆当該学期の「授業期間」に授業を実施・終了します。授業外試験、追・再試験、補講等については、科目責任者等の判断により、授業の進捗に応じて適宜「授業期間」及び「試験期間等」に行うことができます。なお、「試験期間等」の期間に授業外試験、追・再試験、補講等がない学生は、休業期間となります。

2024年度 学事暦【栄養学科】

2024.3.22
教授会

暦							1年次	2年次	3年次	4年次	全学行事等
日	月	火	水	木	金	土	・入学式・オリエンテーション 4/2 ・オリエンテーション 4/3・4 ・出会いと親睦のゼミ 4/5 ・履修登録期間 4/8-12	・在学生ガイダンス 4/3 ・履修登録期間 4/4-10	・在学生ガイダンス 4/3 ・履修登録期間 4/4-10	・在学生ガイダンス 4/3 ・履修登録期間 4/4-10	4/6(1・4年・院)・7(2・3年) 健診 4/9PM イースターの集い/ 学生総会
4	7	8	9	10	11	12	授業期間 4/8-8/5	授業期間 4/4-8/5	授業期間 4/4-8/5	授業期間 4/4-8/5 給食経営管理論実習Ⅲ 5/27-6/14(うち5日間) 公衆栄養学実習Ⅱ 5/27-6/7、(8/12-9/13) (うち5日間) 栄養教育実習 6/3-6/14(うち5日間)	5/15PM 合唱コンクール 6/1 B肝・小児4種ワクチン接種 1回目(1・2年) 6/13PM-15 天使祭 6/15 オープンキャンパス
14	15	16	17	18	19	20					
21	22	23	24	25	26	27					
28	29	30	1	2	3	4					
5	6	7	8	9	10	11					
5	12	13	14	15	16	17	試験期間等 8/6-8/20 夏期休業 8/6-9/6	試験期間等 8/6-8/20 夏期休業 8/6-9/6	試験期間等 8/6-8/20 夏期休業 8/6-8/23	試験期間等 8/6-8/7 給食経営管理論実習Ⅳ 8/12-9/13(うち5日間) 臨床栄養学実習Ⅴ・Ⅵ 8/12-9/13(うち5日間) 公衆栄養学実習Ⅱ 8/12-9/13(うち5日間) (5/27-6/7) 夏期休業 8/6-9/13	7/6 B肝・小児4種ワクチン接種 2回目(1・2年) 8/3・4 オープンキャンパス 8/14-8/16 大学休業日 8/31 入試(学部・栄養学科のみ)
19	20	21	22	23	24	25					
26	27	28	29	30	31	1					
2	3	4	5	6	7	8					
9	10	11	12	13	14	15					
6	16	17	18	19	20	21	履修登録変更期間 9/9-13	履修登録変更期間 9/9-13	履修登録変更期間 8/26-30	履修登録変更期間 9/17-24	9/14 入試(院) 9/21 オープンキャンパス
23	24	25	26	27	28	29					
30	1	2	3	4	5	6					
7	8	9	10	11	12	13					
14	15	16	17	18	19	20					
7	21	22	23	24	25	26	履修登録変更期間 9/9-13	履修登録変更期間 9/9-13	履修登録変更期間 8/26-30	履修登録変更期間 9/17-24	10/19 入試(院)および入試 (学部・栄養学科のみ)
28	29	30	31	1	2	3					
4	5	6	7	8	9	10					
11	12	13	14	15	16	17					
18	19	20	21	22	23	24					
8	25	26	27	28	29	30	履修登録変更期間 9/9-13	履修登録変更期間 9/9-13	履修登録変更期間 8/26-30	履修登録変更期間 9/17-24	11/23 入試(学部) 12/7 B肝・小児4種ワクチン接種 3回目(1・2年) 12/8 創立記念日 12/10 体育祭 12/18PM クリスマスの集い/ 学生総会 12/25 クリスマス降誕祭
1	2	3	4	5	6	7					
8	9	10	11	12	13	14					
15	16	17	18	19	20	21					
22	23	24	25	26	27	28					
10	29	30	1	2	3	4	履修登録変更期間 9/9-13	履修登録変更期間 9/9-13	履修登録変更期間 8/26-30	履修登録変更期間 9/17-24	1/18・19 大学入学共通テスト 1/25 入試(院) 2/6・7・18 入試(学部)
6	7	8	9	10	11	12					
13	14	15	16	17	18	19					
20	21	22	23	24	25	26					
27	28	29	30	31	1	2					
11	3	4	5	6	7	8	履修登録変更期間 9/9-13	履修登録変更期間 9/9-13	履修登録変更期間 8/26-30	履修登録変更期間 9/17-24	3/22 オープンキャンパス
10	11	12	13	14	15	16					
17	18	19	20	21	22	23					
24	25	26	27	28	29	30					
12	1	2	3	4	5	6					
12	8	9	10	11	12	13	履修登録変更期間 9/9-13	履修登録変更期間 9/9-13	履修登録変更期間 8/26-30	履修登録変更期間 9/17-24	3/22 オープンキャンパス
15	16	17	18	19	20	21					
22	23	24	25	26	27	28					
29	30	31	1	2	3	4					
1	5	6	7	8	9	10					
1	12	13	14	15	16	17	履修登録変更期間 9/9-13	履修登録変更期間 9/9-13	履修登録変更期間 8/26-30	履修登録変更期間 9/17-24	3/22 オープンキャンパス
19	20	21	22	23	24	25					
26	27	28	29	30	31	1					
2	3	4	5	6	7	8					
9	10	11	12	13	14	15					
2	16	17	18	19	20	21	履修登録変更期間 9/9-13	履修登録変更期間 9/9-13	履修登録変更期間 8/26-30	履修登録変更期間 9/17-24	3/22 オープンキャンパス
23	24	25	26	27	28	1					
2	3	4	5	6	7	8					
9	10	11	12	13	14	15					
16	17	18	19	20	21	22					
3	23	24	25	26	27	28	履修登録変更期間 9/9-13	履修登録変更期間 9/9-13	履修登録変更期間 8/26-30	履修登録変更期間 9/17-24	3/22 オープンキャンパス
30	31										

◆この学事暦の日程は、一部変更することがあります。学則では、前期 4月1日から9月15日まで、後期 9月16日から翌年3月31日までと定められていますが、実際には、臨地(学外)実習などの事情により、学科・学年ごとに学事暦が異なります。

◆土日・祝日は必要に応じて開講日とします。授業予定の詳細については各学科・学年ごとに示される授業予定表で確認してください。

◆当該学期の「授業期間」に授業を実施・終了します。授業外試験、追・再試験、補講等については、科目責任者等の判断により、授業の進捗に応じて適宜「授業期間」及び「試験期間等」に行うことができます。なお、「試験期間等」の期間に授業外試験、追・再試験、補講等がない学生は、休業期間となります。

2024年度 大学院看護栄養学研究科学事暦

2024.3.11
追記 研究科委員会承認
2023.12.11
研究科委員会承認

暦								行事予定	全学行事等	臨地実習
4	日	月	火	水	木	金	土	4/2 入学式・専攻別オリエンテーション 4/4 授業開始(前期) 4/4～8 履修登録期間 4/6 定期健康診断 4/12 【M】研究計画書発表会(看護学専攻2年次以降)	4/9 PM イースターの集い	
	31	1	2	3	4	5	6			
	7	8	9	10	11	12	13			
	14	15	16	17	18	19	20			
5	21	22	23	24	25	26	27	5/31 【D】早期修了申請書提出(看護学専攻)	5/15 PM 合唱コンクール	
	28	29	30	1	2	3	4			
	5	6	7	8	9	10	11			
	12	13	14	15	16	17	18			
6	19	20	21	22	23	24	25	7/2～5 【M】【D】学位論文の提出(9月修了者)		6/14～28(うち5日間) 公衆衛生看護管理実習Ⅱ(2年次)
	26	27	28	29	30	31	1			
	2	3	4	5	6	7	8			
	9	10	11	12	13	14	15			
7	16	17	18	19	20	21	22	7/23 【M】【D】学位論文発表会・論文審査会(9月修了者) 7/25 【M】【D】中間発表会(栄養管理学専攻2年次以降)		7/16～26 高度実践精神看護実習Ⅳ
	23	24	25	26	27	28	29			
	30	1	2	3	4	5	6			
	7	8	9	10	11	12	13			
8	14	15	16	17	18	19	20	8/19 13:00まで【M】【D】修正済み論文提出(9月修了者) 8/26 授業開始(後期) 8/26～30 履修登録変更期間	8/14～16 大学休業日	8/26～30(うち2日間) 公衆衛生看護活動実習Ⅰ(1年次)
	21	22	23	24	25	26	27			
	28	29	30	31	1	2	3			
	4	5	6	7	8	9	10			
9	11	12	13	14	15	16	17	9/13 17:00まで【M】研究計画書提出(看護学専攻2年次以降)(10月研究計画発表者)	9/14 大学院推薦型選抜	9/2～2/14(週1回) 家族看護継続実習Ⅰ(1年次)
	18	19	20	21	22	23	24			
	25	26	27	28	29	30	31			
	1	2	3	4	5	6	7			
10	8	9	10	11	12	13	14	9/30 前期修了 卒業証書・学位記授与式	10/19 大学院一般選抜Ⅰ期 入試(学部)	10/15～11/1(その間の13日間) 公衆衛生看護活動実習Ⅰ(1年次) 高度実践在宅看護学実習Ⅰ(1年次)
	15	16	17	18	19	20	21			
	22	23	24	25	26	27	28			
	29	30	1	2	3	4	5			
11	6	7	8	9	10	11	12	10/16 【M】研究計画書発表会(看護学専攻2年次以降)(10月研究計画発表者)	10/31 【D】学位論文の提出(看護学専攻予備審査)	10月予定 高度実践精神看護実習Ⅴ
	13	14	15	16	17	18	19			
	20	21	22	23	24	25	26			
	27	28	29	30	31	1	2			
12	3	4	5	6	7	8	9	11/29 17:00まで【M】課題研究論文の提出(保健師コース)	11/23 入試(学部)	11/5～15 公衆衛生看護管理実習Ⅰ(1年次)
	10	11	12	13	14	15	16			
	17	18	19	20	21	22	23			
	24	25	26	27	28	29	30			
1	1	2	3	4	5	6	7	12/11 【M】課題研究論文発表会・論文審査会 (保健師コース)	12/8 創立記念日 12/18 PM クリスマスの集い 12/25 キリスト降誕祭	
	8	9	10	11	12	13	14			
	15	16	17	18	19	20	21			
	22	23	24	25	26	27	28			
2	29	30	31	1	2	3	4	1/9 【M】修正済み課題研究論文提出(保健師コース) 1/14～17 【M】【D】学位論文の提出	1/18・19 大学入学共通テスト 1/25 大学院一般選抜Ⅱ期 2/1・2 大学入学共通テスト(追試) 2/6・7・18 入試(学部)	1/14～2/7 ホスピス緩和ケア看護学実習Ⅰ
	5	6	7	8	9	10	11			
	12	13	14	15	16	17	18			
	19	20	21	22	23	24	25			
3	26	27	28	29	30	31	1	1/30 【M】【D】学位論文発表会・論文審査会		
	2	3	4	5	6	7	8			
	9	10	11	12	13	14	15			
	16	17	18	19	20	21	22			
4	23	24	25	26	27	28	1	2/13 17:00まで【M】【D】修正済み論文提出 2/14 後期授業終了		
	2	3	4	5	6	7	8			
	9	10	11	12	13	14	15			
	16	17	18	19	20	21	22			
5	23	24	25	26	27	28	1	3/13 卒業・修了感謝のミサ 3/14 卒業証書・学位記授与式		
	2	3	4	5	6	7	8			
	9	10	11	12	13	14	15			
	16	17	18	19	20	21	22			
6	23	24	25	26	27	28	29	3/21 17:00まで【M】研究計画書提出(看護学専攻1年次) 3/28 17:00まで【M】研究計画書提出(看護学専攻2年次以降)		
	30	31								

この学事暦の日程は、一部変更することがあります。学則では、前期 4月1日から9月30日まで、後期 10月1日から翌年3月31日までと定められていますが、事情により変更する場合があります。

【M】は博士前期課程、【D】は博士後期課程を示します。

【前期】

2024年度 天使大学大学院 助産研究科 学事暦

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定等	
4月		1	2	3	4	5	6	2日(火) 入学式・新入生オリエンテーション 3日(水) 新入生オリエンテーション・2年次ガイダンス 4日(木) 入学時修養会「出会いと親睦のゼミ」 6日(土) 定期健康診断 8日(月)午後 イースターの集い	
	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25	26	27		
	28	29	30						
								30日(水)	基礎2年：「マタニティサイクル独立助産実習」開始(前半グループ)
5月				1	2	3	4		
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	29	30	31			
6月							1	10日(月) 基礎1年：「マタニティサイクル助産学基礎実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」開始 14日(金) 基礎2年：「マタニティサイクル独立助産実習」終了(前半グループ) 17日(月) 基礎2年：「マタニティサイクル独立助産実習」開始(後半グループ)	
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28	29		
	30								
7月		1	2	3	4	5	6		
	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25	26	27		
	28	29	30	31					
8月					1	2	3	2日(金) 基礎2年：「マタニティサイクル独立助産実習」終了(後半グループ) 9日(金) 基礎1年：「マタニティサイクル助産学基礎実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」終了 13日(月)～23日(金) 基礎1・2年、教育1年：補講期間・前期定期試験	
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30	31		
								26日(月)	夏季休業開始
9月	1	2	3	4	5	6	7	2日(月) 基礎2年：「マタニティサイクル助産学統合実習Ⅱ」開始 20日(金) 夏季休業終了	
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30							

前期

学年	専攻	学内授業期間	臨地実習期間	
1年次	基礎	4月 5日(金) ～ 6月 7日(金) 8月13日(月) ～ 8月23日(金)	基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	6月10日(月) ～ 8月 9日(金) (期間内1人当り：原則6週間)
	教育		—————	—————
2年次	基礎	4月 4日(木) ～ 4月26日(金) 8月 5日(月) ～ 8月23日(金)	独立助産実習(前半) 独立助産実習(後半)	4月30日(火) ～ 6月14日(金) 6月17日(月) ～ 8月 2日(金) (期間内1人当り：原則6週間)
	教育		—————	—————

【後期】

2024年度 天使大学大学院 助産研究科 学事暦

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定等	
10月			1	2	3	4	5	25日(金)	基礎2年：「マタニティサクル助産学統合実習Ⅱ」終了
	6	7	8	9	10	11	12		
	13	14	15	16	17	18	19		
	20	21	22	23	24	25	26		
	27	28	29	30	31				
11月						1	2	4日(月)～8日(金) 11日(月)	基礎1年： 演習、実習リエンション 基礎1年：「マタニティサクル助産学統合実習Ⅰ」開始
	3	4	5	6	7	8	9		
	10	11	12	13	14	15	16		
	17	18	19	20	21	22	23		
	24	25	26	27	28	29	30		
12月	1	2	3	4	5	6	7	8日(日) 18日(水)午後 25日(水)	創立記念日 クリスマスの集い クリスマス降誕祭・冬季休業開始
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30	31						
1月				1	2	3	4	7日(火)	冬季休業終了
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	29	30	31			
2月							1	14日(金) 19日(水)	基礎1年：「マタニティサクル助産学統合実習Ⅰ」終了 修了前修養会
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28			
3月							1	13日(木) 14日(金)	修了・卒業感謝の会 修了証書・学位記授与式
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28	29		
	30	31							

後期

学年	専攻	学内授業期間	臨地実習期間	
1年次	基礎	9月24日(火)～11月8日(金) 2月17日(月)～2月21日(金)	統合実習Ⅰ	11月11日(月)～12月20日(金) 1月8日(水)～2月14日(金) (期間内1人当り：原則6週間)
	教育	———	———	———
2年次	基礎	10月28日(月)～12月20日(金) 1月8日(水)～2月21日(金)	統合実習Ⅱ	9月2日(月)～10月25日(金) (期間内1人当り：2週間)

2. 2024年度教育課程

1) 看護学科

〈2022年度以降入学生対象〉

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業形態			概要	卒業所要単位	
			必 修	選 択	講 義	演 習	実 験・ 実習			
キリスト教を 基盤と した人間 教育科目 群	キリスト教学概論	1前	2		○				必修科目114単 位、選択科目15 単位以上(選択 必修科目含む) 修得	
	聖書の講読	1後		▲2	○					
	キリスト教人間学	2前		▲2	○					
	キリスト教思想論	2後		▲2	○					
	人間形成とキャリアデザインⅠ	1前	1		○					
	人間形成とキャリアデザインⅡ	2後	1		○					
	人間形成とキャリアデザインⅢ	3後	1		○					
	人間形成とキャリアデザインⅣ	4後	1		○					
	小計 (8科目)		—	6	6	—				
教養教育科目群	共通基礎 教育科目	共通 基礎	基礎学修演習	1前	1			○		
			情報処理演習	1前		1		○		
			教養ゼミ	2後		2	○			
		自然 科学	化学	1前	2		○			
			生物学	1前		2	○			
			データの科学	1後	2		○			
			科学的思考	2前		2	○			
		外国 語	英語ⅠA	1前	1			○		
			英語ⅠB	1後	1			○		
			英語ⅡA	2前		1		○		
			英語ⅡB	2後		1		○		
			オーラルイングリッシュⅠA	1前	1			○		
			オーラルイングリッシュⅠB	1後	1			○		
			オーラルイングリッシュⅡA	2前		1		○		
			オーラルイングリッシュⅡB	2後		1		○		
			フランス語	2前		1		○		
			中国語	2前		1		○		
			韓国語	2前		1		○		
		スペイン語	2前		1		○			
		健康・ スポーツ	健康とスポーツⅠ	1通		1			○	
			健康とスポーツⅡ	2通		1			○	
	小計 (21科目)		—	9	17	—				
	共通教養 教育科目	人間と 文化	倫理学	1後	2		○			
			宗教学	1後		2	○			
			音楽概論	1後		2	○			
			美術概論	1後		2	○			
			民族と異文化理解	2後		2	○			
		人間と 社会	法学(日本国憲法)	1前		2	○			
			対人関係の心理学	1前		2	○			
			社会学	1前		2	○			
			近現代の日本	1後		2	○			
			現代の政治経済	2後		2	○			
	小計 (10科目)		—	2	18	—				
	小計 (31科目)		—	11	35	—				
	専門教育科目群	専門基礎 科目	形態機能学Ⅰ	1前	2		○			
形態機能学Ⅱ			1後	2		○				
栄養代謝学			1前	2		○				
微生物学			1後	2		○				
病理学			1後	2		○				
看護薬理学			2前	2		○				
病態診療学Ⅰ			2前	2		○	○			
病態診療学Ⅱ			2後	2		○				
環境健康論			1後	2		○				
社会福祉論			1前	2		○				
保健医療福祉システム論			3前	2		○				
生涯発達論			1前	1		○				
医療と倫理			2前	1		○				
医療人類学			4後		1	○				
小計 (14科目)		—	24	1	—					

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業形態			概要	卒業所要単位
			必 修	選 択	講 義	演 習	実 験・ 実習		
専門教育科目群	看護基礎科目	看護学原理	1前	2		○			
		人間関係論	1後	1			○		
		看護過程とヘルスアセスメントⅠ	2前	2		○			
		看護過程とヘルスアセスメントⅡ	2前	1			○		
		基礎看護技術論Ⅰ	1前	1			○		
		基礎看護技術論Ⅱ	1後	2			○		
		基礎看護技術論Ⅲ	2前	1			○		
		基礎看護技術論Ⅳ	2前	1			○		
	小計（8科目）		—	11	0	—			
	看護臨床科目	地域看護学Ⅰ	2前	1		○			
		地域看護学Ⅱ	2後	1		○			
		成人看護学Ⅰ	2前	1		○			
		成人看護学Ⅱ	2後	2			○		
		成人看護学Ⅲ	3前	2		○	○		
		老年看護学Ⅰ	2前	2		○			
		老年看護学Ⅱ	3前	2		○	○		
		小児看護学Ⅰ	2後	2		○			
		小児看護学Ⅱ	3前	2		○	○		
		母性看護学Ⅰ	2後	1		○			
		母性看護学Ⅱ	2後	2		○			
		母性看護学Ⅲ	3前	1			○		
		精神看護学Ⅰ	2後	1		○			
		精神看護学Ⅱ	3前	2		○			
		精神看護学Ⅲ	3後	1			○		
		在宅看護学Ⅰ	3前	1		○			
		在宅看護学Ⅱ	3後	2		○			
		家族看護学	3前	1		○			
		医療安全	3前	1		○			
		多職種連携	1後	1		○			
		多職種連携演習	3後	1			○		
		看護倫理	4前	1		○			
	臨地実習科目	基礎看護学臨地実習Ⅰ	1後	1				○	
		基礎看護学臨地実習Ⅱ	2後	2				○	
		成人看護学臨地実習Ⅰ	3後	3				○	
		成人看護学臨地実習Ⅱ	3後	3				○	
		老年看護学臨地実習Ⅰ	2後	1				○	
		老年看護学臨地実習Ⅱ	3後	3				○	
		小児看護学臨地実習	3後～4前	2				○	
		母性看護学臨地実習	3後～4前	2				○	
		精神看護学臨地実習	4前	2				○	
		在宅看護学臨地実習	4前	2				○	
	小計（32科目）		—	52	0	—			
	小計（54科目）		—	87	1	—			
統合発展科目群		生と死の看護学Ⅱ	2後	1			○		
		ホスピス・緩和ケア論	3前	1		○			
		ヘルスプロモーション活動論	3後		1	○			
		リハビリテーション看護学	4前		1	○			
		国際保健学	2前		1	○			
		国際保健学演習	2後/3後		1		○		
		看護英文講読	3後		1	○			
		看護研究の基礎	3後	1			○		
		看護研究	4前後	2			○		
		看護管理	4前	1		○			
		災害看護学	4前	1		○			
		看護教育学	4前		1	○			
		統合看護臨地実習	4前	2				○	
		統合看護技術演習	4後	1			○		
	小計（14科目）		—	10	6	—			
合計（107科目）		—	114	48	—				

▲は選択必修科目

2) 栄養学科

<2020年度以降入学生対象>

科目 区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業形態			概要	卒業所要単位
				必 修	選 択	講 義	演 習	実 験・ 実 習		
し き り ス ト 教 育 科 目 群		キリスト教概論	1前	2		○				必修科目104単 位、選択科目23 単位以上(選択 必修科目含む) 修得
		聖書の講読	1後		▲2	○				
		キリスト教人間学	2前		▲2	○				
		キリスト教思想論	2後		▲2	○				
		人間形成とキャリアデザインⅠ	1前	1		○				
		人間形成とキャリアデザインⅡ	2後	1		○				
		人間形成とキャリアデザインⅢ	3後	1		○				
		人間形成とキャリアデザインⅣ	4後	1		○				
小計（8科目）		—	6	6	—					
教 養 教 育 科 目 群	共通 基礎 									

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業形態			摘要	卒業所要単位
			必 修	選 択	講 義	演 習	実 験・ 実習		
	形態機能学実習Ⅱ	3前	1				○		
	病理学	2前	2		○				
	生化学実験	2前	1				○		
	病態診療学	2後	2		○				
	小計（11科目）	—	17	2	—				
専門 基礎科目	食べ物と健康								
	食品科学Ⅰ	1前	2		○				
	食品科学Ⅱ	1後	2		○				
	食品科学Ⅲ	4前		2	○				
	調理学	1前	2		○				
	調理学実習Ⅰ	1前	1				○		
	調理学実習Ⅱ	1後	1				○		
	食品科学実験Ⅰ	1後	1				○		
	食品科学実験Ⅱ	3前	1				○		
	食品衛生学	2前	2		○				
	食品衛生学実験	2前	1				○		
	食品微生物学実験	2前	1				○		
	食文化論	4後		1	○				
	小計（12科目）	—	14	3	—				
	小計（30科目）	—	39	7	—				
専門 教育科目群	栄養の基礎								
	基礎栄養学	1後	2		○				
	応用栄養学Ⅰ	2前	2		○				
	応用栄養学Ⅱ	2後	2		○				
	応用栄養学Ⅲ	3後	2		○				
	基礎栄養学実験・実習	2後	1				○		
	応用栄養学実習	3前	1				○		
	スポーツ栄養学	4前		2	○				
	国際栄養学	4後		1	○				
	小計（8科目）	—	10	3	—				
	栄養の教育								
	栄養教育論Ⅰ	2前	2		○				
	栄養教育論Ⅱ	2後	2		○				
	栄養教育論Ⅲ	3後	2		○				
	栄養教育論実習	3前	1				○		
	カウンセリング演習	3前		1		○			
	学校栄養指導論Ⅰ	3前		2	○				
	学校栄養指導論Ⅱ	3後		2	○				
	小計（7科目）	—	7	5	—				
専門 科目	栄養の実践								
	臨床栄養学Ⅰ	2前	2		○				
	臨床栄養学Ⅱ	2後	2		○				
	臨床栄養学Ⅲ	3前	2		○				
	臨床栄養学Ⅳ	3後	2		○				
	給食経営管理論Ⅰ	2前	2		○				
	給食経営管理論Ⅱ	2後	2			○			
	給食経営管理論実習Ⅰ	2後	1				○		
	臨床栄養学実習Ⅰ	3前	1				○		
	臨床栄養学実習Ⅱ	3後	1				○		
	臨床栄養学実習Ⅳ	4前	1				○		
	公衆栄養学Ⅰ	3前	2		○				
	公衆栄養学Ⅱ	3後	2		○				
	公衆栄養学実習Ⅰ	3後	1				○		
	多職種連携	2後	1		○				
	多職種連携演習	3後	1			○			
	総合演習Ⅰ	3通年	1			○			
	総合演習Ⅱ	4通年	2			○			
	在宅栄養管理論	4前	1		○				
	地域栄養活動演習	4前		1		○			
	フードサービス演習	4前		2		○			
	小計（20科目）	—	27	3	—				

科目 区分			授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業形態			摘要	卒業所要単位
					必 修	選 択	講 義	演 習	実 験・ 実 習		
		学 外 実 習	給食経営管理論実習Ⅱ	3後	1				○		
			給食経営管理論実習Ⅲ	4前		▲1			○		
			給食経営管理論実習Ⅳ	4通年		▲1			○		
			公衆栄養学実習Ⅱ	4通年		▲1			○		
			臨床栄養学実習Ⅲ	3後	2				○		
			臨床栄養学実習Ⅴ	4通年		▲1			○		
			臨床栄養学実習Ⅵ	4通年		2			○		
			小計（7科目）	—	3	6	—				
		小計（42科目）	—	47	17	—					
		小計（72科目）	—	86	24	—					
統 合 発 展 科 目 群		国際保健学	国際保健学	2前		1	○				
			国際保健学演習	2後		1		○			
			英文文献講読	3後		1		○			
			食といのちのゼミ	4後	1		○				
			卒業研究	4通年		3		○			
		小計（5科目）	—	1	6	—					
合計（116科目）				—	104	71	—				

▲は選択必修科目

3) 教職課程

科目区分	授業科目	開講 年次	学期	単位数		区分			備考
				必修	選択	講義	演習	実習	
教職課程科目	教育原論	1	後		1	1			
	教職概論	1	前		2	2			
	教育制度論	2	前		1	1			
	発達と学習の心理学	1	後		2	2			
	特別支援教育論	2	前		1	1			
	教育課程論	1	後		1	1			
	道徳教育論	2	後		1	1			
	総合学習指導論	3	前		1	1			
	特別活動論	2	後		1	1			
	教育方法論	2	前		1	1			
	教育における I C T 活用論	2	前		1	1			
	生徒指導論	2	後		2	2			
	カウンセリング概論	1	後		2	2			
	栄養教育実習事前事後指導	4	前		1			1	
	栄養教育実習	4	前		1			1	
	教職実践演習（栄養教諭）	4	前後		2		2		
	教職総合演習	3	後		2		2		
	合計				23	17	4	2	

4) 大学院看護栄養学研究科 栄養管理学専攻(博士前期課程)

2023年度以降入学生対象

授 業 科 目		共通 科目	配当 年次	学期	単 位 数		授 業 区 分		
					必修	選択	講義	演習	実習
基礎科目	倫 理 学 特 論	☆	1	後	1		1		
	統 計 学 特 論	☆	1	前	1			1	
	疫 学	☆	1	前	1		1		
	人 間 関 係 論 特 論	☆	1	後		1	1		
	研 究 方 法 論 特 論	☆	1	前	2		2		
	医 療 情 報 ・ 医 療 経 済	☆	1	後		1	1		
	国 際 保 健 学 特 論	☆	2	前		1	1		
	国 際 保 健 学 特 論 演 習	☆	2	前		1		1	
専門基礎科目	食 品 衛 生 学 特 論		1	前	2		2		
	食 品 機 能 学 特 論		1・2	※ 前		1	1		
	栄 養 生 理 学 特 論		1・2	※ 前		2	2		
	代 謝 栄 養 学 特 論	★	1	後	2		2		
	地 域 ケ ア シ ス テ ム 論	☆	1	後		1	1		
	ヘルスカウンセリング論	★	1	前		1		1	
	環 境 保 健 学	★	1	前		1	1		
	健 康 社 会 学	★	2	前		1	1		
	医 療 人 類 学 特 論	★	2	前		1	1		
専門実践科目	栄 養 管 理 学 特 論		1	前	2		2		
	栄 養 疫 学 特 論		1	後		1	1		
	健 康 行 動 科 学 特 論	☆	1	前	1		1		
	健 康 ・ 食 行 動 理 論		1	前		1	1		
	健 康 栄 養 エ ビ デ ン ス 論		1・2	※ 前		2	2		
	栄 養 診 断 学 特 論		1	後	2		2		
	臨 床 栄 養 学 特 論		1	前	2		2		
	栄 養 管 理 学 特 別 研 究		1～2	前後	4				4
	栄 養 管 理 学 特 別 演 習		1～2	前後	4			4	
合 計					24	16	29	7	4

修了に必要な単位数:30単位以上

※:隔年開講

☆:両専攻共通科目

★:両専攻選択可能科目

5) 大学院看護栄養学研究科 栄養管理学専攻 (博士後期課程) 2024年度以降入学生対象

区分	授 業 科 目	配当 年次	学期	単 位 数		授 業 区 分		
				必修	選択	講義	演習	実習
共通	研 究 方 法 特 論	1	前	2		2		
専門科目	栄 養 学 特 論	1	後	2		2		
研究指導 科目	栄 養 管 理 学 特 別 研 究 I	1	前後	3				3
	栄 養 管 理 学 特 別 研 究 II	2	前後	3				3
	栄 養 管 理 学 特 別 研 究 III	3	前後	3				3
合 計				13	0	4	0	9

修了に必要な単位数：13単位以上

区 分				授 業 科 目	共通 科目	配当 年次	学期	修論コース		高度実践 看護師コース		C N S 対象 科目	保健師コース		授業区分		
								単位数		単位数			単位数				
								必修	選択	必修	選択		必修	選択	必修	選択	講義
看護学・栄養管理学両専攻共通科目	倫理学特論	☆	1	後	1		1		○	1		1					
	人間関係論特論	☆	1	後		1		1			1	1					
	研究方法論特論	☆	1	前	2		2		○	2		2					
	統計学特論	☆	1	前		1		1		1			1				
	疫学	☆	1	前		1		1		1		1					
	地域ケアシステム論	☆	1	後		1		1		1		1					
	健康行動科学特論	☆	1	前		1		1		1		1					
	医療情報・医療経済	☆	1	後		1		1			1	1					
	国際保健学特論	☆	2	前		1		1			1	1					
	国際保健学特論演習	☆	2	前		1		1			1		1				
看護学専攻共通基礎科目	看護理論特論		1	前	2		2		○	2		2					
	看護倫理特論		1	後	1		1		○		1	1					
	看護研究法Ⅰ（量的研究）		1	後		1		1			1		1				
	看護研究法Ⅱ（質的研究）		1	後		1		1			1		1				
	看護教育学特論Ⅰ		1	前		2	2		○		2	2					
	看護教育学特論Ⅱ		1	後		1		1			1		1				
	看護管理学特論		1	後		2		2	○		2	2					
	家族関係論特論		1	前		1		1		1		1					
	コンサルテーション論		1	後		1		1	○		1	1					
専門基礎科目	フィジカルアセスメント		1	後			2		○			2					
	病態生理学		1	前		2	2		○			2					
	臨床薬理学		1	前		2	2		○			2					
	保健医療福祉政策論		1～2	後		1		1	○	1		1					
	保健医療福祉行政論		1	前		3				3		3					
	疫学・保健統計特論		1	前		2				2		2					
	ヘルスカウンセリング論	★	1	前		1		1		1			1				
	代謝栄養学特論	★	1	後		2		2			2	2					
	環境保健学	★	1	前		1		1			1	1					
	健康社会学	★	2	前		1		1			1	1					
	医療人類学特論	★	2	前		1		1			1	1					
専門分野専門科目	修士論文コース	基礎看護学領域	基礎看護学特論Ⅰ		1	前	2						2				
			基礎看護学特論Ⅱ		1	前	2						2				
			基礎看護学演習Ⅰ		1	前	2							2			
			基礎看護学演習Ⅱ		1～2	後前	2							2			
		成人看護学領域	成人看護学特論Ⅰ		1	前	2						2				
			成人看護学特論Ⅱ		1	前	2						2				
			成人看護学演習Ⅰ		1	前	2							2			
			成人看護学演習Ⅱ		1～2	後前	2							2			
		老年看護学領域	老年看護学特論Ⅰ		1	前	2						2				
			老年看護学特論Ⅱ		1	前	2						2				
			老年看護学演習Ⅰ		1	前	2							2			
			老年看護学演習Ⅱ		1～2	後前	2							2			
	母性看護学領域	母性看護学特論Ⅰ		1	前	2						2					
		母性看護学特論Ⅱ		1	前	2						2					
		母性看護学演習Ⅰ		1	後	2							2				
		母性看護学演習Ⅱ		1～2	後前	2							2				

区 分			授 業 科 目	共通 科目	配当 年次	学期	修論コース		高度実践 看護師コース		C N S 対象 科目	保健師コース		授業区分		
							単位数		単位数			単位数				
							必修	選択	必修	選択		必修	選択	講義	演習	実習
専門分野専門科目	修士論文コース	小児看護学領域	小児看護学特論Ⅰ		1	前	2							2		
			小児看護学特論Ⅱ		1	前	2						2			
			小児看護学演習Ⅰ		1	前	2							2		
			小児看護学演習Ⅱ		1～2	後前	2							2		
		精神看護学領域	精神看護学特論Ⅰ		1	前	2							2		
			精神看護学特論Ⅱ		1	前	2							2		
			精神看護学演習Ⅰ		1	後	2								2	
			精神看護学演習Ⅱ		1～2	後前	2								2	
		公衆衛生看護学領域	公衆衛生看護学特論Ⅰ		1	前	2					2		2		
			公衆衛生看護学特論Ⅱ		1	前	2							2		
			公衆衛生看護学演習Ⅰ		1	前	2								2	
			公衆衛生看護学演習Ⅱ		1～2	後前	2								2	
	高度実践看護師コース	ホスピス緩和ケア看護学領域	ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅰ		1	前			2		○			2		
			ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅱ		1	後			2		○			2		
			ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅲ		1～2	後前			2		○				2	
			ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅳ		1	後			2		○			2		
ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅴ				1	前			2		○			2			
ホスピス緩和ケア看護学演習Ⅰ				1	前後			2		○			1	1		
ホスピス緩和ケア看護学演習Ⅱ				1	後			1		○				1		
ホスピス緩和ケア看護学演習Ⅲ				2	前			1		○				1		
ホスピス緩和ケア看護学実習Ⅰ				1	後			4		○					4	
ホスピス緩和ケア看護学実習Ⅱ				2	前			4		○					4	
ホスピス緩和ケア看護学実習Ⅲ				2	前			2		○					2	
老年看護CNS領域		老年看護学特論Ⅰ（理論・概念）		1	前			2		○			2			
		老年看護学特論Ⅱ（健康生活評価）		1	前			2		○			2			
		老年看護学特論Ⅲ		1	後			2		○			2			
		老年看護学特論Ⅳ		1	後			2		○			2			
		老年看護学特論Ⅴ		1	後			2		○			2			
		老年看護学展開論Ⅰ		1	後			2		○				2		
		老年看護学展開論Ⅱ		2	前			2		○				2		
		老年看護学実習Ⅰ		1	後			4		○					4	
		老年看護学実習Ⅱ		2	前			6		○					6	
高度実践看護学領域		精神看護学特論Ⅰ		1	前			2		○			2			
		精神看護学特論Ⅱ		1	前			2		○			2			
		精神看護学特論Ⅲ		1	後			2		○			2			
		精神看護学特論Ⅳ		2	前			2		○			2			
	精神看護学演習Ⅰ		1	後			2		○				2			
	精神看護学演習Ⅱ		2	前			2		○				2			
	リエゾン精神看護学特論		2	前			2		○			2				
	高度実践精神看護実習Ⅰ		1	後			1		○					1		
	高度実践精神看護実習Ⅱ		1	後			2		○					2		
	高度実践精神看護実習Ⅲ		2	前			4		○					4		
	高度実践精神看護実習Ⅳ		2	前			2		○					2		
	高度実践精神看護実習Ⅴ		2	後			1		○					1		

区 分			授 業 科 目	共通 科目	配当 年次	学期	修論コース		高度実践 看護師コース		C N S 対象 科目	保健師コース		授業区分		
							単位数		単位数			単位数				
							必修	選択	必修	選択		必修	選択	講義	演習	実習
	護 師 コ ー ス	在 宅 看 護 C N S 領 域	在宅看護学特論Ⅰ		1	前			2		○			2		
			在宅看護学特論Ⅱ		1	前			2		○			2		
			在宅看護学特論Ⅲ		2	前			2		○			2		
			在宅看護学特論Ⅳ		1	後			2		○			2		
			在宅看護学演習Ⅰ		1	後			2		○				2	
			在宅看護学演習Ⅱ		1	前			2		○				2	
			在宅看護学演習Ⅲ		1	後			2		○				2	
			高度実践在宅看護学実習Ⅰ		1	後			2		○					2
			高度実践在宅看護学実習Ⅱ		1	後			2		○					2
			高度実践在宅看護学実習Ⅲ		2	前			2		○					2
			高度実践在宅看護学実習Ⅳ		2	前			2		○					2
			高度実践在宅看護学実習Ⅴ		2	前			2		○					2
			保 健 師 コ ー ス	公衆衛生看護学原論		1	前						2		2	
	公衆衛生看護活動論Ⅰ			1	前						2		2			
	公衆衛生看護活動論Ⅱ			1	後						2		2			
	健康学習支援特論			1	後						2		2			
	家族看護学特論			1	前						2		1	1		
	公衆衛生看護診断			1	後						2		1	1		
	公衆衛生看護管理			1	後						2		2			
	健康危機管理特論			1	後						2		2			
	産業・学校保健活動論			2	前						2		2			
	地域ケアシステム論特論			2	前						2		2			
	公衆衛生看護課題研究演習			1	後						2			2		
	家族看護継続実習			1	後						2				2	
	公衆衛生看護活動実習			1	後						3				3	
	公衆衛生看護管理実習Ⅰ			1	後						2				2	
	公衆衛生看護管理実習Ⅱ		2	前						1				1		
特別看護研究				2	前後	8							8			
ホスピス緩和ケア看護課題研究				2	前後				2				2			
老年看護課題研究				2	前後				2				2			
精神看護課題研究				2	前後				2				2			
在宅看護課題研究				2	前後				2				2			
公衆衛生看護課題研究				2	前後						4		4			
合 計			—	—	—	70	33	110	30	—	53	18	118	77	48	

修了に必要な単位数：30単位以上

注１： 保健師コースにおいて、保健師国家試験受験資格を取得するためには、必須の31単位と大学院修士課程修了に必要な30単位の計61単位を修得すること。

注２： 修士論文コースは、専攻分野ごとに定める専門科目を履修・修得すること。

注３： 高度実践看護師コースにおいて、高度実践看護師資格を取得するためには必修科目38単位を修得すること。

<記号説明>

☆：両専攻共通科目

★：各専攻の専門科目（両専攻で選択可）

7) 【助産基礎分野】

2022年度以降入学生対象

区 分		授 業 科 目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法 及び 修了要件
					必修	選択	講義	演習	実習	
基礎科目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1			修了要件は、選択科目3単位以上を含む1単位以上修得すること。 5 なお、選択科目は、①から④のいずれかの領域の単位を必ず修得し、かつ①、③の領域を選択した場合は、発
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後	1		1			
		助産哲学・倫理Ⅱ	2	後		1	1			
		出産の文化	1	前	1		1			
	専門基礎	女性のフィジカルイグザミネーション	1	前	1			1		
		助産薬理学Ⅰ	1	前	1		1			
		助産薬理学Ⅱ	2	前	1		1			
		妊産褥婦乳幼児の栄養	1	前	1		1			
		助産女性学	1	前	1		1			
		助産カウンセリング	1	後	1			1		
		健康教育論Ⅰ	1	前	1		1			
		健康教育論Ⅱ	2	前	1			1		
		助産研究法	1	後	1			1		
	助産機能	助産管理論Ⅰ	1	後	1		1			
		助産管理論Ⅱ	2	前	1		1			
		助産師教育論	2	前	1		1			
		助産師教育方法論	2	後		1	1			
		母子保健行政・財政論	1	後	1		1			
		母子保健活動論（疫学・統計を含む）	2	前	1		1			
実践専門科目	マタニティサイクル 助産ケア	マタニティサイクル助産ケアⅠ	1	通年	2		1	1		
		マタニティサイクル助産ケアⅡ	1	通年	2		1	1		
		マタニティサイクル助産ケアⅢ	1	通年	2		1	1		
		ハイリスク助産学Ⅰ	1	後	1		1			
		ハイリスク助産学Ⅱ	1	後	1		1			
		ハイリスク助産演習	2	前	1			1		
		独立助産実践概論	2	前	1		1			
		独立助産演習	2	前	1			1		
	マタニティサイクル 助産ケア実践	マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ	1	前	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅱ	1	前	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅲ	1	前	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ	1	後	6				6	
		マタニティサイクル独立助産実習	2	前	6				6	
		マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ	2	後	2				2	
発展・展開科目	発展・展開	子育て支援論Ⅰ	1	後	1		1			
		子育て支援論Ⅱ	2	後	① 1			1		
		子育て支援論演習	2	後	① 1			1		
		性教育Ⅰ	2	前	1		1			
		性教育Ⅱ	2	後	② 1			1		
		性教育実習	2	後	② 2				2	
		ウィメンズヘルスⅠ	1	後	1		1			
		ウィメンズヘルスⅡ	2	後	③ 1			1		
		ウィメンズヘルス演習	2	後	③ 1			1		
		国際助産学Ⅰ	2	前	1		1			
		国際助産学Ⅱ	2	前	④ 1			1		
		国際助産学実習	2	後	④ 2				2	
特別統合研究科目		特別統合課題研究	2	通年	2			2		
合 計					54	12	25	17	24	

8) 【助産教育分野】

2015年度以降入学生対象

区 分		授 業 科 目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法 及び 修了要件
					必修	選択	講義	演習	実習	
助産専門科目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1			修了要件は選択科目8単位以上を含む 45単位以上を修得すること。
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後	1		1			
		助産哲学・倫理Ⅱ	1	後	1		1			
		出産の文化	1	前		1	1			
		助産女性学	1	前		1	1			
	助産教育技術	助産カウンセリング	1	後	1			1		
		健康教育論Ⅰ	1	前	1		1			
		健康教育論Ⅱ	2	前	1			1		
		女性のフィジカルイグザミネーション	1	前		1		1		
	助産ケア 特論・実践	独立助産実践特論	1	前	1		1			
		独立助産演習	1	前	1			1		
		独立助産実習	1	後	6				6	
		助産薬理学	2	前		1	1			
		ハイリスク助産学Ⅰ	1	後		1	1			
		ハイリスク助産学Ⅱ	1	後		1	1			
	助産機能	助産管理論Ⅰ	1	後		1	1			
		助産管理論Ⅱ	1	前	1		1			
		母子保健行政・財政論	1	後		1	1			
		母子保健活動論（疫学・統計を含む）	2	前		1	1			
	発展・展開	子育て支援論	1	後		1	1			
		性教育	1	前		1	1			
		ウィメンズヘルス	1	後		1	1			
		国際助産学	1	前		1	1			
教育科目	助産・ 看護教育	教育概論	1	前	2		2			
		教育計画(カリキュラム)の原理と展開	1	通年	2		2			
		教育計画(カリキュラム)の原理と展開演習	1	後	1			1		
		教授学習法の理論と展開	1	通年	2		2			
		教授学習法の理論と展開演習	1	後	1			1		
		教育評価	1	後	2		2			
		教育評価演習	1	後	1			1		
		教育機関の運営と評価	1	後	2		2			
		助産教育(Classroom Teaching)演習	2	前	1			1		
		助産教育(Classroom Teaching)実習	2	前	1				1	
		臨床助産教育(Clinical Teaching)演習	2	前	1			1		
		臨床助産教育(Clinical Teaching)実習	2	前	2				2	
	特別統合研究	助産研究法Ⅰ	1	前	1		1			
		助産研究法Ⅱ	1	後	1			1		
		助産教育課題研究	2	前	2			2		
合 計					37	13	29	12	9	

3. 学生数・奨学金の採用状況

在籍者数

(2024年5月1日現在)

所属	学科・専攻	コース名等	収容定員	1年	2年	3年	4年	計	収容定員充足率	
看護学部 栄養養	看護学科		400	104 (2)	106 (1)	101 (4)	100 (4)	411 (11)	102.8%	
	栄養学科		360	66 (1)	95 (1)	92 (3)	93 (2)	346 (7)	96.1%	
	小 計		760	170 (3)	201 (2)	193 (7)	193 (6)	757 (18)	99.6%	
助産大学院 研究科	助産専攻	助産基礎分野	60	19 —	20 —	— —	— —	39 —	65.0%	
		助産教育分野	20	0 —	0 —	— —	— —	0 —	0.0%	
	小 計		80	19 —	20 —	— —	— —	39 —	48.8%	
看護栄養学 大学院 研究科		基礎看護学コース	28	0	0	— —	— —	0	82.1%	
		成人看護学コース		0	0	— —	— —	0		
		老年看護学コース		0	0	— —	— —	0		
		母性看護学コース		0	0	— —	— —	0		
		小児看護学コース		3	0	— —	— —	3		
		精神看護学コース		0	0	— —	— —	0		
		公衆衛生看護学コース		0	0	— —	— —	0		
		ホスピス緩和ケア看護学コース		1	1	— —	— —	2		
		老年看護CNSコース		0	1	— —	— —	1		
		精神看護CNSコース		0	1 (1)	— —	— —	1 (1)		
		在宅看護CNSコース		1	0	— —	— —	1		
		保健師コース		7	8 (1)	— —	— —	15 (1)		
	小計		28	12	11 (2)	— —	— —	23 (2)	300.0%	
	看護学専攻博士後期課程		2	6 (1)	— —	— —	— —	6 (1)		
	計		30	18 (1)	11 (2)	— —	— —	29 (3)		
	栄養管理学専攻	博士前期課程	6	4 (1)	1	— —	— —	5 (1)		83.3%
		博士後期課程	6	2	1	5	— —	8		133.3%
計		12	6 (1)	2	5	— —	13 (1)	108.3%		
小 計		42	24 (2)	13 (2)	5	— —	42 (4)	100.0%		
合 計			882	213 (5)	234 (4)	198 (7)	193 (6)	838 (22)	95.0%	

奨学金の種類と採用数（学部生） 2025年3月現在

	奨学金の種類			奨学金の金額		貸与・給付の別	採用数	
全学生	天使大学貸与奨学金			月 額	30,000円	無利子貸与	25人	
	日本学生支援機構奨学金	貸与	第一種	月 額	自 宅 54,000円 自宅外 64,000円 上記以外に月額20,000円～50,000円まで、1万円単位で選択することができます（自宅通学の方は50,000円選択不可）。	無利子貸与	169人	
			第二種	月 額	月額20,000円～120,000円まで、1万円単位で選択することができます。	有利子貸与 利率3%以内	182人	
		給付	第Ⅰ区分	月 額	自 宅 38,300円 自宅外 75,800円	住民税非課税世帯（年収300万円未満の世帯）、それに準ずる世帯で、一定の学力・資質要件を満たす学生等が対象	56人	
			第Ⅱ区分		自 宅 25,600円 自宅外 50,600円		23人	
			第Ⅲ区分		自 宅 12,800円 自宅外 25,300円		17人	
			第Ⅳ区分		自 宅 9,600円 自宅外 19,000円	7人		
			区分外			12人		
		2 年 次 生 以 上	天使大学シスター川原ユキエ記念奨学金			年 額	300,000円	給付、返還不要
	天使大学給付奨学金			年 額	200,000円	給付、返還不要	10人	
全学生	天使大学同窓会給付奨学金			年 額	100,000円	給付、返還不要	3人	
2～4年次生	学業成績優秀者奨励金			年 額	50,000円（同率25,000円）	給付	7人	
看学生	北海道看護職員養成修学資金			月 額	36,000円	道内特定施設に一定期間勤務の場合返還免除	7人	
全学生	その他の奨学金			札幌市奨学金(14)、北海道信用金庫奨学金（7）、森記念奨学金（3）、あしなが育英会奨学金（3）			20人	
合 計							541人	

奨学金の種類と採用数（看護栄養学研究科） 2025年3月現在

奨学金の種類		奨学金の金額		貸与・給付の別	採用数
天使大学貸与奨学金		月 額	30,000円または50,000円	無利子貸与	1人
日本学生支援機構奨学金	第一種	月 額	修士課程 50,000円または88,000円 博士課程 80,000円または122,000円	無利子貸与	2人
	第二種	月 額	50,000円、80,000円 100,000円、130,000円 150,000円から選択	有利子貸与 利率3%以内	0人
天使大学同窓会給付奨学金		年 額	100,000円	給付、返還不要	0人
北海道看護職員養成修学資金		月 額	36,000円	道内特定施設に一定期間勤務の場合返還免除	0人
その他の奨学金					0人
					3人

奨学金の種類と採用数（助産研究科） 2025年3月現在

奨学金の種類		奨学金の金額		貸与・給付の別	採用数
天使大学貸与奨学金		月 額	30,000円または50,000円	無利子貸与	1人
日本学生支援機構奨学金	第一種	月 額	50,000円または88,000円	無利子貸与	17人
	第二種	月 額	50,000円、80,000円 100,000円、130,000円 150,000円から選択	有利子貸与 利率3%以内	5人
天使大学同窓会奨学金		年 額	100,000円	給付、返還不要	2人
日本助産師会奨学金		月 額	50,000円	無利子貸与	0人
北海道看護職員養成修学資金		月 額	36,000円	無利子貸与。道内施設に一定 期間勤務の場合返還免除	14人
その他の奨学金					0人
合 計					39人

4. 国家試験合格率

国家試験合格率（2024年度）

学 部・学 科	国家試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B)	合格率 (%) B/A*100	全国合格率 (新卒) (%)
看護栄養学部看護学科	看護師国家試験	96 人	94 人	97.9%	95.9%
看護栄養学研究科看護専攻	保健師国家試験	8 人	8 人	100.0%	96.4%
助産研究科助産専攻	助産師国家試験	20 人	19 人	95.0%	99.3%
看護栄養学部栄養学科	管理栄養士国家試験	91 人	73 人	80.2%	80.1%

5. 就職・進学状況

看護栄養学部就職状況（2025年5月1日現在）

〔学科別就職希望者〕

学科		看護学科						栄養学科					
性別		女子		男子		計		女子		男子		計	
項目		数	割合	数	割合	数	卒業生に対する割合	数	割合	数	割合	数	卒業生に対する割合
就職希望の有無	希望有りの者	65	94.2%	4	5.8%	69	72.6%	87	98.9%	1	1.1%	88	95.7%
	希望無しの者	26	100.0%	0	0.0%	26	27.4%	3	75.0%	1	25.0%	4	4.3%
計(卒業生数)		91	95.8%	4	4.2%	95	100.0%	90	97.8%	2	2.2%	92	100.0%

〔学科別就職決定者〕

学科		看護学科						栄養学科					
性別		女子		男子		計		女子		男子		計	
項目		数	割合	数	割合	数	就職希望者に対する割合	数	割合	数	割合	数	就職希望者に対する割合
決定数／決定率		65	100.0%	4	100.0%	69	100.0%	87	100.0%	1	100.0%	88	100.0%

〔地域別・就職別決定者〕

学科		看護学科 n=69						栄養学科 n=88					
性別		女子		男子		計		女子		男子		計	
項目		数	割合	数	割合	数	就職者に 対する割合	数	割合	数	割合	数	就職者に 対する割合
地域別	道外	12	18.5%	2	0.0%	14	20.3%	24	27.6%	0	0.0%	24	27.3%
	道内	53	81.5%	2	50.0%	55	79.7%	63	72.4%	1	100.0%	64	72.7%
	市内(再掲)	49	(75.4%)	1	(25.0%)	50	(72.5%)	48	(55.2%)	1	100.0%	49	(55.7%)
職種別	看護師	63	96.9%	4	100.0%	67	97.1%						
	管理栄養士							50	57.5%	1	100.0%	51	58.0%
	栄養士							11	12.6%	0	0.0%	11	12.5%
	栄養教諭							1	1.1%	0	0.0%	1	1.1%
	上記以外	1	1.5%			1	1.4%	25	28.7%	0	0.0%	25	28.4%

※看護学科：上記以外の職種は看護助手

〔進学状況〕

学科		看護学科				栄養学科			
性別		女子		男子		計		女子	
項目		数	割合	数	割合	数	進学希望者に対する割合	数	割合
進学希望者数		23		0		23		0	
進学合格者数		23		0		23	100.0%	0	

看護栄養学研究科就職状況（2025年5月1日現在）

〔就職希望者〕

所属		看護学専攻								栄養管理学専攻						看護栄養学研究科	
専攻		保健師コース		看護学領域		CNS領域		計		博士前期課程		博士後期課程		計		合計	
項目		数	割合	数	割合	数	割合	数	修了者に対する割合	数	割合	数	割合	数	修了者に対する割合	数	修了者に対する割合
就職希望の有無	希望有りの者	8	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	1	50.0%	9	90.0%
	希望無しの方	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.0%	0	0.0%	1	0.0%	1	10.0%
計(修了者数)		8	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%	1	100.0%	1	100.0%	2	50.0%	10	100.0%

〔就職決定者〕

所属		看護学専攻								栄養管理学専攻						看護栄養学研究科	
専攻		保健師コース		看護学領域		CNS領域		計		博士前期課程		博士後期課程		計		合計	
項目		数	割合	数	割合	数	割合	数	就職希望者に対する割合	数	割合	数	割合	数	就職希望者に対する割合	数	就職希望者に対する割合
就職者数/決定率		8	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	1	100.0%	9	100.0%

〔地域別決定者〕

所属		看護学専攻								栄養管理学専攻						看護栄養学研究科	
専攻		保健師コース		看護学領域		CNS領域		計		博士前期課程		博士後期課程		計		合計	
項目		数	割合	数	割合	数	割合	数	就職者に対する割合	数	割合	数	割合	数	就職希望者に対する割合	数	就職者に対する割合
地域別	道外	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	道内	8	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	1	100.0%	9	100.0%
	市内(再掲)	2	(25.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(25.0%)	0	(0.0%)	1	(100.0%)	1	(100.0%)	3	(33.3%)

助産研究科就職状況（2025年5月1日現在）

〔就職希望者〕

分野		助産基礎分野	助産教育分野	計	卒業者に 対する割合
就職希望 の有無	希望有りの者	20	－	20	100.0%
	希望無しの者	0	－	0	0.0%
計(修了者数)		20	－	20	100.0%

〔就職決定者〕

分野		助産基礎分野	助産教育分野	計	就職者に 対する割合
決定数／決定率		20	－	20	100.0%

〔地域別・就職別決定者〕

分野		助産基礎分野	助産教育分野	計	就職者に 対する割合
地域別	道外	8	－	8	40.0%
	道内	12	－	12	60.0%
	市内(再掲)	7	－	7	(35.0%)
職種別	助産師	19	－	19	95.0%
	教員	0	－	0	0.0%
	上記以外： 看護師	1	－	1	5.0%

2024年度求人件数・人数（2025年3月31日現在）

〔看護職〕

職 種	件 数				人 数			
	(市内)	道内	道外	件数合計	(市内)	道内	道外	人数合計
看護師	28	52	288	368	570	847	9,086	10,503
保健師	1	61	55	117	3	131	175	309
助産師	4	20	89	113	9	57	208	274
計	33	133	432	598	582	1,035	9,469	11,086

〔栄養士職〕

職 種	件 数				人 数			
	(市内)	道内	道外	件数合計	(市内)	道内	道外	人数合計
栄養士	9	59	143	211	19	185	670	874
管理栄養士	23	70	73	166	36	116	341	493
栄養教諭	0	0	0	0	0	0	0	0
食品衛生監視員	0	0	0	0	0	0	0	0
その他 保健医療従事者	0	0	0	0	0	0	0	0
計	32	129	216	377	55	301	1,011	1,367

〔一般職・その他〕

職 種	件 数				人 数			
	(市内)	道内	道外	件数合計	(市内)	道内	道外	人数合計
一般	9	47	52	108	22	507	1,777	2,306

合計	74	309	700	1,083	659	1,843	12,257	14,759
----	----	-----	-----	-------	-----	-------	--------	--------

注1 (市内)は道内の内数

注2 若干名は3とカウントする

注3 保健師・助産師求人数は人数を明記してある場合以外は3とカウントする

6. 2025年度入試結果

看護栄養学部

◆看護学科

種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
指定校推薦	40	7	(6)	7	(6)	7	(6)	7	(6)	1.0
公募制推薦		58	(38)	58	(38)	43	(37)	43	(37)	1.3
社会人	40	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	—
一般		267	(180)	263	(177)	83	(88)	37	(46)	3.2
共通テスト利用	20	179	(120)	179	(120)	75	(62)	16	(14)	2.4
総計	100	511	(344)	507	(341)	208	(193)	103	(103)	2.4

◆栄養学科

種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
天使みらい	10	50	—	50	—	50	—	50	—	1.0
指定校推薦	44	1	(2)	1	(2)	1	(2)	1	(2)	1.0
公募制推薦		18	(34)	18	(34)	18	(34)	18	(34)	1.0
社会人	31	0	(2)	0	(2)	0	(1)	0	(1)	—
一般		31	(39)	31	(39)	30	(39)	19	(29)	1.0
共通テスト利用	5	34	(34)	34	(34)	22	(27)	0	(0)	1.5
総計	90	134	(111)	134	(111)	121	(103)	88	(66)	1.1

※天使みらい入試: エントリー数52名、許可者52名。

大学院 看護栄養学研究科

◆看護学専攻 博士前期課程

種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
推薦	14	2	[2] (4)	2	[2] (4)	2	[2] (3)	2	[2] (3)	1.0
一般Ⅰ期		14	[8] (9)	14	[8] (9)	7	[5] (7)	7	[2] (7)	2.0
一般Ⅱ期		6	[3] (2)	6	[3] (2)	1	[0] (2)	1	[0] (2)	6.0
総計	14	22	[13] (15)	22	[13] (15)	10	[7] (12)	10	[4] (12)	2.2

一般Ⅰ期志願: 小児1人(天使卒1名)、在宅CNS 2人、保健師11人(天使大学7名)

一般Ⅰ期合格: 小児1人(天使卒1名)、在宅CNS 2人、保健師4人(天使大学4名)

一般Ⅱ期志願: 小児2人(天使卒1名)、成人1人、保健師3人(天使大学2名)

一般Ⅱ期合格: 成人1人

◆看護学専攻 博士後期課程

種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
一般Ⅰ期	2	0	[0] (0)	0	[0] (0)	0	[0] (0)	0	[0] (0)	—
一般Ⅱ期		2	[0] (8)	2	[0] (8)	2	[0] (6)	2	[0] (6)	1.0
総計	2	2	[0] (8)	2	[0] (8)	2	[0] (6)	2	[0] (6)	1.0

◆栄養管理学専攻 博士前期課程

種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
一般Ⅰ期	3	0	[0] (3)	0	[0] (3)	0	[0] (3)	0	[0] (3)	—
一般Ⅱ期		0	[0] (2)	0	[0] (2)	0	[0] (2)	0	[0] (1)	—
総計	3	0	[0] (5)	0	[0] (5)	0	[0] (5)	0	[0] (4)	—

◆栄養管理学専攻 博士後期課程

種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
一般Ⅰ期	2	0	[0] (0)	0	[0] (0)	0	[0] (0)	0	[0] (0)	—
一般Ⅱ期		0	[0] (2)	0	[0] (2)	0	[0] (2)	0	[0] (2)	—
総計	2	0	[0] (2)	0	[0] (2)	0	[0] (2)	0	[0] (2)	—

大学院 助産研究科

種別		定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
基礎分野	推 薦	10	19	【11】(12)	18	【11】(12)	13	【8】(11)	13	【8】(11)	1.4
	一般Ⅰ期	15	13	【6】(11)	11	【5】(11)	8	【5】(8)	8	【5】(6)	1.4
	社会人Ⅰ期		3	【0】(0)	3	【0】(0)	3	【0】(0)	3	【0】(0)	1.0
	一般Ⅱ期	5	1	【0】(8)	1	【0】(8)	1	【0】(2)	1	【0】(2)	1.0
	社会人Ⅱ期		0	【0】(0)	0	【0】(0)	0	【0】(0)	0	【0】(0)	－
総 計		40	36	【17】(31)	33	【16】(31)	25	【13】(21)	25	【13】(19)	1.3

※教育分野: 2025年度は一時募集停止。

7. 教員組織

教員組織一覽

(2024年5月1日現在)

所 属		教授	准教授	講師	助教	助手	計
大学 院	助産研究科	6人	2人	2人	1人	0人	11人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	
看護栄養学 部	看護学科	8人	8人	7人	9人	0人	32人
	栄養学科	6人	8人	3人	1人	5人	23人
	教養教育科	3人	2人	0人	0人	0人	5人
	計	17人	18人	10人	10人	5人	60人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	
合計		23人	20人	12人	11人	5人	71人

専任教員年齢構成

(2024年5月1日現在)

所属	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	25歳 以下	計
助産研究科	教 授	1	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	6
		16.7%	50.0%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
		0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	講師	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
		0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	計	1	3	2	3	1	0	1	0	0	0	0	11
		9.1%	27.3%	18.2%	27.3%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
小計		1	3	2	3	1	0	1	0	0	0	0	11
		9.1%	27.3%	18.2%	27.3%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
看護栄養学部・看護栄養学研究科	教 授	2	7	3	6	2	2	0	0	0	0	0	22
		9.1%	31.8%	13.6%	27.3%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	2	8	4	4	0	0	0	0	0	18
		0.0%	0.0%	11.1%	44.4%	22.2%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	講師	0	0	0	1	3	2	4	0	0	0	0	10
		0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	30.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	2	0	2	2	2	2	0	0	10
		0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100%
	計	2	7	5	17	9	10	6	2	2	0	0	60
		3.3%	11.7%	8.3%	28.3%	15.0%	16.7%	10.0%	3.3%	3.3%	0.0%	0.0%	100%
助手	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	5
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	80.0%	0.0%	100%
小計		2	7	5	17	9	10	6	3	2	4	0	65
		3.1%	10.8%	7.7%	26.2%	13.8%	15.4%	9.2%	4.6%	3.1%	6.2%	0.0%	100%
合計		3	10	7	20	10	10	7	3	2	4	0	76
		3.9%	13.2%	9.2%	26.3%	13.2%	13.2%	9.2%	3.9%	2.6%	5.3%	0.0%	100%

※定年：65歳

教員の任免・昇任者一覧

(2025年3月31日現在)

学科・科	採用者					昇任者			退職者				
	教授	准教授	講師	助教	助手	准教授から教授	講師から准教授	助教から講師	教授	准教授	講師	助教	助手
助産研究科	1人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人
看護学科	1人	0人	0人	3人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	0人	1人	0人
栄養学科	0人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	1人
教養教育科	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
計	3人	0人	1人	3人	1人	1人	1人	0人	2人	2人	0人	2人	1人

8. 事務組織

(2024年5月1日現在)

区分	部門	専任職員		常勤嘱託 職 員	臨時職員	パート職員	派遣職員	計
			うち管理職					
法人業務系	事務局長	0	0	1	0	0	0	1
	参与	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	1	0	0	0	1
大学業務系	総務課	4	1	0	2	0	0	6
	財務課	3	1	2	1	5	0	11
	学務課	7	1	2	3	3	0	15
	入試・広報課	3	1	0	0	0	0	3
	図書情報課	3	1	1	2	0	0	6
	計	20	5	5	8	8	0	41
合 計		20	5	6	8	8	0	42

9. 研究等の活動

独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業（代表者）の採択状況

	区分	種別	研究代表者	研究課題
1	継続	基盤研究(C)	秋山 雅代	熟練看護師の介助シャワー浴技術の思考発話に基づく新しい授業教材の開発
2	継続	基盤研究(C)	伊織 光恵	改訂版初経教育プログラムの構築による知的障害のある女子の母親への継続支援
3	継続	基盤研究(C)	伊藤 治幸	酸化ストレスを指標とした生活習慣の状況とヘルスリテラシーの実態と評価
4	継続	基盤研究(C)	横山 聖美	中高年の男性遺族と地域社会がつながる支援モデルの開発
5	継続	基盤研究(C)	高橋 彩華	農漁村地域の環境が保護者の価値観に与える影響と子どもの生活習慣および肥満との関連
6	継続	基盤研究(C)	榊 建二郎	NMDを介した小胞体ホメオスタシス制御因子の細胞内局在メカニズムの解明
7	継続	基盤研究(C)	小野澤 かおり	妊婦を対象とした出生前検査に関する包括的な相談支援要件の明確化
8	継続	基盤研究(C)	松下 真美	ヒト褐色脂肪組織の活性に関連する食事・生活習慣因子の解明
9	継続	基盤研究(C)	城丸 瑞恵	乳がん・婦人科がん術後リンパ浮腫治療に用いる弾性着衣装着方法の検証とモデル構築
10	継続	基盤研究(C)	中村 由美子	保育・教育現場におけるe-learningを用いた医療的ケア教育プログラムの開発
11	継続	基盤研究(C)	田中 さおり	成長ホルモン治療中の子どもと家族の治療継続を支えるピア・サポートプログラムの開発
12	継続	若手研究	小島 有沙	介護老人保健施設におけるスキン-ケア予防策の構築—援助者の認識する発生状況から—
13	継続	若手研究	船木 沙織	占領終焉前後におけるABCC医療職の活動および協働体制の変容
14	新規	基盤研究(C)	小澤 涼子	女性農業者の健康とワークライフバランスを一体的に推進する包括的支援モデルの構築
15	新規	基盤研究(C)	新関 幸子	静脈血採血時の効果的なマッサージの実施に向けた看護ケアのプロトコル開発
16	新規	若手研究	草野 知美	自閉スペクトラム症のある子どもへ特性を伝える母親を支援する看護実践ガイドの作成

特別研究費の助成状況

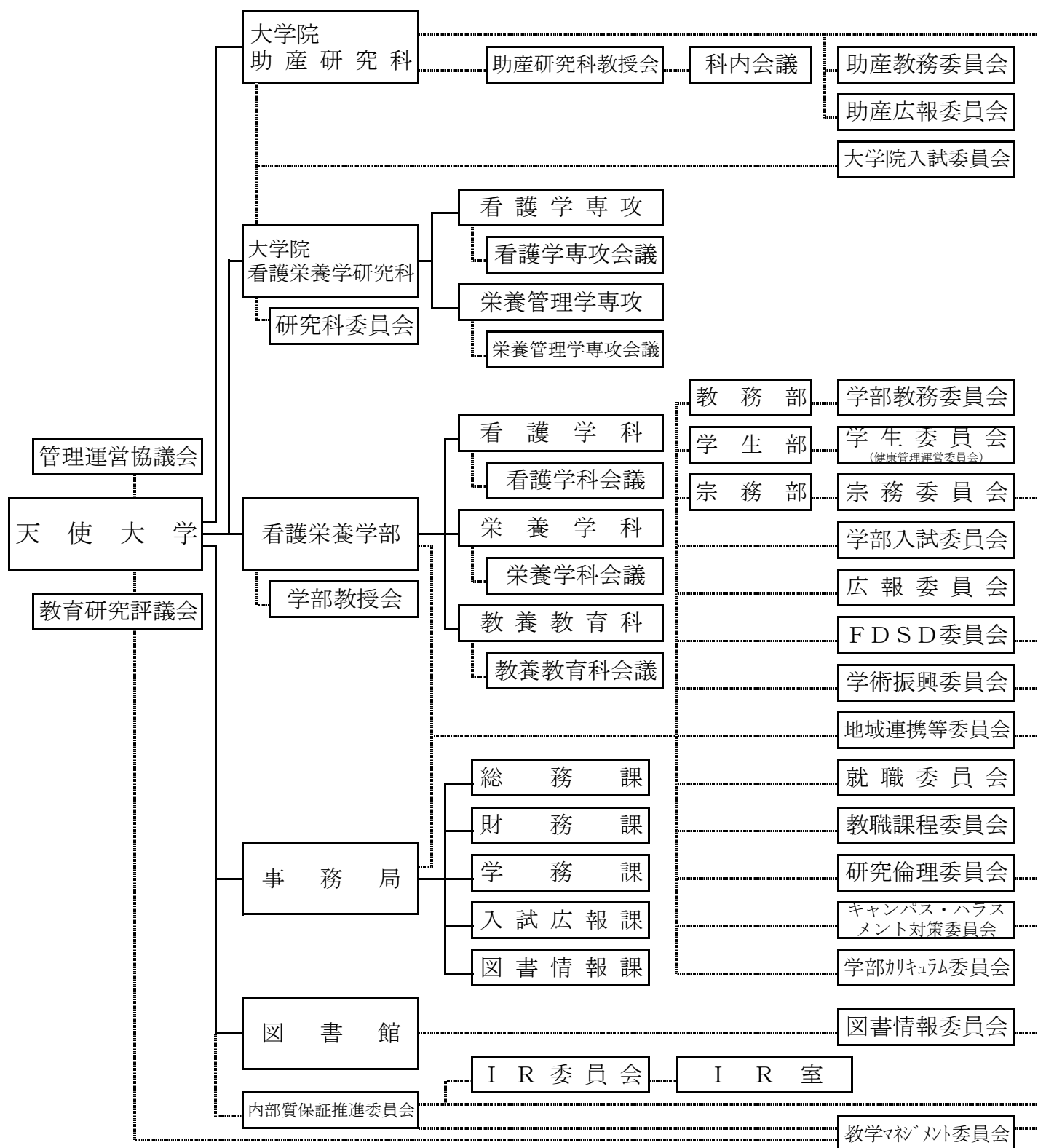
	区分	種別	研究代表者	研究課題
1	新規	特別研究費	神島 滋子	初発脳卒中患者の在宅療養を支える外来での看護支援ニーズ
2	新規	特別研究費	長内 さゆり	地域包括ケアシステムにおける終末期ケアに必要な介護職のコンピテンシー
3	新規	特別研究費	鈴木 純子	若年肥満における時間制限食が体格と代謝に与える影響—社会実装をふまえた時間制限食の効果検証—
4	新規	特別研究費	川口 雄一	記号論理における表現と計算の線形代数的グラフ理論に基づく定式化

受託研究等
該当なし

F D ・ S D の実施状況

分類	日時	参加人数	テーマ・内容
F D	随時	31	授業参観 動画視聴による参観：Google Classroomに掲載された動画を視聴して参観する。 対面授業の参観：参観可能な授業の情報はGoogle Classroom掲載される。 また、科目担当者への自主的な交渉による参観も認める。
F D	2024年7月15日+ オンライン開催	72	研究倫理研修会 内容：①臨床研究における不適正事案とその対策について ②学生を研究対象とした研究について
F D	2024年8月23日	51	F D S D委員会主催F D研修会 内容：授業評価アンケートの見直し～より実効性のあるアンケートの実施を目指して～
F D S D	2024年10月23日 +オンライン開催	30	助産研究科F D研修会 テーマ：大きく変化する世界の大学 -入学から大学運営まで-
F D	2025年1月21日+ オンライン開催	40	教職課程F D研修会 テーマ：観点別評価について ～大学における観点別評価の導入とルーブリックの作成について～
F D	2025年2月18日+ オンライン開催	50	看護栄養学研究科F D テーマ：時間生物学と時間栄養学の最新トピックス ～運動、食事、睡眠のタイミングの最適化～
F D	2025年2月28日+ オンライン開催	70	I R委員会F D研修会 テーマ：中退予測を基礎にしたアーリーアラートシステムの設計
F D	2025年3月6日+ オンライン開催	43	看護栄養学研究科F D テーマ：科研費審査システムの改革と看護研究
F D	2025年3月17日+ オンライン開催	46	学術振興委員会FD研修会 テーマ：研究を推進する2つの力 -組織と個人-
S D	2024年6月1日	67	藤天使学園発足記念式典及び記念講演会 内容：学園運営の生命線としての建学の精神
S D	2024年8月1日+ オンライン開催	90	教職員説明会 内容：①2023年度学校法人天使学園決算報告について ②藤天使学園について
S D	2024年8月7日+ オンライン開催	88	F D S D委員会主催S D研修会 テーマ：昨今の入試動向に基づいた継続的な学生募集の成功に向けて ～全学的な危機意識を共有し、今必要な方策を検討する～
S D	2024年8月20日+ オンライン開催	48	ハラスメント相談員研修会 テーマ：相談員の対応方法、事例に基づく対応方法など
S D	2024年12月23日 + オンライン開催	80	教職員修養会

10. 組織図 天使大学 管理運営組織図



11. 会議の開催状況

看護栄養学部教授会

開催日時	出席人数	議 案 名
第1回 4月22日(月)	17名	審議事項 1 2024年度非常勤講師の委嘱取消について 報告事項 1 休学・復学・退学の許可について 2 2024年度看護栄養学部専任教員の新規授業科目担当について 3 入学生アンケート結果について 4 2024年度看護栄養学部入学者選抜結果について 意見聴取事項 1 学生の除籍について
第2回 5月20日(月)	16名	審議事項 1 2025年度入学一般選抜及び大学入学共通テスト利用選抜の変更について 2 2025年度入学者選抜日程の変更について 3 2025年度入学学校推薦型(指定校制)選抜指定校枠について 4 2025年度入学者選抜要項について 5 2024年度非常勤講師の委嘱変更について 報告事項 1 2023年度教員業績評価の評価結果について 2 2024年度化学・生物診断テストの結果について 3 2024年度既修得単位の認定・単位授与について 意見聴取事項 1 教員の採用に係る募集大綱について
第3回 6月17日(月)	17名	報告事項 1 教員の退職について 2 2023年度公的研究費(科研費等)の間接経費の使用について 3 2024年度天使大学海外研修について 4 2024年度FDSD研修会の開催について 5 「数字で見る天使大学」作成プロジェクトについて 意見聴取事項 1 特任教員の採用について 2 教員の採用に係る募集大綱について 3 臨床教授等の称号の付与に関し必要な事項について 4 臨床教授等の選考について
第4回 7月16日(火)	16名	報告事項 1 2024年度FDSD研修会の開催について
第5回 9月17日(火)	16名	審議事項 1 カトリックセンターの廃止に伴う科目区分(キリスト教を基盤とした人間教育科目群)に関わる検討体制の変更について 2 教養教育科非常勤講師の採用要件に関する申し合わせ事項について

		3 2025 年度看護栄養学部学事暦について 報告事項 1 教員の採用等について 2 休学・復学の許可について 3 2024 年度前期卒業証書・学位記授与式の実施要領について 4 2024 年度 Food and Life Step-up Ceremony の実施について 5 2024 年度既修得単位の認定・単位授与について 6 天使みらい入試(総合型選抜)事前エントリー審査について 意見聴取事項 1 2024 年度前期卒業判定について 2 教員の採用及び昇任に係る教員選考審査委員会の審査結果について
第 6 回 10月15日(火)	17 名	報告事項 1 教員の昇任について 2 休学の許可について 3 2024 年度戴帽式の実施について 4 教養教育科非常勤講師の採用要件に関する申し合わせ事項の決定について
臨時 10 月 24 日(木)	16 名	審議事項 1 2025 年度栄養学科天使みらい入試(総合型選抜)の合否判定について
第 7 回 11 月 18 日(月)	17 名	審議事項 1 2025 年度以降の授業科目の開講学期変更について 2 2025 年度非常勤講師の委嘱について 3 2026 年度看護栄養学部入学者選抜日程(案)について 報告事項 1 教員の採用等について 2 教員の退職について 3 休学の許可について 4 2024 年度 FD 研修会(IR 委員会主催)の開催について 5 授業目的公衆送信補償金制度に係る利用報告について 意見聴取事項 1 教員の採用に係る教員選考審査委員会の審査結果について 2 天使大学看護栄養学部主要授業科目の制定について
臨時 11 月 28 日(木)	16 名	審議事項 1 2025 年度看護栄養学部学校推薦型選抜の合否判定について
第 8 回 12 月 16 日(月)	17 名	審議事項 1 2025 年度以降の授業科目の開講学期変更について 2 2025 年度非常勤講師の委嘱・取消について 3 一般選抜試験における解答用紙及び採点業務の変更について 報告事項 1 教員の採用について 2 天使大学看護栄養学部主要授業科目の制定について 3 看護学科総合型選抜導入の検討依頼について 4 2024 年度アセスメント・ポリシーに係る調査等の実施について

		5 2024 年度教職課程 FD 研修会の開催について 意見聴取事項 1 学生の除籍について
臨時 12 月 23 日(月)	15 名	報告事項 1 学長の辞任に伴う新学長候補者の決定について 2 教員の退職について 意見聴取事項 1 教員の採用に係る募集大綱について
第 9 回 1 月 20 日(月)	17 名	審議事項 1 2025 年度非常勤講師の委嘱・取消について 報告事項 1 学生の除籍について 2 2025 年度看護栄養学部学事暦について 3 2024 年度学術振興委員会主催 FD 研修会の開催について 4 事務局に対する要望について
臨時 2 月 14 日(金)	16 名	審議事項 1 2025 年度入学者選抜の合否判定について
第 10 回 2 月 17 日(月)	17 名	審議事項 1 2025 年度非常勤講師の委嘱・取消について 2 2026 年度入学者選抜募集定員について 3 2026 年度入学生学校推薦型（指定校制）選抜の指定校枠について 報告事項 1 2024 年度卒業証書・学位記授与式の実施要領について 2 2025 年度の研究室の配置について 3 2024 年度教員による科目評価の対応について 4 2026 年度の教務システム入れ替えについて 意見聴取事項 1 教員の採用に係る募集大綱について
臨時 2 月 21 日(金)	17 名	報告事項 1 教員の採用について 2 データから見てくる天使大学の完成および公開について 3 勤怠管理システムの導入について 意見聴取事項 1 2024 年度卒業判定について 2 2024 年度教職課程修了判定について 3 2025 年度科目履修生の受け入れについて 4 教員の採用に係る教員採用審査委員会の審査結果について
臨時 3 月 10 日(月)	17 名	審議事項 1 2024 年度進級判定について 報告事項 1 2025 年度看護栄養学部専任教員の新規授業科目担当について

第 11 回 3 月 17 日(月)	14 名	報告事項 1 教員の採用について 2 2025 年度天使大学校務分掌について 3 2025 年度入学式の実施要領について 4 2024 年度学生による到達度評価の結果について 5 2025 年度看護栄養学部学事暦の変更について 意見聴取事項 1 客員教授の委嘱について
臨時 3 月 21 日(金)	14 名	審議事項 1 2024 年度進級判定について

大学院看護栄養学研究科委員会

開催日時	出席人数	議 案 名
第 1 回 4月22日(月)	15 名	審議事項 1 2024 年度看護栄養学研究科の活動目標について 2 老年看護 CNS コースにおける 9 月修了について 3 2024 年度大学院非常勤講師の委嘱について 4 栄養管理学専攻ルーブリックについて 報告事項 1 休学・復学の許可について 2 2024 年度看護栄養学研究科開講科目一覧について 3 2024 年度看護学専攻学位論文研究計画書の指導教員について 4 2024 年度看護学専攻新入生の研究指導教員について 5 2024 年度栄養管理学専攻新入生の研究指導教員について 6 2024 年度大学院看護栄養学研究科入学選抜結果について 意見聴取事項 1 2024 年度既修得単位の認定・単位授与について
第 2 回 5月20日(月)	14 名	審議事項 1 2024 年度看護栄養学研究科専任教員の新規担当科目について 2 2024 年度大学院非常勤講師の委嘱について 3 2024 年度看護学専攻学位論文研究計画書の審査について 4 看護学専攻博士後期課程学位論文審査基準について 5 2024 年度看護学専攻博士後期課程早期修了論文審査スケジュールについて 6 2025 年度看護栄養学研究科入学選抜要項について 7 その他 報告事項 1 2024 年度看護学専攻博士後期課程新入生副指導教員について
第 3 回 6月17日(月)	14 名	審議事項 1 2024 年度 9 月修了に係る学位論文関連スケジュールについて 2 2024 年度 9 月修了に係る学位論文提出予定者の主査及び副査について 3 2024 年度特別講師の委嘱・取消について 4 栄養管理学専攻博士後期課程の科目、分類の英語表記について

		意見聴取事項 1 2024 年度科目等履修生の受け入れについて
第 4 回 7月16日(火)	14 名	審議事項 1 2024 年度学位論文関連スケジュール(9 月修了)の一部変更について 2 2024 年度学位論文発表会(9 月修了)の開催について 3 2024 年度実習指導教員の委嘱について 4 栄養管理学専攻博士前期課程科目の英語表記について 報告事項 1 2024 年度看護学専攻学位論文指導教員の変更について 2 2024 年度栄養管理学専攻学位論文研究計画書について 3 2024 年度栄養管理学専攻学位論文中間発表会の開催について
臨時 9月3日(火)	15 名	審議事項 1 2024 年度実習指導教員の委嘱について
第 5 回 9月17日(火)	14 名	審議事項 1 2024 年度非常勤講師の委嘱変更について 2 2024 年度看護栄養学研究科専任教員の新規担当科目について 3 2024 年度特別講師の委嘱・取消について 報告事項 1 休学の許可について
臨時 9月21日(木)	11 名	審議事項 1 2025 年度看護学専攻(保健師コース)推薦型選抜の可否判定について 報告事項 1 2024 年度看護栄養学研究科学位論文審査報告書について 意見聴取事項 1 2024 年度前期修了判定について
第 6 回 10月15日(火)	14 名	審議事項 1 2024 年度大学院非常勤講師の委嘱変更について 報告事項 1 休学の許可について
臨時 10月24日(木)	14 名	審議事項 1 2025 年度看護栄養学研究科 I 期選抜の可否判定について
第 7 回 11 月 18 日(月)	15 名	審議事項 1 2024 年度学位論文関連スケジュールについて 2 2025 年度大学院非常勤講師の委嘱について 3 2024 年度学位論文提出予定者の主査及び副査について 4 2025 年度看護学専攻博士後期課程早期修了論文審査スケジュール(9 月修了)について 報告事項 1 2024 年度大学院 FD 研修会(栄養管理学専攻担当)の開催について
第 8 回 12 月 16 日(月)	15 名	審議事項 1 2025 年度看護栄養学研究科学事暦について 2 2025 年度看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程の早期修了について

		3 2025 年度長期履修学生申請の許可について 4 2024 年度看護栄養学研究科専任教員の新規担当科目について 5 2025 年度看護栄養学研究科専任教員の新規担当科目について 6 2025 年度非常勤講師の委嘱について 7 2025 年度特別講師の委嘱について 8 2025 年度実習指導教員の委嘱について 9 2024 年度学位論文提出予定者の主査及び副査について 10 看護学専攻(保健師コース)推薦型選抜小論文試験時間の変更について 報告事項 1 2024 年度学位論文発表会(保健師コース)の開催について 2 2024 年度大学院 FD 研修会(看護学専攻担当)の開催について 意見聴取事項 1 長期履修学生の履修期間の変更について
第 9 回 1 月 20 日(月)	15 名	審議事項 1 2025 年度看護栄養学研究科専任教員の新規担当科目について 2 2025 年度大学院非常勤講師の委嘱について 3 2025 年度特別講師の委嘱について 4 2024 年度学位論文発表会の開催について 報告事項 1 本学修了生の専門看護師認定審査の合格について
臨時 1 月 29 日(水)	14 名	審議事項 1 2025 年度看護栄養学研究科一般選抜Ⅱ期の可否判定について 2 2026 年度栄養管理学専攻入学選抜制度の変更について 3 2026 年度看護栄養学研究科入学選抜日程について 4 2025 年度学位論文提出予定者(9 月修了)の主査・副査の決定について
第 10 回 2 月 17 日(月)	15 名	審議事項 1 2024 年度看護栄養学研究科自己点検・評価報告書について 2 2025 年度看護栄養学研究科専任教員の新規担当科目について 3 2025 年度大学院非常勤講師の委嘱について 4 2025 年度特別講師の委嘱について
臨時 2 月 21 日(金)	15 名	審議事項 1 2025 年度長期履修学生申請の許可について 2 2025 年度大学院非常勤講師の委嘱について 3 2025 年度授業科目の開講学期の変更について 報告事項 1 2024 年度看護栄養学研究科学位論文審査報告書について 意見聴取事項 1 2024 年度修了判定について
第 11 回 3 月 17 日(月)	12 名	審議事項 1 2025 年度看護栄養学研究科開講科目一覧について 2 2025 年度大学院非常勤講師の委嘱について 3 2026 年度看護学専攻入学選抜制度の変更について

		報告事項 1 2025 年度学事暦の一部変更について 2 2025 年度看護学専攻博士後期課程担当教員の担当科目について 3 院生学習室の静穏な環境保持に関する苦情申し立てと対応について 4 2025 年度看護学専攻学位論文研究計画書の指導教員について 5 2025 年度研究計画発表会の開催について 6 2025 年度看護学専攻博士後期課程早期修了論文審査スケジュール（9 月修了）について 意見聴取事項 1 2025 年度科目等履修生の受け入れについて
--	--	--

大学院助産研究科教授会

開催日時	出席人数	議 案 名
第 1 回 4月17日(水)	10 名	審議事項 1 2024 年度非常勤講師の委嘱について 報告事項 1 2024 年度兼任教員について
第 2 回 5月14日(火)	8 名	審議事項 1 2025 年度入学者選抜要項について 報告事項 1 2023 年度教員業績評価の評価結果について 2 2024 年度授業科目担当者について 意見聴取事項 1 学生の除籍について
第 3 回 6月12日(水)	8 名	報告事項 1 教員の退職について 2 2023 年度公的研究費(科研費等)の間接経費の使用について 3 2024 年度 FDSD 研修会の開催について 意見聴取事項 1 教員の採用に係る募集大綱について
第 4 回 7月10日(水)	10 名	審議事項 1 助産研究科入学者選抜における合否判定基準の変更について 報告事項 1 2024 年度 FDSD 研修会の開催について
第 5 回 9月19日(木)	10 名	審議事項 1 助産評価機構認証評価改善報告書について 2 2025 年度助産研究科推薦型選抜の合否判定について 報告事項 1 教員の採用等について 2 休学の許可について 意見聴取事項 1 客員教授の委嘱について

		2 助産研究科臨床教授等の選考について 3 教員の採用に係る教員選考審査委員会の審査結果について
第6回 10月9日(水)	9名	報告事項 1 教員の昇任について 意見聴取事項 1 客員教授の委嘱について
臨時 10月24日(木)	10名	審議事項 1 2025年度助産研究科Ⅰ期選抜の合否判定について
第7回 11月8日(水)	8名	報告事項 1 教員の採用等について 2 教員の退職について 意見聴取事項 1 教員の採用に係る教員選考審査委員会の審査結果について 2 教員の採用に係る募集大綱について
第8回 12月11日(水)	8名	審議事項 1 助産研究科入学者選抜における合否判定基準の変更について 2 助産研究科社会人選抜小論文試験時間の変更について 報告事項 1 教員の採用について
臨時 1月29日(水)	7名	審議事項 1 2025年度助産研究科一般選抜Ⅱ期の合否判定について 2 2026年度助産研究科入学者選抜日程について 3 2025年度天使大学大学院助産研究科学事暦(案)について 報告事項 1 教員の退職について
第9回 2月12日(水)	8名	報告事項 1 2024年度卒業証書・学位記授与式の実施要領について 2 2024年度学術振興委員会主催FD研修会の開催について
臨時 2月21日(金)	9名	審議事項 1 2025年度非常勤講師の委嘱について 報告事項 1 教員の採用について 2 2025年度の研究室の配置について 3 勤怠管理システムの導入について 意見聴取事項 1 2024年度大学院助産研究科助産専攻助産基礎分野の修了判定について
第10回 3月12日(水)	9名	審議事項 1 2025年度助産研究科専任教員及び兼任教員の新規担当科目について 2 2025年度の授業科目の開講学期変更について 報告事項 1 教員の採用について 2 2025年度天使大学校務分掌について

		3 2025 年度入学式の実施要領について 4 2025 年度兼任教員について 5 2025 年度授業科目担当者について 6 院生学習室の静穏な環境保持に関する苦情申し立てと対応について 7 2025 年度助産研究科ホームカミングデーの開催について 意見聴取事項 1 客員教授の委嘱について
--	--	---

12. 委員会構成一覧

2024年度天使大学校務分掌

【委員任期(2年) : 2024. 4. 1~2026. 3. 31】

2024年10月28日現在

【大学共通】

組織名	構 成 員	担当
管理運営協議会	学長: 田畑邦治、理事兼任教職員: 菅原邦子、中川幸恵、岩間久哉、事務局長: (岩間)、学長指名教職員: 二宮信一	総務
教育研究評議会	学長、看護栄養学研究科長: 日沼千尋、助産研究科長: 島田啓子、看護学科長: 吉田礼維子、栄養学科長: 中川幸恵、教養教育科長: 川口雄一、図書館長: (田畑)、宗務部長: 菅原邦子、教務部長: 二宮信一、学生部長: 清水真理、内部質保証推進委員長: (日沼)、事務局長: 岩間久哉	総務
学長補佐会議	学長、助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、事務局長	総務
教員選考常任委員会	学長、学内理事、看護栄養学研究科長、助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長	総務

区分	委員会名	委員長	委 員	任期	担当
常設	内部質保証推進委員会	日沼	看護: 榊、栄養: 岡部、教養: 川口、院看護: (日沼)、院栄養: 鈴木純、助産: 島田、事務局長: [学外: 三国久美、梅津千恵子]	2年	総務
	教学マネジメント委員会	田畑	学長、教務部長、内部質保証推進委員長、FDSD委員長、IR委員長、看護: 服部、栄養: 清水、教養: 二宮、助産: 三浦、看護研: (日沼)、事務局次長: 鈴木敏、学務課長: (鈴木敏)	2年	学務
	図書情報委員会	田畑	図書館長、看護: 井口、栄養: 松下、教養: 目時、助産: 長田、図書情報課長: 白石	2年	図書情報
	宗務委員会	菅原	学長、宗務部長、看護: 秋山、栄養: 神田、教養: 小原、助産: 杉田、事務: 北、司祭: ケン・スレイマン	2年	学務
	学生委員会 (健康管理運営委員会)	清水	学生部長、看護: 草野、小島、栄養: 柳澤、吉田真、教養: 川口、学務: (一) (健康管理運営委員会構成員: 学生部長+学生委員+保健相談員+助産教務委員長)	2年	学務
	広報委員会	服部	看護: 中洞、栄養: 金澤、教養: 二宮、院看護: 小澤、院栄養: 坂本、入試広報課長: 佐藤誠	2年	入試広報
	FDSD委員会	大野	看護: 船木、栄養: 岡部、教養: 唐川、助産: 三浦、総務: 松田、(学務): 渡邊	2年	総務
	学術振興委員会	神島	看護: 榊、栄養: 西、教養: 小原、助産: 片倉、事務: 渡邊	2年	図書情報
	地域連携委員会	浅井	看護: 若山、伊織、栄養: 志賀、蜂谷、教養: 目時、助産: 杉浦	2年	学務
	就職委員会	鈴木純	看護: 峰岸、田中裕、栄養: 岩淵、神田、学務: 西川	2年	学務
	研究倫理委員会	柳澤	看護栄養学研究科長、助産研究科長、学長指名: 小原、事務: 高山、[学外: 大久保岩男、大山徹]	2年	財務
	キャンパス・ハラスメント対策委員会	唐川	理事: 中川、岩間、学生部長、看護: 草野、栄養: 吉田真、教養: 唐川、助産: 片倉、(事務局長)	2年	総務
	IR委員会	榊	看護: 横山、栄養: 高桑、教養: 唐川、助産: 中田	2年	IR室
	衛生委員会	中田	産業医: 辻崎正幸、衛生管理者: ()、保健相談員: 東野、看護: 新関、栄養: 岩淵、助産: 中田、事務: 豊島	2年	総務
	国際交流委員会		活動休止	—	—

【大学共通】

区分	委員会名	委員長	委 員	任期	担当
特設	懲戒委員会	学長任命	学長任命教職員: 5名	—	総務
	苦情処理委員会	互選	学長任命理事: 3名、教職員: 2名、学外者: 1名	—	総務
	学生個人情報保護委員会	学長任命	助産研究科長、看護栄養学研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、教務部長、事務局長	—	規程19条
	学生懲戒委員会	都度	学生部長、看護・栄養・教養・助産から若干名	—	学務
	動物実験委員会	学長任命	栄養管理学専攻主任、栄養学科長、学長指名実験動物管理者、動物実験関係教員: 若干名、学長が必要と認めた者: 若干名	—	総務
	病原体等安全管理委員会	学長任命	専門の知識を有する教職員: 1名、感染予防専門教職員: 1名、学校医: 1名、衛生委員会委員: 1名、学長が必要と認めた者: 若干名	—	財務
	遺伝子組換え実験委員会	柳澤	専門の知識を有する教職員: 若干名(岩淵)、学長が必要と認めた者: 若干名(高山) 【委員任期: 2024. 10. 28~2026. 3. 31】	—	財務

2024年度天使大学校務分掌

【委員任期(2年) : 2024. 4. 1～2026. 3. 31】

組織名	室長	構 成 員	任期	担当
IR室	榊	事務局:上村、星、萩野	—	—

【看護栄養学部】

組織名	構 成 員	担当
学部教授会	学長、看護学科:吉田礼、浅井、伊藤、大野、神島、榊、服部、日沼 栄養学科:中川、清水、鈴木純、西、柳澤、教養教育科:川口、唐川、二宮	総務

区分	委員会名	委員長	委 員	任期	担当
常設	学部教務委員会	二宮	教務部長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、教職課程委員長、看護:伊藤、田中さ、栄養:峯岸、高桑、教養:日時、学務:長瀬	2年	学務
	学部入試委員会	川口	看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、看護:高橋順、栄養:長谷川、教養:小原、入試広報課長	2年	入試広報
	教職課程委員会	二宮	担当教員:(教養)二宮、唐川、(栄養)長谷川、蜂谷、神田	2年	学務
	学部カリキュラム委員会	伊藤	学長任命:伊藤、看護:吉田礼、栄養:志賀、教養:小原、学務:鈴木敏、入試広報:佐藤誠	2年	学務

組織名	構 成 員	任期	担当
教育講演会ワーキング	看護:長内、重岡、栄養:坂本、蜂谷、教養:川口	—	総務

組織名	リーダー	構 成 員	任期	担当
入学前教育ワーキング	川口	看護:榊、栄養:金澤、教養:唐川	—	学務

組織名	構 成 員
学生支援教員	看1年:○草野、榊、服部、横山、小野澤、木村 (教務)秋山、小島 看2年:○高橋順、伊織、若山、田中裕、吉田奈 (教務)中洞、重岡 看3年:○長内、浅井、大野、船木、吉川、高橋彩 (教務)新関 看4年:○峰岸、神島、田中さ、芦名、井口 (教務)伊藤 栄1年:○吉田真、西、岡部、金澤、佐藤し 栄2年:○蜂谷、柳澤、高桑、松下、坂野 栄3年:○峯岸、鈴木純、岩渕、長谷川、喜田 栄4年:○志賀、清水、坂本、神田、高橋咲 ※○はリーダー

【大学院共通】

区分	委員会名	委員長	委 員	任期	担当
常設	大学院入試委員会	西	助産:島田、杉浦、看護学専攻主任:服部、栄養管理学専攻主任:鈴木純、院看護:大野、院栄養:長谷川、入試広報課長	2年	入試広報

【看護栄養学研究科】

組織名	構 成 員	担当
研究科委員会	研究科長、看護学専攻:服部、浅井、伊藤、大野、神島、榊、菅原、吉田礼 栄養管理学専攻:鈴木純、清水、中川、西、柳澤、川口	総務

【助産研究科】

組織名	構 成 員	担当
助産研究科教授会	研究科長、専任:杉浦、中田、臨床専任:高室、宮下、山本、兼担:田畑、川口、菅原、日沼	総務

区分	委員会名	委員長	委 員	任期	担当
常設	助産研究科教務委員会	島田	助産:杉浦、中田、片倉、三浦、長田、椿、杉田	2年	学務
	助産研究科広報委員会	杉浦	助産:島田、中田、片倉、三浦、入試広報課長	2年	入試広報

組織名	議長	委員(任期:2023. 5. 1～2025. 3. 31)	任期	担当
助産研究科教育課程連携協議会	島田	研究科長、協議会関係者:恵美須文枝、地方公共団体職員:中村由香、本学教職員以外の者:毛利多恵子、本学教職員:田畑邦治	2年	学務

2024 年度 教務委員会活動報告

委員会組織	委員長：二宮信一 委員：吉田礼維子、中川幸恵、川口雄一、伊藤治幸、田中さおり、高桑暁子、 峯岸夕紀子、目時光紀、長瀬慎平
委員会開催数	定例 13 回、臨時 なし
審議・報告事項	
[主な審議事項] 1. 教育課程に関する事項 ・主要授業科目について ・入学前教育について ・開講学期の変更について 2. 定期試験及びその他の試験に関する事項 ・試験・評価日程について ・学内試験制度について 3. 授業計画及び実施、授業担当者に関する事項 ・学事暦について ・アッセンブリー・アワーについて ・専任教員の科目新規担当について ・非常勤講師の委嘱及び雇用契約更新等について ・教養教育科目における非常勤講師の採用要件について ・実習指導教員の委嘱及び雇用契約更新について ・特別講師の委嘱等について ・「倫理に反する行為」の注意喚起について ・公認欠席について ・講義室の使用について ・追実習について ・新入生オリエンテーション、出会いと親睦ゼミ及び在学生ガイダンスについて ・アセスメント・ポリシーに係る調査（「学生による到達度評価」「教員による科目評価」）の見直しについて ・教育の質に係る客観的指標調査について 4. 成績評価、単位認定、進級及び卒業に関する事項 ・履修登録及び成績公開に関する運用の見直しについて ・既修得単位の認定について ・履修の取消について ・卒業判定について ・進級判定について ・教職課程修了判定について 5. 休学、退学、除籍、復学及びその他学籍に関する事項 ・休学、退学、除籍、復学願の手続きに関する申し合わせ	

6. 教育施設及び教材に関する事項

- ・学生の教室利用について

7. 科目等履修生及び外国人留学生等に関する事項

- ・科目等履修生の受入について

8. 履修要項及び授業概要等に関する事項

- ・履修要項の改正について
- ・授業概要について

9. その他、教務に関する事項

- ・中期計画について
- ・委員会活動計画について
- ・委員長代理について

※区分は学部教務委員会規程第2条（審議事項）に基づくもの

2024 年度 入試委員会活動報告

委員会組織	委員長：川口雄一 委員：吉田礼維子、中川幸恵、高橋順子、長谷川めぐみ、小原琢、佐藤誠治
委員会開催数	6 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・ 委員長代理について ・ 2025 年度 学校推薦型選抜（指定校制）について ・ 2025 年度 一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜の面接試験について ・ 多様な入学者選抜の導入について ・ 2025 年度入学 入学者選抜要項について ・ 2025 年度入学 学校推薦型・社会人選抜入試問題出題者について（当日資料配布） ・ 小論文・面接試験評価項目一覧について（当日資料配布） ・ 中期計画について ・ 2025 年度 天使みらい入試（総合型選抜）実施要領等について ・ 一般選抜及び大学入学共通テストにおける調査書の活用方法について ・ 新しい入学者選抜制度の導入について（主に姉妹校選抜） ・ 2025 年度 入学者選抜業務（大学入学共通テストを除く）への人選依頼について ・ 2026 年度 看護栄養学部入学者選抜日程について ・ 2025 年度学校推薦型・社会人選抜小論文試験問題の選定について（当日配布） ・ 2025 年度 一般選抜得点調整について ・ 大学基準協会第 4 期認証評価に係る点検評価報告書等の作成について ・ 補正予算について ・ 2026 年度入試委員会予算作成に向けた意見聴取 ・ 2025 年度学校推薦型・社会人選抜実施要領・監督要領（案）について ・ 学校推薦型・社会人選抜事後アンケートについて ・ 一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜合否判定基準について ・ 一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜全体説明について ・ 2025 年度 活動計画書について ・ 2025 年度 一般選抜実施要領・監督要領（案）について ・ 2026 年度 入学者選抜について ・ 2026 年度 入学者選抜募集定員について ・ 2024 年度 自己点検評価について ・ 2026 年度 学校推薦型選抜（指定校制）について [主な報告事項] ・ 2024 年度入試委員会活動計画	

- ・ 2024 年度入試委員会予算
- ・ 2024 年度入学者選抜入試問題の著作権処理状況
- ・ WEB 出願について
- ・ 2025 年度入学 学校推薦型・社会人選抜入試問題出題者について
- ・ 小論文・面接試験評価項目一覧について
- ・ 2025 年度入試委員会委員会開催月及び内容について
- ・ 大学基準協会第 4 期認証評価に係る点検評価報告書等の作成について
- ・ 2025 年度入学 入学手続要項について
- ・ 天使みらい入試エントリー者数、出願許可数について
- ・ 一般選抜及び大学入学共通テストにおける調査書の活用方法について
- ・ 2026 年度入学者選抜日程について
- ・ 2025 年度学校推薦型選抜・社会人選抜合否判定基準について
- ・ 得点調整について
- ・ 大学入学共通テスト（1 月 18 日・19 日）に向けた準備について
- ・ 大学入学共通テスト担当者配置について
- ・ 学校推薦型選抜事後アンケートについて

2024 年度 教職課程委員会活動報告

委員会組織	委員長：二宮信一 委員：唐川智幸、長谷川めぐみ、蜂谷愛、神田拓登
委員会開催数	8 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・ 公立学校教員採用選考試験の早期化・複数回実施等について ・ 教職課程を履修する学生への面談について ・ 教職課程 FD 研修会について ・ 教職課程行事一覧および担当者について ・ 教員採用候補者選考検査 対策ゼミについて ・ 北大農場の体験学習等について ・ 活動計画および予算について ・ 教職課程の自己点検評価に関するアンケートについて ・ 科目等履修生（教職課程）の受入れについて ・ 非常勤講師および特別講師の委嘱について ・ 教職課程自己点検評価について ・ 教職課程修了判定 ・ 授業科目の担当者について ・ 新入生オリエンテーションについて [主な報告事項] ・ 教職課程履修者数および教職課程履修取消者について ・ 教員採用試験結果について ・ 教員採用選考検査のための対策ゼミの結果報告について ・ 全私教協研究交流集会の参加報告について 【主な確認事項】 ・ 教職課程履修の手引きについて ・ 教職課程自己点検・評価報告書について	

2024 年度 キャンパス・ハラスメント対策委員会活動報告

委員会組織	委員長：唐川智幸 委員：中川幸恵、岩間久哉、清水真理、草野知美、吉田真弓、片倉裕子
委員会開催数	4 回（内紙面審議 1 回）
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・ 2024 年度内部質保証推進委員会活動計画（案） ・ 大学基準協会第 4 期認証評価受審について ・ 看護栄養学研究科、助産研究科のアセスメント・ポリシー策定について ・ 令和 6 年度教育の質に係る客観的指標調査について ・ 天使大学中期計画について ・ 天使大学のアセスメントポリシー（学部）の改訂について ・ 天使大学のアセスメントポリシー（大学院）について ・ 外部評価について ・ 2024 年度自己点検・評価報告書（年報）について ・ 外部評価委員からの意見の検討について ・ 2024 年度自己点検・評価報告書（年報）の書式について ・ 活動報告会について ・ 2025 年度活動計画書案について ・ 2025 年度予算案について ・ 2025 年度外部評価委員について ・ 2024 年度活動報告会について ・ 2024 年度年報（案）について ・ 第 4 期認証評価点検評価報告書（案）について ・ 2025 年度第 4 期認証評価実地調査までの流れについて [主な報告事項] ・ 助産評価機構 専門職大学院認証評価改善報告について ・ 看護学教育分野別評価について ・ 2024 年度予算について ・ 外部評価委員について ・ 教学マネジメント委員会報告 ・ 令和 6 年度教育の質に係る客観的指標調査について ・ 天使大学のアセスメントポリシー（学部）の改訂について ・ 天使大学のアセスメントポリシー（大学院）について ・ 助産認証評価改善状況に関するヒアリングについて ・ 2025 年度受審大学基準協会認証評価進捗状況について	

2024 年度 教学マネジメント委員会活動報告

委員会組織	委員長：田畑邦治 委員：日沼千尋、二宮信一、大野和美、榊建二郎、服部容子、清水真理、三浦恵津子、鈴木敏郎
委員会開催数	3 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・2024 年度 教学マネジメント委員会活動計画（案）について ・「2020 年度以降入学者カリキュラム」分析計画について ・大学院のアセスメントポリシー（案）について ・教学マネジメント委員会内ワーキンググループでのディスカッションのまとめについて ・2024 年度自己点検・評価報告書について ・2020 年度入学生の国家試験分析について [主な報告事項] ・「数字でみる天使大学」について ・大学基準協会 第4 期認証評価報告書作成分担について ・天使大学・大学院のアセスメントポリシーについて	

2024 年度 図書情報委員会活動報告

委員会組織	委員長：田畑邦治 委員：井口久美、松下真美、目時光紀、長田雅子、白石澄枝
委員会開催数	5 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・委員長代理について ・学外者の利用完全再開について ・天使大学アカウントおよび天使大学 Google アカウントの利用ルールについて ・今後の入試実施体制における入学志願者への Google アカウントの発行依頼について ・2024 年度後援会からの寄贈図書及び図書館用品について ・2024 年度後期・2025 年度前期図書館開館予定（案）・情報処理室開室予定（案）について ・教職員の貸出期間の見直しについて ・助産研究科特別統合課題研究・研究論文の取扱いについて ・2025 年度和雑誌・洋雑誌の購読継続について ・2025 年度学術データベースの継続について ・院生学習室（助産研究科）への SPSS 導入 PC の設置について ・2025 年度図書館活動計画及び予算について ・2025 年度情報処理室活動計画及び予算について ・大学基準協会第 4 期認証評価に係る点検評価報告書（案）について ・2024 年度自己点検・評価報告書 10. 図書館（案）について ・2024 年度自己点検・評価報告書 11. 情報処理システム（案）について ・2024 年度図書情報委員会活動報告（案）について ・2024 年度除籍図書（案）について ・資料選定基準：複本の受入冊数の制限について ・AV ルーム・AV ブースの利用方法について ・業務用端末の利用に関するガイドラインについて ・学生食堂及びラーニングコモンズの所管について [主な報告事項] ・2024 年度活動計画および予算について（図書館・情報処理室） ・2024 年度前期図書館開館・情報処理室開室予定表について（図書館・情報処理室） ・2024 年度発注締切日と発注書の ISBN の記載方法について ・2024 年度学術データベースのリモートアクセス用 ID・パスワードの申請について ・2024 年度製本雑誌および電子書籍の予算配分について ・看護学科・助産研究科購入和雑誌の休刊について ・図書館設置のコピー機の利用について	

- ・天使祭（6月14日(金)～15日(土)）の図書館一般公開状況報告について
- ・図書資料費執行状況について
- ・入館者・在室者数統計（図書館・情報処理室）について
- ・非常勤講師・実習指導教員の Google アカウント発行方法の変更について
- ・本学図書館「非公認キャラクター」について
- ・2024 年度日本カトリック大学連盟図書館協議会総会・実務研究会について
- ・図書館・情報処理室学生アルバイトの募集及び採用について
- ・2025 年度新規購入希望雑誌について
- ・2024 年度後期図書館開館予定表・情報処理室開室予定表について
- ・グループ学習室の利用について
- ・天使大学共通系システム更改作業の状況報告について
- ・教職員 PC 入替作業の状況報告について
- ・2025 年度和雑誌・洋雑誌の講読決定について
- ・2025 年度学術データベースの契約決定について
- ・後援会寄贈図書について
- ・文献複写等の受付申込期限について
- ・2024 年度蔵書点検について

2024 年度 宗務委員会活動報告

委員会組織	委員長：菅原 邦子 委員：田畑邦治、ケン・スレイマン、秋山雅代、神田拓登、小原琢、杉田樹美、北仁志
委員会開催数	4 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・ 宗教行事、ミサの実施について - イースターの集い - 死者追悼のミサ - クリスマス点灯式、クリスマスキャロルの放送 - クリスマスの集い - 教職員修養会ミサ - 新年のミサ - 退職する教職員への感謝ミサ - 灰の儀式（灰の水曜日） - 卒業・修了感謝のミサ - 週日のミサ ・ 学科行事における宗務的行事について - 戴帽式 - ステップアップセレモニー - 学生修養会ミサ ・ 宗務部長不在時の部長代理について ・ 建学の理念正課外教育マニュアルについて ・ チャペルアワーの実施について ・ 2024 年度宗務委員会活動計画書及び予算見積内訳書について ・ 天使大学中期計画（2024 年度～2025 年度）一覧表について ・ 宗務委員会規程の改正について ・ 2025 年度アッセンブリーアワーについて ・ 司祭館からの神父の派遣について ・ 2024 年度自己点検評価について [主な報告事項] ・ 2024 年度新入生へ建学の理念教育と宗教行事オリエンテーションについて ・ 2024 年度チャペルアワーの実施報告について ・ 2024 年度ミサの実施報告について ・ 2024 年度教職員修養会について ・ 2024 年度ミサの年間スケジュールについて ・ 2024 年度学生修養会について ・ 天使大学ホームページの宗務委員会バナーの作成について ・ 藤女子大学カトリックセンターニュースレターについて ・ 2025 年度宗務行事の見直しと実施について	

2024 年度 学生委員会活動報告

委員会組織	委員長：清水真理 委員：草野知美、小島有沙、柳澤健、吉田真弓、川口雄一
委員会開催数	10 回（2025 年 2 月 21 日まで）
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・2024 年度 役割分担について ・2024 年度 学生部長不在時の代理について ・2024 年度 合唱コンクールについて ・ウェルカムパーティーについて ・過年度学生の保険加入について ・2024 年度 天使大学海外研修について ・「ランチパーティ」の実施について ・学内における SNS 等の使用について（教務委員会より） ・天使大学中期計画案の作成について ・2024 年度海外研修の学生募集の方法を検討する ・天使大学奨学金に対するニーズを把握するための調査の内容を検討する ・令和 6 年度教育の質に係る客観的指標調査の回答案を確認し、検討する ・天使大学海外研修の参加申込状況をふまえ今後について検討する ・天使大学奨学金に対するニーズを把握するための調査の内容を検討する ・令和 6 年度教育の質に係る客観的指標調査の回答案を確認し、検討する ・「学生に関する事件・事故・不祥事等 危機管理個別マニュアル」の内容について検討する ・学生生活実態調査、卒業・修了時アンケートの質問項目を見直し、実施について検討する ・一般社団法人日本クレジットカード協会による啓発セミナーの実施を検討する ・大学基準協会第 4 期認証評価に係る点検評価報告書案の内容を検討する ・2024 年度天使大学海外研修の中止について審議し、今後の対応を検討する ・2024 年度第 2 回補正予算編成について検討する ・卒業生修了生の入校・大学施設利用に関する運用を見直す ・クレジットカードに関する啓発セミナーについて ・大学認証評価（修正案）の内容について再検討する ・2024 年度 天使大学 卒業・修了時アンケートについて実施方法を検討する ・2025 年度 学生委員会活動計画および予算編成について検討する ・卒業生の入構・施設利用について ・2024 年度 学生の安否確認訓練に関する実施内容を検討する ・障害学生支援に関する学内周知について検討する ・2025 年度活動計画書・予算見積内訳書の内容について検討する ・体育祭のタイムスケジュールをもとに、巡回指導内容および巡回シフトを確認する	

- ・学生食堂の席利用に関する新たなルールについて検討する
- ・葦の会役員を対象とした「リーダー研修会」の実施要項について検討する
- ・「学生委員と葦の会との交流会」の実施要項について検討する
- ・2025 年度学生の安否確認訓練の実施日（案）について検討する
- ・2024 年度自己点検評価報告書（案）の内容について検討する
- ・天使大学海外研修に関する検討課題について過去をふまえ確認する

[主な報告事項]

- ・2024 年度 活動計画書および予算見積内訳書について
- ・看護・栄養学科 学生支援体制について
- ・2024 年度 クラス代表・各種委員一覧について
- ・2023 年度 葦の会リーダー研修会事後報告
- ・2024 年度 喜びのわかちあい、第 1 回学生総会、部・サークル説明会 実施報告について
- ・保健相談室報告（2024 年 3 月）
- ・学生相談室報告（2024 年 3 月）
- ・学生食堂報告（2024 年 3 月）
- ・2023 年度 卒業・修了時アンケートについて（報告）
- ・2024 年度 合唱コンクールの点検評価について
- ・2024 年度 天使祭について
- ・2024 年度 葦の会役員、部・サークルについて
- ・学生食堂報告（2024 年 5 月）
- ・保健相談室報告（2024 年 5 月）
- ・学生相談室報告（2024 年 5 月）
- ・2024 年度海外研修についての報告
- ・2024 年度オフィスアワーについて
- ・2023 年度 卒業・修了時アンケート集計結果および学生生活についての調査集計結果
- ・2024 年度 天使祭の点検評価について
- ・学生食堂報告（2024 年 5 月）
- ・保健相談室報告（2024 年 5 月）
- ・学生相談室報告（2024 年 5 月）
- ・学生食堂報告（2024 年 6 月）
- ・保健相談室報告（2024 年 6 月）
- ・学生相談室報告（2024 年 6 月）
- ・学生の活動について報告する（卒業(修了)生、課外活動）
- ・学生食堂報告（2024 年 7 月）
- ・保健相談室報告（2024 年 7 月）
- ・学生相談室報告（2024 年 7 月）
- ・第 2 回藤女子大学国際交流室との意見交換会について報告する
- ・2024 年度 体育祭の進捗について報告する
- ・学生食堂報告（2024 年 8 月）
- ・保健相談室報告（2024 年 8 月）

- ・ 学生相談室報告（2024 年 8 月）
- ・ 天使大学奨学金に関するアンケートの集計結果を報告する
- ・ 札幌市司法書士会による法律教室について
- ・ 2024 年度 天使大学体育祭の進捗を報告する
- ・ 卒業（修了）アルバム制作・祝賀会の進捗を報告する
- ・ 乳がん・子宮がんの検診普及啓発事業について報告する
- ・ 学生食堂の農産物無償提供イベントについて報告する
- ・ 学生食堂報告（2024 年 9 月）
- ・ 保健相談室活動報告（2024 年 9 月）
- ・ 学生相談室活動報告（2024 年 9 月）
- ・ 2024 年度学生の方針確認訓練の集計結果を報告する
- ・ JA そらち南から天使大学への農産物贈呈式について報告する
- ・ 2025 年度 葦の会三役選挙について報告する
- ・ 2024 年度 喜びのわかちあい、第 2 回学生総会の実施について報告する
- ・ 学生食堂報告（2024 年 10 月）
- ・ 保健相談室報告（2024 年 10 月）
- ・ 学生相談室報告（2024 年 10 月）
- ・ 札幌市司法書士会による「法律教室」の点検評価を報告する
- ・ 2024 年度 天使大学体育祭の点検評価を報告する
- ・ 2024 年度 葦の会三役選挙の結果について報告する
- ・ 2024 年度 第 2 回学生総会、喜びのわかちあいの報告する
- ・ 2024 年度 葦の会から児童福祉施設「天使の園」への献金について報告する
- ・ 学生食堂報告（2024 年 11 月）
- ・ 保健相談室報告（2024 年 11 月）
- ・ 学生相談室報告（2024 年 11 月）
- ・ 学生食堂報告（2024 年 12 月）
- ・ 保健相談室報告（2024 年 12 月）
- ・ 学生相談室報告（2024 年 12 月）

2024 年度 広報委員会活動報告

委員会組織	委員長：服部 容子 委 員：小澤涼子、中洞真理子、金澤康子、坂本洋子、二宮信一、佐藤誠治
委員会開催数	7 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・2024 年度 オープンキャンパスについて ・2024 年度 第 1 回オープンキャンパスについて ・2024 年度 第 2 回オープンキャンパスについて（前振り） ・2024 年度 大学広報勉強会の在り方について ・2024 年度 前期 学報について ・教職員への広報活動協力要請について ・天使大学中期計画案について ・北星学園女子高等学校 高大連携プログラムについて ・大学案内等業者変更 ・傾向と対策の内容変更 ・藤女子高等学校との高大連携についての提案 ・IR 室と連携した天使大学アピールポイント作成検討について ・学生アンバサダーについて ・2024 年度前期 学報進捗 ・2024 年度 第 1 回オープンキャンパス振り返り ・2024 年度 第 2 回オープンキャンパスについて ・入試広報セミナーについて ・2024 年度 第 2 回オープンキャンパス振り返り ・2024 年度 第 3 回オープンキャンパスについて ・大学案内・大学院研究科案内制作方針について ・2024 年度 第 3 回オープンキャンパス振り返り ・今後の年内追加学内説明会・見学会・資料渡し日など ・2025 年度予算について ・2026 年度 大学案内・大学院案内について ・学報 38 号について（2025 年 3 月 1 日発行） ・2025 年度 オープンキャンパス日程案 ・2024 年度 第 4 回オープンキャンパス内容 ・新規学内個別相談会実施の検討 ・2024 年度 年報について	

[主な報告事項]

- ・新入生アンケート実施報告
- ・2024 年度発行 大学案内及び研究科パンフレット進捗について
- ・撮影のお願い
- ・在学生による母校訪問、母校向け天使大学を目指す皆さんへの実施について
- ・進学相談会状況
- ・2024 年度前期 学報進捗
- ・学術振興委員会企画ポスター展について
- ・2024 年度 第 3 回オープンキャンパスについて
- ・数字でみる天使大学プロジェクト 進捗状況
- ・北海道スポーツ医・科学フェスタへの参加（10/20）について
- ・栄美通信進学相談会について
- ・学報進捗状況
- ・大学ホームページ改修
- ・大学案内・大学院進捗状況
- ・新規予算決裁報告

2024 年度 F D S D 委員会活動報告

委員会組織	委員長：大野和美 委員：船木沙織、岡部哲子、唐川智幸、三浦恵津子、渡邊泰央、松田ゆかり
委員会開催数	10回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・2023 年度授業評価アンケート実施結果報告（案）について ・2023 年度授業参観実施報告書（案）について ・天使大学授業参観実施要項の改正について ・2024 年度前期授業評価アンケートの予定について ・2024 年度 F D S D 委員会開催予定について ・他部署が企画する F D 及び S D 研修会実施計画について ・2024 年度 F D S D 研修会の日程について ・学生による授業評価アンケート質問項目の改正案に関する各学科・科・研究科からの意見聴取について ・天使大学中期計画案の作成について ・「北海道 F D S D フォーラム 2024」に係るシンポジウムの講演者及び分科会の話題提供校の募集について ・2024 年度 F D S D 研修会について ・学生による授業評価アンケート質問項目の改正案に関する各学科・科・研究科からの意見について ・北海道 F D S D フォーラム 2024 の「個人発表」募集について ・2024 年度後期授業評価アンケートの予定について ・授業評価アンケートの質問項目の検討について ・2025 年度の F D 研修会及び S D 研修会について ・2025 年度活動計画及び予算について ・大学基準協会第 4 期認証評価について ・授業アンケートの質問項目の最終案について ・2026 年度以降の授業アンケートについて ・北海道 F D ・ S D 協議会の新会費の実施時期について ・2026 年度以降授業アンケート集計結果の提示方法について ・2024 年度自己点検・評価報告書の検討について [主な報告事項] ・2024 年度活動計画及び予算について ・授業評価アンケート改善報告書提出対象科目について ・各部署が主催する F D 及び S D 研修会予定の調査について ・天使大学授業参観実施要項の改正について ・令和 6 年度北海道 F D ・ S D 協議会総会について ・授業参観：対面授業の参観方法について ・令和 6 年度教育の質に係る客観的指標調査について	

- ・ 2024 年度第 2 回補正予算編成について
- ・ 令和 6 年度教育の質に係る客観的指標調査について
- ・ 北海道 F D S D フォーラム 2024 について
- ・ F D 研修会および S D 研修会のアンケート集計結果について
- ・ 2025 年度活動計画及び予算について
- ・ 2024 年度前期開講科目の授業改善計画書提出の可否について
- ・ 大学基準協会第 4 期認証評価について
- ・ 授業参観の参加状況について
- ・ 北海道 F D ・ S D 協議会臨時総会について
- ・ 新教務システムへの授業アンケート機能導入の検討及び運用について

2024 年度 学術振興委員会 活動報告

委員会組織	委員長： 神島滋子 委 員： 榊建二郎、西 隆司、片倉裕子、小原 琢、渡邊泰央
委員会開催数	5 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・ 2024 年度委員長代理について ・ 2024 年度学術振興委員会規程の確認について ・ 2024 年度科学研究費アドバイザーについて ・ 2024 年度研究のためのよろず相談について ・ 2024 年度科研費獲得の方略や研究に関する教員交流会について ・ 羊土社主催「科研費獲得ウェビナーfor2025」の参加について ・ 「F D S D 研修会実施計画報告書」申請について ・ 大学基準協会第 4 期認証評価に係る点検評価報告書（案）について ・ 2025 年度学術振興委員会活動計画（案）及び予算見積内訳書（案）について ・ 2024 年度自己点検・評価報告書（案）について ・ 2025 年度紀要第 26 巻第 1 号及び第 2 号投稿論文募集のご案内について ・ 論文剽窃のチェックについて [主な報告事項] ・ 2024 年度紀要第 25 巻第 1 号及び第 2 号の発行について	

2024 年度 地域連携等委員会活動報告

委員会組織	委員長：浅井さおり 委 員：伊織光恵、若山好美、志賀一希、蜂谷愛、目時光紀、杉浦恵子
委員会開催数	5 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・2024 年度天使大学・北海道科学大学連携公開講座について ・夕張地域医療体験の評価について ・中期計画について ・委員長不在時の委員長代理について ・「ひがしく健康・スポーツまつり 2024」について ・地域連携関係の学生ボランティア募集について ・「令和 6 年度タッピーフレンズ交流会」について ・2025 年度大学基準協会第 4 期認証評価について ・2024 年度第 2 回補正予算申請について ・2025 年度活動計画案および予算案について ・「すこやか倶楽部」（ライフステージ支援事業）への協力について ・「夕張地域医療体験」参加者募集について ・「ひがしく健康・スポーツまつり 2024」点検・評価について ・2024 年度年報 自己点検・評価報告書について [主な意見聴取事項] ・地域のニーズについての情報共有・実施連携のシステム構築について [主な報告事項] ・2024 年度活動計画書・予算について ・2023 年度年報 自己点検・評価報告書について ・令和 6 年度の東区事業（イベント等）予定について ・令和 6 年度「札幌市食育学生ボランティア養成講座」の開催について ・2024 年度天使大学・北海道科学大学連携公開講座について ・5 者連携協定 東区役所との年間連携事業について ・両親学級（助産研究科）の広報協力について ・学生ボランティア（東区役所関係）について ・令和 6 年度タッピーフレンズ交流会について ・2024 年度天使大学・北海道科学大学連携公開講座実施状況について ・札幌市地域連携プラットフォームについて	

2024 年度 就職委員会活動報告

委員会組織	委員長：鈴木 純子 委 員：峰岸まや子、田中 裕子、岩渕 絵里子、神田拓登、西川晃子
委員会開催数	6 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・委員長不在時の委員長代理について ・役割分担について ・委員会の開催日について ・2025 年度就職ガイダンス・セミナー概要一覧について ・就職相談室ニュース第 1 号～3 号の作成について ・求人開拓パンフレット「採用のご担当者の皆様へ」の作成について ・就職活動ガイドブック 2025 年度版の作成について ・天使大学中期計画（2024 年度～2025 年度）一覧表の進捗状況について ・2024 年度教育の質に係る客観的指標調査について ・看護学科学内就職説明会の開催について ・2023 年度卒業・修了生対象就職状況調査について（12 月実施） ・2024 年度就職活動と就職支援に関する調査について（2 月実施） ・2023 年度卒業生に関する就職先アンケート調査について（5 月実施） ・2025 年度大学基準協会第 4 期認証評価について ・2025 年度活動計画案及び予算案について ・2024 年度自己点検評価について ・企画調整担当から、カリキュラムの打診について [主な報告事項] ・2024 年度活動計画及び予算見積内訳書について ・2024 年度就職内定状況・就職活動支援状況等の報告について ・2024 年度就職ガイダンス・セミナーの実施状況について ・卒業生の経験談について ・2022 年度卒業・修了生対象就職状況調査の集計結果について ・2023 年度就職活動と就職支援に関する調査の結果について ・2022 年度卒業生に関する就職先アンケート集計結果について ・2023 年度卒業・修了生就職先企業等への採用礼状の発送について ・求人訪問対応報告について ・授業における公認欠席（公欠）の取り扱いについて ・補正予算の提出について	

2024 年度 研究倫理委員会活動報告

委員会組織	委員長：柳澤 健 委員：島田 啓子、日沼 千尋、小原 琢、高山 美香、大久保 岩男(学外委員)、大山 徹(学外委員)
委員会開催数	8 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・2024 年度活動目標について ・研究倫理委員長代行の指名について ・天使大学における人を対象とする研究倫理申請について（審査件数 37 件） ・倫理審査終了後の研究計画等の変更届について ・研究倫理審査申請にかかる様式の修正について ・他の研究機関への試料・情報の提供に関する手続きについて ・本学教員または院生が実施する研究に係る本学学生を対象とした研究協力依頼への対応について ・研究倫理委員会規程の一部改正について ・2024 年度年報及び活動報告書について [主な報告事項] ・倫理審査終了後の研究計画等の変更届について ・天使大学における人間を対象とする研究終了報告書について ・天使大学における人を対象とする研究の進捗状況及び研究の実施に伴う有害事象の発生状況報告書 ・他の研究機関への試料・情報の提供に関する報告書について ・2024 年度研究倫理研修会について	

2024 年度 キャンパス・ハラスメント対策委員会活動報告

委員会組織	委員長：唐川智幸 委員：中川幸恵、岩間久哉、清水真理、草野知美、吉田真弓、片倉裕子
委員会開催数	4 回（内紙面審議 1 回）
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・委員長代理の選任について ・キャンパス・ハラスメント対策委員会年間スケジュールについて ・キャンパス・ハラスメント講演会について ・天使大学中期計画について ・教職員向けハラスメント研修会について ・ハラスメント実態調査アンケート実施時期案について ・2023 年度学生生活実態調査のハラスメントに関する回答における対応について ・天使大学キャンパス・ハラスメントの防止等に関する規程の一部改正について ・2025 年度ハラスメント講演会の日程について ・2025 年度予算案及び活動計画書案について ・2024 年度年報原稿（案）について [主な報告事項] ・キャンパス・ハラスメント対策委員会 2024 年度予算について ・2024 年度ハラスメントに関する相談窓口について ・2023 年度ハラスメント実態調査アンケートについて ・キャンパス・ハラスメント講演会について	

2024 年度 I R 委員会活動報告

委員会組織	委員長：榊 建二郎 委 員：横山 聖美、高桑 暁子、唐川 智幸、中田 かおり
委員会開催数	3 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・委員長代行の指名について ・2024 年度 IR 委員会活動計画について ・2024 年度 IR 室分析予定について ・「数字で見る天使大学」作成プロジェクトについて ・2025 年度 IR 委員会予算について ・2024 年度 IR 委員会主催 FD 研修会の開催について ・2024 年度年報及び活動報告書について ・2020 年度卒業生の国試分析結果について [主な報告事項] ・IR 室及び IR 委員会業務分担表について ・データから見てくる天使大学について ・DSIR（国際会議）における論文発表について	

2024 年度 大学院入試委員会活動報告

委員会組織	委員長：西隆司 委員：服部容子、大野和美、鈴木純子、長谷川めぐみ、島田啓子、杉浦恵子、佐藤誠治
委員会開催数	7 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・ 委員長代理について ・ 2025 年度 大学院入学者選抜日程について ・ 2025 年度 大学院入学者選拔出題者について ・ 2025 年度 大学院入学者選抜要項について ・ 2025 年度 入学者選抜問題の確認について ・ 合格者決定の流れについて ・ 看護学専攻（保健師コース）および助産研究科推薦型選抜推薦書の取扱いについて ・ 2025 年度 大学院入学者選抜実施体制について ・ 助産研究科入学者選抜について ・ 入学前課題について ・ 助産研究科推薦型選抜可否判定について ・ 助産研究科Ⅰ期入学者選抜可否判定について ・ 助産研究科の出願資格について ・ 助産研究科社会人選抜（小論文）の試験時間について ・ 面接グループ分けについて ・ 推薦型選抜（学内推薦含む）について ・ 栄養管理学専攻博士前期課程の試験科目について ・ 2026 年度 入学者選抜日程について ・ 2025 年度 大学院入試委員会予算について ・ 大学基準協会第 4 期認証評価に係る点検評価報告書等の作成について ・ 助産研究科可否判定基準について ・ 両研究科可否判定資料の記載内容について ・ 推薦型選抜について ・ 栄養管理学専攻博士後期課程の試験科目免除について	

[主な報告事項]

- ・ 大学院入試委員会規程の確認
- ・ 看護栄養学研究科及び助産研究科活動計画書の確認
- ・ 各研究科・専攻で使用している評価票及び合否判定基準について
- ・ 2024 年度 天使大学・大学院入学者選抜結果
- ・ 2025 年度 入学者選抜要項について（完成）
- ・ 9 月看護学専攻・助産研究科推薦型選抜について
- ・ 次年度以降の小論文試験時間について
- ・ 障がいを持つ志願者への対応について

2024 年度 助産研究科教務委員会活動報告

委員会組織	委員長：島田 啓子 委員：杉浦 恵子、中田 かおり、片倉 裕子、三浦 恵津子、長田 雅子、 椿 麻衣子、杉田 樹美
委員会開催数	13 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・教員委嘱・担当：非常勤講師・特別講師・授業科目担当者の委嘱と確認 (第 1 回 (4/1)、第 2 回 (4/23)、第 6 回 (9/3)、第 10 回 (1/10)、第 12 回 (2/21)、第 13 回 (3/11)) ・試験・評価：前期・後期・最終試験の評価方法・日程、試験時間割 等について (第 2 回 (4/23)、第 7 回 (10/1)、第 10 回 (1/10)、第 11 回 (1/31)) ・実習関連：実習指導教員の委嘱、実習計画・実習施設の確認 (第 2 回 (4/23)・第 6 回 (9/3)、第 8 回 (10/29)) ・教育課程・カリキュラム：教育計画表・学事暦の検討、開講期間変更、科目配置と開講形態 (第 8 回 (10/29)・第 9 回 (12/6)・第 10 回 (1/10)、第 11 回 (1/31)、第 12 回 (2/21)) ・成績・修了判定関連：到達度評価、修了判定、成績入力、成績承認 (第 6 回 (9/3)、第 11 回 (1/31)、第 12 回 (2/21)) ・次年度オリエンテーション・施設：使用教室、ガイダンス、オリエンテーション内容の検討 (第 11 回 (1/31)、第 13 回 (3/11)) ・臨床指導者会議：開催案内、実施形態（ハイブリッド形式）の確認など (第 5 回 (7/26)、第 10 回 (1/10)、第 12 回 (2/21)、第 13 回 (3/11)) ・予算編成：次年度予算の策定に向けた検討、物品・人件費・旅費・連携会議等 (第 7 回 (10/1)、第 8 回 (10/29)、第 9 回 (12/6)) [主な報告事項] ・授業時の座席配置や各種ガイダンスの共有（第 1 回、第 4 回） ・学籍異動に関する報告（第 2 回） ・教育課程連携協議会の開催報告（第 4 回） ・成績入力スケジュールの確認（第 11 回） ・実習中の感染症対応（第 8 回） ・修了式の代替案の検討（第 8 回）	

2024 年度 助産研究科広報委員会活動報告

委員会組織	委員長：杉浦恵子 委 員：島田啓子、中田かおり、片倉裕子、三浦恵津子、佐藤誠治
委員会開催数	2 回
審議・報告事項	
[主な審議事項] ・2024 年度 助産研究科 WEB 進学説明会（6/1 実施） ・2024 年度 助産研究科オープンキャンパス第 2 回説明会（8/10） ・次年度パンフレット作成方針 ・次年度オープンキャンパス時期の検討 ・次年度予算の検討 [主な報告事項] ・新入生アンケートの実施 ・ ・	

14. 図書館利用状況

IX-表1 2024年度入館者数統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	2,476	2,935	3,401	5,511	1,990	2,454	3,163	1,988	2,473	3,915	1,849	210	32,365

IX-表2 2024年度図書・視聴覚資料貸出統計

所 属	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護学科	284	540	821	827	764	831	1034	659	153	119	144	27	6,203
栄養学科	144	189	191	236	95	99	151	108	79	79	98	2	1,471
助産研究科	176	43	69	31	29	33	36	34	42	59	41	3	596
看護栄養学研究科 看護学専攻	16	52	0	11	6	27	21	23	19	0	0	0	175
看護栄養学研究科 栄養管理学専攻 博士前期課程	7	8	8	4	5	5	3	5	9	0	0	0	54
看護栄養学研究科 栄養管理学専攻 博士後期課程	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
教職員	214	159	99	88	103	91	116	91	72	116	74	126	1,349
相互利用	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
旧教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学外者 (非常勤講師・実習指導 教員・臨床指導者)	5	13	16	7	11	5	3	4	0	0	1	5	70
卒業生	0	3	5	8	2	5	3	6	0	0	0	0	32
合計	846	1,010	1,209	1,212	1,015	1,096	1,368	930	374	373	358	163	9,954

15. 情報処理室の利用状況

年間利用状況

学科・学年 室	看護学科				看護 小計	栄養学科				栄養 小計	各室 計
	1年	2年	3年	4年		1年	2年	3年	4年		
4301室(日中)	360	483	1,424	1,277	3,544	160	477	2,080	1,029	3,746	7,290
4301室(夜間)	34	57	183	159	433	24	55	98	54	231	664
4302室(日中)	1,911	1,061	1,080	890	4,942	1,132	1,963	3,773	1,054	7,922	12,864
4302室(夜間)	49	147	156	150	502	26	96	69	59	250	752
総 計	2,354	1,748	2,843	2,476	9,421	1,342	2,591	6,020	2,196	12,149	21,570

月別学科学年利用状況

学科・学年 月	看護学科				看護 小計	栄養学科				栄養 小計	各室 計
	1年	2年	3年	4年		1年	2年	3年	4年		
4	376	81	147	256	860	282	76	643	232	1,233	2,093
5	359	239	288	297	1,183	275	92	749	198	1,314	2,497
6	358	305	317	366	1,346	268	89	526	260	1,143	2,489
7	440	208	254	319	1,221	301	212	850	401	1,764	2,985
8	19	20	114	153	306	17	38	256	101	412	718
9	27	104	275	316	722	21	88	1,493	181	1,783	2,505
10	168	315	428	287	1,198	44	148	450	282	924	2,122
11	292	206	286	274	1,058	45	367	145	152	709	1,767
12	197	138	200	114	649	54	675	382	175	1,286	1,935
1	91	101	383	68	643	28	753	366	91	1,238	1,881
2	23	28	131	21	203	7	50	131	114	302	505
3	4	3	20	5	32	1	3	29	8	41	73
総 計	2,354	1,748	2,843	2,476	9,421	1,343	2,591	6,020	2,195	12,149	21,570

16. 施設・設備の状況

大学設置基準との対比

(単位：㎡)

	本学の現有面積	大学設置基準面積	大学設置基準との差
校地面積	30,390	7,600	22,790
校舎面積	18,024	6,744	11,280

校舎内訳

	建設年	経過年数	面積(㎡)	備考
1号館	1976 (S51)	45	928.53	2階建 (耐震構造)
2号館	2020 (R2)	1	5,393.45	6階建 (耐震構造)
3号館	1963 (S38)	58	1,977.11	3階建 (耐震補強済)
4号館	1971 (S46)	50	2,428.96	3階建 (耐震補強済)
5号館	1980 (S55)	41	396.27	2階建 (耐震構造)
6号館	2000 (H12)	21	2,668.40	6階建 (耐震構造)
7号館	2002 (H14)	19	2,330.13	4階建 (耐震構造)
8号館	2004 (H 7)	17	1,855.69	4階建 (耐震構造)
中沼グランド更衣室等	1992 (H 4)	29	79.38	平屋建
計	—	—	18,057.91	

学部・大学院研究科ごとの講義室、演習室等の面積・規模

学部・研究科	講義室・演習室・学生学習室等	室数	総面積(㎡)	専用・共用の別	収容人員(総数)	学生総数	在学生1人当り面積(㎡)	備考
看護栄養学部	講義室	14	1,947	共用	1,634	778	2.50	看護栄養学研究科と共用
	演習室	15	673	共用	373	820	0.82	大学院と共用
	学生学習室	3	441	共用	250	820	0.54	大学院と共用
看護栄養学研究科	講義室							
	学生学習室	3	441	共用	250	820	0.54	看護栄養学部、助産研究科と共用
助産研究科	講義室	2	227	専用	135	42	5.40	
	学生学習室	3	441	共用	250	820	0.54	看護栄養学部、看護栄養学研究科と共用
体育館／講堂		1	725					

学部 of 学生用実験・実習室の面積・規模

分 類	室 名	収容人数	面積 (㎡)	1人当り面積 (㎡)
実験・実習室 (看護学科)	2 3 0 2 看護実習室	100	416	4.16
	第1 看護実習室	100	346	3.46
	第2 看護実習室	10	41	4.10
	第3 看護実習室	20	46	2.30
	第4 看護実習室	10	23	2.30
	第5 看護実習室	10	27	2.70
実験・実習室 (栄養学科)	理化学実験室	60	262	4.37
	生理学実験室・微生物学実験室	65	397	6.11
	動物実験室	5	6	1.20
	給食経営管理自習室・実習食堂	130	350	2.69
	第2臨床栄養実習室	60	386	6.43
	官能検査室	10	30	3.00
	食品・調理実験実習室(準備室含む)	60	250	4.17
	第1 カウンセリング室	3	8	2.67
	第2 カウンセリング室	3	9	3.00
	栄養教育実習室	60	155	2.58
	第1 臨床栄養実習室	15	45	3.00
実験・実習室(共通)	和室	10	69	6.90
情報処理室	第1 情報処理室	60	113	1.88
	第2 情報処理室	56	138	2.46
計		747	2,701	3.62

大学院 of 学生用実験・実習室の面積・規模

分 類	室数	総面積 (㎡)	収容人数 (総数)	収容人員1人 当りの面積 (㎡)	使用研究科等	備考
実習室	18	2,874	783	3.67	看護栄養学研究科	看護栄養学部と共用
実習室	1	174	40	4.35	助産研究科	
計	19	3,048	823	3.70	—	—

17. 財務状況

貸借対照表関係の財務比率表

(%)

	分類	比率	評価	算式	本学園	他法人
1	自己資金は充実しているか	純資産構成比率	△	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	75.4	84.8
2		繰越収支差額構成比率	△	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	△16.4	△24.6
3		基本金比率	△	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	90.6	97.4
4		積立率	△	$\frac{\text{運用資産}}{\text{基本金要組入額}}$	88.9	61.5
5	長期資金で固定資産は賄われているか	固定比率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資金}}$	91.2	100.7
6		固定長期適合率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	77.4	92.4
7	資産構成はどうなっているか	固定資産構成比率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	68.8	85.4
8		有形固定資産構成比率	▼	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	57.7	63.1
9		特定資産構成比率	△	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	10.5	19.8
10		流動資産構成比率	△	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	31.1	14.5
11		減価償却比率（図書を除く）	～	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得額}}$	46.2	56.1
12	負債に備える資産が蓄積されているか	内部留保資産比率	△	$\frac{\text{運用資産} - \text{総負債}}{\text{総資産}}$	16.6	15.7
13		運用資産余裕比率（単位：年）	△	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	1.3	0.2
14		流動比率	△	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	278.9	192.3
15		前受金保有率	△	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	332.2	412.8
16		退職給与引当特定資産保有率	△	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	89.0	35.6
17	負債の割合はどうか	固定負債構成比率	▼	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債} + \text{純資金}}$	13.4	7.5
18		流動負債構成比率	▼	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債} + \text{純資金}}$	11.1	7.5
19		総負債比率	▼	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	24.5	15.1
20		負債比率	▼	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	32.6	17.8

（注1）「評価」は△：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらともいえない を示す。

（注2）「他法人」は収容定員500～1000名の保健系学部を有する全国11法人の2022年度決算額の平均。

事業活動収支計算書関係の財務比率表

(%)

	分類	比率	評価	算式	本学園	他法人
1	経営状況はどうか	事業活動収支差額比率	△	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△0.8	△1.2
2		経常収支差額比率	△	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	△0.8	△2.1
3		教育活動収支差額比率	△	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	△0.6	△2.4
4	収入構成はどうか なっているか	学生生徒等納付金比率	～	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	78.7	32.1
5		寄付金比率	△	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	1.3	3.6
6		補助金比率	△	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	17.5	9.6
7	支出構成は適切であるか	人件費比率	▼	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	62.6	53.6
8		教育研究経費比率	△	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	32.6	41.5
9		管理経費比率	▼	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	5.4	7.0
10		借入金等利息比率	▼	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.2	0.0
11		基本金組入率	△	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	2.0	7.4
12		減価償却費比率	～	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	12.4	5.8
13	収入と支出のバランスは取れているか	人件費依存率	▼	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	79.6	166.9
14		基本金組入後収支比率	▼	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入－基本金組入額}}$	102.9	109.3

活動区分資金収支計算書関係の財務比率表

(%)

	分類	比率	評価	算式	本学園	他法人
1	経営状況はどうか	教育活動資金収支差額比率	△	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	12.8	5.8

2024 年度 内部質保証推進委員会

委員長： 日沼 千尋（看護学専攻）

委員： 榊 建二郎（看護学科）

岡部 哲子（栄養学科）

川口 雄一（教養教育科）

鈴木 純子（栄養管理学専攻）

島田 啓子（助産研究科）

岩間 久哉（事務局長）

事務局： 上村 俊哉（総務課）

2024年度

天使大学 看護栄養学部
天使大学大学院 看護栄養学研究科
天使大学大学院 助産研究科

年 報
－自己点検・評価報告書－

2025 年 6 月完成
内部質保証推進委員会

天使大学

〒065-0013 北海道札幌市東区北 13 条東 3 丁目 1 番 30 号

TEL 011-741-1051 FAX 011-741-1077

<https://www.tenshi.ac.jp>
